

専 門 分 野

基 礎 看 護 学

看護学概論

開講時期	I	単位数	1	時間数	3 0 時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	看護の意義と歴史的変遷を知り、看護の概念を学ぶ				
評価方法	筆記試験 1 0 0 点	認定基準	6 0 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	医療・看護に関わる動向について 日頃から関心をもつこと グループワーク・発表があるとき には資料作成と発表会準備が必要	テキスト	看護学概論（医学書院）看護者の基本的責務 ナイチンゲール『看護覚え書き』 ヘンダーソン『看護の基本となるもの』 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	看護とは 1. 看護とは何かについて理解する 2. 看護の本質について理解する	序章 看護を学ぶにあたって 1. 看護の本質 1) 看護の変遷 2) 看護の定義 資料1 主要な看護理論家の看護概念 資料2 戦後における看護の変遷 資料4 看護にかかわる定義および綱領 3) 現代の動向と今後の展望 2. 看護の役割と機能 1) 看護ケアについて 2) 看護実践とその質保証に必要な要件 3) 看護の役割・機能の拡大 3. 看護の継続性と連携 1) 看護における情報伝達と共有 2) 多職種チームとしての情報共有と継続的にかかわり 3) 在宅療養を可能にする連携と継続的なかかわり	1. 看護の歴史の変遷とさまざまな理論家による看護の定義を学び、看護の本質とはなにかについて述べることができる 2. 看護行為の本質とケアのさまざまな概念と看護におけるケアとはなにかを述べることができる 3. 看護実践に必要な要素・看護実践の質の保証に必要な要件を述べることができる 4. 看護と多職種の連携と実際の重要性を述べることができる	講義
3 4	4	看護の対象の理解 1. 看護の対象である人間の「こころ」と「からだ」について理解する	1. 人間の「こころ」と「からだ」 1) 対象理解の基盤となる人体の構造と機能・病態生理 2) 看護の使命と結びつくホメオスタシス 3) 「こころ」と「からだ」にかかるストレスの影響 4) 患者心理（病気による「こころ」の変化）の理解 5) 対象者の「こころ」の理解に役だつさまざまな理論 2. 生涯発達しつづける存在としての人間 1) 身体的発育 2) 心理・社会的側面における発達 3. 人間の「暮らし」の理解 1) 生活者としての人間：「生活」の4つの側面 2) 看護の対象としての家族・集団・地域	1. 人間理解の基盤となる看護と関連づけられる生理学・心理学の様々な理論とそれの理論が看護実践にどう用されるのかを述べることができる 2. 心理・社会的課題をかかえて成長する存在である人間について述べることができる 3. 生活者である人間に対して、看護の役割と看護の対象について述べることができる	講義
5 6	4	国民の健康状態と生活 1. 生活の中の健康を知ること で看護のあり方を理解する 2. 国民のライフサイクルと健康生活について理解する 3. 現代の社会的背景をふまえ、日本人の健康と生活について理解する	1. 健康のとらえ方 1) 健康とはなにか 2) 健康でない状態とはどのようなものか 3) 障害とはなにか 4) 健康と生活 2. 国民の健康状態 1) 国民の健康の全体像 2) 子どもの成長と健康 3) 高齢者と介護 3. 国民のライフサイクル 1) 平均寿命と出生 2) 結婚と出産 3) 家族	1. 健康とはなにか、健康をどのようにとらえるべきか述べることができる 2. 障害とはなにか障害をどのようにとらえるべきかを述べることができる 3. 健康と障害、生活の関係を述べることができる 4. 主要な公的統計の結果から国民全体の健康と生活と、現代の国民の健康と生活考えるうえで重要ないくつかの視点を述べることができる	講義・演習

7	2	看護の提供者 1. 職業としての「看護」について理解する	1. 職業としての看護 1) 職業としての看護のはじまり（明治期から第二次世界大戦終結までの看護） 2) 職業としての看護の確立（終戦時から昭和中期の看護） 3) 職業としての看護の充実（昭和後期から平成初期の看護） 4) 職業としての看護の発展（現在の看護） 5) 職業としての看護の新たな展開（これからの看護） 2. 看護職の資格・養成制度・就業状況 1) 看護職の資格 2) 看護職の養成制度 3) 看護職者の就業状況 3. 看護職の継続教育とキャリア開発 1) 看護における継続教育 2) 専門看護師・認定看護師・認定看護管理者 4. 看護職の養成制度の課題 1) 看護職養成の場としくみに関する課題 2) 看護基礎教育の内容・方法をめぐる検討 3) 「特定行為に係る看護師の研修制度」の開始	1. 看護職の成立と発展，現在のカタチになるまでの経緯、看護職（看護師・准看護師・保健師・助産師の資格と養成制度、看護職者の就業状況と免許取得後の継続教育と、看護職としての「キャリア開発」について述べることができる	講義
8 9	4	看護における倫理 1. 看護における倫理について理解する	1. 現代社会と倫理 1) 倫理について 2) 職業倫理としての看護倫理 2. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 1) 患者の権利とインフォームドコンセント 2) 患者の意思決定支援と守秘義務 3) 現代医療におけるさまざまな倫理的問題 4) 医療専門職の倫理規定 3. 看護実践における倫理問題への取り組み 1) 看護の本質としての看護倫理 2) 医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 3) 看護実践場面での倫理的ジレンマ 4) 倫理的課題に取り組むためのしくみ	1. 倫理とは、なぜ倫理を学ぶ必要があるのかを述べるができる 2. 看護をめぐる倫理的問題について、看護師の倫理規定述べるができる 3. 医療・看護をめぐる倫理原則を理解し、倫理的問題や倫理的ジレンマの解決にどのように取り組むべきかを述べるができる	講義
10 11 12	6	看護の提供のしくみ 1. サービスとは何かをとらえたうえで、サービスとしての看護を理解する 2. 医療安全と医療の質保証について理解する	1. サービスとしての看護 1) 「看護とはなにか」の3つの視点 2) 3つの視点の相互関連 2. 看護サービス提供の場 1) 看護サービスの担い手とチーム医療 2) 看護サービス提供の場 ①医療施設における看護 ②地域における看護 ③継続看護 3. 看護をめぐる制度と政策 1) 看護制度－看護サービスと看護職者にかかわる法制度 2) 看護政策－法をつくり，実行するしくみとその過程 3) 看護サービスと経済のしくみ－診療報酬と人員配置 4) 看護の人員配置基準と看護サービスの評価 4. 看護サービスの管理 1) 看護サービスの管理とは 2) 看護管理システム 3) 組織 4) リーダーシップとフォロワーシップ 5) 人的資源の管理 5. 医療安全と医療の質保証 1) 医療事故の増加 2) 医療事故の要因と医療の質の向上 3) ヒューマンエラーと医療事故 4) 看護業務の特性と医療事故 5) 医療事故防止対策としてのインシデントレポートの活用 6) 医療安全における医療者と患者の協働の必要性	1. 看護におけるサービスという考え方について述べるができる 2. チーム医療に携わるさまざまな職種と、チームの機能述べるができる 3. 看護サービスの提供の場とサービスの内容を述べるができる 4. 看護にかかわるさまざまな法制度を述べることができる 5. 看護サービスの管理についてその対象や組織・リーダーシップの概要とともに述べるができる 6. 医療事故がおこる過程と防止するための対策について述べることができる	講義

13 14	4	広がる看護の活動領域 1. 国際化と看護について理解する 2. 災害時における看護について理解する	1. 国際化と看護 1) 国際看護学とはなにか 2) 健康と保健医療の世界的課題 3) 国際協力のしくみ 4) 国際看護活動の展開 5) 日本に在留する外国人の看護 6) 異文化理解 2. 災害時における看護 1) 災害看護の概念と構造 2) 災害と健康 3) 災害サイクルにそった看護活動 4) 心理的回復の過程 5) 災害への備えとそのシステム	1. 国際看護学のこれまでの流れ、国際協力にはどのような組織・しくみ、国際保健の基本理念を把握し、国際看護活動の展開と日本に在留する外国人への看護の実際を述べることができる 2. 災害看護の特徴、災害サイクルにそった看護活動、どのような備えが必要である述べるができる	講義
15	2	単位認定終講試験			

看護研究

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	非常勤講師	実務経験		有	
科目目標	1. 看護学における看護研究の意義目的とその方法が理解できる 2. 研究的視点と論理的思考を持ち備えて看護の実践評価ができる				
評価方法	課題提出 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	医療・看護に関わる動向について 日頃から関心をもつこと グループワーク・発表があるときには資料作成と発表会準備が必要	テキスト	看護研究（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	看護研究とは 1. 看護研究概要を理解することができる	1. 看護研究とは何か 2. なぜ看護研究を学ぶのか 3. 看護研究の歴史 4. 看護研究への期待	1. 看護研究とは何か、その役割と特徴となぜ看護研究を学ぶ必要があるのか看護研究がどのように発展してきたかを述べるができる 2. 最良のケアを実践するための方法、および科学的根拠（エビデンス）に基づいた実践という考え方の基本を述べる 3. 健康問題に対応するために看護研究の推進がなぜ不可欠かを述べるができる	講義
2	2	看護研究のはじめ方 1. 研究の進め方の実際について理解することができる	1. リサーチクエスションとは 2. リサーチクエスション決定までのプロセス	1. 研究におけるリサーチクエスションの重要性、疑問をリサーチクエスションにするプロセス、リサーチクエスションを精練する方法を述べるができる	講義
3	2	情報の探索と吟味 1. 文献レビューとその方法について理解することができる	1. 情報と科学的な根拠 2. 文献とその種類 3. 文献レビューとその目的 4. 文献検索の方法 5. 文献の入手と整理 6. 文献の読み方 6. 文献レビューの記述	1. 看護ケアの根拠とすべき情報とは何かを理解する 2. 文献の種類と読むべき優先順位、文献レビューとその目的、文献検索データベースを使った文献検索の方法を述べるができる 3. 文献検索を行い、文献クリティークの方法、文献検討の記述方法を述べるができる	講義
4	2	研究における倫理的配慮 1. 研究における倫理的配慮の具体的方法について理解することができる	1. 研究における倫理的配慮の原則 2. 研究における依頼と同意 3. 特別な配慮が必要な場合の対応 4. 依頼書、同意書の例	1. 看護研究においてどのような倫理的行動が必要か、看護研究において遵守すべき4つの倫理原則とそれに応じた擁護すべき権利を述べるができる 2. 倫理原則にそった依頼書の書き方と同意のとり方と依頼と同意に際して特別な配慮が必要な場合の対応を述べるができる	講義
5	2	研究デザイン 1. 研究の設計と選択方法について理解	1. 看護における研究デザインの多様性 2. 研究デザインの選択	1. なぜ、看護学においては多様な研究デザインが必要かを述べるができる 2. リサーチクエスションのレベルに適した研究デ	講義

		することができる	3. 研究デザインの整理 4. 質的研究デザイン 5. 量的研究デザイン 6. ミックスドメソッド 7. 尺度開発	デザインとそれぞれの研究デザインの概要を述べる ことができる	
6	2	データの収集 データの分析 1. 研究デザインに応じたデータ収集・分析の方法について理解することができる	1. データとは 2. 標本の選択－誰からデータを集めるか 3. データ収集法について－どのデータをどのように集めるか 4. インタビューデータの収集 5. アンケートデータの収集 6. 観察データの収集 7. 生理学的測定データ、その他のデータの収集 8. 開発された尺度の活用 9. 質的データ分析 10. 量的データ分析	1. 研究対象と集めるべきデータの選定、およびデータの収集方法、標本の選択の考え方と方法を述べる 2. 質的データ分析の特徴と量的データ分析の手順を述べる 3. 適切な研究対象を選び、データの収集方法、適切なデータを適切な方法で、データの入力・整理方法の基本、集めたデータの特徴のつかみ方（分布、代表値の把握）を身につける 4. 統計学的仮説検定とは何かを理解し、変数の関連についての初歩的な検定方法を述べる	講義
7	2	研究計画書の作成 1. 研究計画書の作成の具体的方法について理解することができる	1. 研究計画書とは 2. 研究計画書の書式と書き方 3. 研究計画書の例	1. 研究計画書を作成する意義と目的、研究計画書の書式と記載内容を述べる 2. 自分の研究について研究計画書を作成できる	講義
8	2	研究を伝える 1. 学会発表・論文作成などの発表の成果について理解することができる	1. 研究成果をまとめる 2. 研究成果を伝える	1. 研究成果の公表方法、研究成果を論文にまとめて投稿する意義、論文の構成と書き方、研究成果をまとめる方法を述べる	講義 演習
9	2	ケースレポート・事例研究・調査研究・文献研究・実践報告の進め方 1. 種々の研究方法について理解することができる	1. ケースレポート 2. 事例研究 3. 事例介入研究 4. 実態調査研究の進め方 5. 相関研究の進め方 6. 文献研究 7. 実践報告	1. ケースレポートと事例研究の違いを理解し、ケースレポートと事例研究の目的と意義、方法を述べる 2. 研究の一手法である事例介入研究と実態調査研究、相関研究の意義・方法を述べる	講義
10 11 12 13 14 15	12	看護研究発表 1. テーマに沿った研究成果を発表し研究的視点で学びを深めることができる	1. 看護研究計画書作成 2. 文献検索 3. 論文作成 4. 看護研究プレゼンテーション	1. 文献研究・実践報告の意義を理解し、文献検討し、研究の進め方を理解した上で研究計画書を作成できる 2. 看護実践の質向上に役だつ実践報告のかたちと進め方を述べる	講義 演習

家族看護学

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	1 5 時間
教員名	臨床講師	実務経験		有 大阪労災病院勤務 家族看護 専門看護師	
科目目標	1. 看護の対象としての家族の特性がわかる 2. 家族を1つの単位として捉える意義がわかる 3. 家族看護の理論がわかる 4. 家族支援の考え方がわかる				
評価方法	筆記試験 1 0 0 点	認定基準	6 0 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	医療・看護に関わる動向について 日頃から関心をもつこと グループワーク・発表があるとき には資料作成と発表会準備が必要	テキスト	家族看護学（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	家族看護とは 1. なぜ家族看護を学ぶ必要があるのかを考える 2. 家族看護の特徴と看護実践の場面を学ぶ	1. 家族看護の特徴と理念 1) なぜ家族看護を学ぶのか 2) 家族看護の発展と変遷 3) 家族看護の特徴 4) 家族看護の目指すところ 2. 家族看護の実践の場面 1) 家族員が疾患や障がいをもつ家族 2) ライフサイクルと家族 3) コミュニティと家族	1. 家族看護を学ぶ意義を述べることができる	講義
2 3	4	家族看護の対象理解 1. 家族の概念から構造と機能を理解する 2. 家族機能をふまえて、現代における課題を理解する	1. 家族とは 1) 隣接領域における家族のとらえ方 2) 看護学からみた家族のとらえ方 3) 家族の健康 2. 家族構造 1) 家族構造とは 2) 血縁関係と親族関係を把握する方法 3) チーム医療での活用 3. 家族機能 1) 家族の育児機能 2) 家族のセルフケア機能 3) 社会における家族機能 4) 変化する家族機能 5) 家族機能を把握するためのモデルと方法 4. 現代の家族とその課題 1) 現代家族の様相 2) 現代家族の課題	1. 家族をどのようにとらえるか述べることができる 2. 家族の機能について述べることができる	講義
4 5	4	家族看護を支える理論と介入法 1. 家族を理解するための様々な理論と介入を理解する 2. 家族に変化をもたらす介入を学ぶ	1. 家族を理解するための理論 1) 家族発達理論 2) 家族システム理論 2. 家族の変化を把握するための理論(家族ストレス対処理論) 1) ABCX モデルとジェットコースターモデル 2) 二重 ABCX モデル 3) 家族ストレス・順応・適応の回復モデル 3. 家族に変化をもたらすための介入 1) 家族療法 2) 家族を支える介入	1. 家族理解するための理論にはどのようなものがあるか述べる 2. 家族を支える介入方法について理解できる	講義
6 7	4	家族看護展開の方法 1. 家族看護過程に必要な視点を学ぶ 2. 家族看護実践につなげる看護過程(情報収集・家族アセスメント・問題の明確化・看護目標の設定・計画の立案・評価)を学ぶ 3. さまざまなアセスメントモデルを理解する	1. 家族看護過程とは 1) 家族看護過程の視点 2) 家族看護過程の枠組み 3) 患者個人と家族の看護過程の違い 2. 家族看護の実践 1) 情報収集 2) 家族アセスメント 3) 家族の看護問題の明確化 4) 家族看護計画の立案 5) 家族看護の実施 6) 家族看護実践の評価 7) 家族看護の多職種連携 3. さまざまな家族アセスメントモデル 1) フリードマンとハンソンのアセスメントモデル 2) 鈴木のアセスメントモデル 3) カルガリー家族看護モデル 4) 家族看護エンパワーメントモデル 5) 渡辺式家族アセスメントモデル	1. 家族看護過程についての視点、枠組みを理解できる 2. 家族看護過程のポイントを理解し、展開方法を述べる 3. 実践につながるアセスメントモデルを述べる ことができる	講義
8	1	単位認定終講試験			

基礎看護技術 I

開講時期	I	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. 看護技術を看護実践の中で活用することの意味と、看護実践の基盤となる考え方について学ぶ 2. コミュニケーションの基礎知識を理解し、他者との関係を構築するための適切な方法を習得する 3. 感染防止の基礎知識を理解し、施設内で発生する院内感染を防止するための技術を習得する 4. 人間にとっての環境の意味を理解し、生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する 5. 活動・休息の意味を理解し、基本的活動と睡眠の基礎知識と必要な援助方法を習得する 6. 苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護行為について理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	事前に配布された課題を行うこと。	テキスト	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 （医学書院） ナイチンゲール『看護覚え書』（現代社） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	看護技術を学ぶにあたって 1. 看護技術とは何かを理解する 2. 看護技術の範囲を理解する 3. 看護技術を適切に実践するための要素を理解する	1. 技術とはなにか 1) 行為を可能にする原理 2) 技術適用と倫理的側面 2. 看護技術の特徴 1) 全人的なかかわりが求められる 2) 人間関係を基盤とする 3) 状況変化への対応が求められる 4) 対象者の権利擁護が求められる 5) 倫理的判断が求められる 3. 看護技術の範囲 4. 看護技術を適切に実践するための要素 1) 看護技術の目的を把握する 2) 正確な方法を熟知する 3) 看護技術の根拠を考える 4) 対象者への適用意義と個別性を考慮する 5) 患者自身の決定を支援する 6) 安全・安楽を確保する 7) プライバシーを保護する 8) 対象者の状態や反応を確認しながら実施する 9) 実施後の客観的評価と主観的評価 5. 看護技術の発展と修得のために 1) 技能と技術 2) 技能から技術へ 3) 技術を技能へー良質な看護実践者になるために	1. 看護技術とは何かを述べる ことができる 2. 看護技術の範囲を述べる ことができる 3. 看護基本技術を支える態度 や行為の構成要素の考え方を 参考に、さまざまな看護 技術を実施する際に共通し て含まれるべき要素につい て考えることができる	講義
2 3	4	コミュニケーション 1. コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解する 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、ミスコミュニケーションを避け、適切なメッセージを	1. コミュニケーションの意義と目的 1) コミュニケーションとは 2) 看護・医療におけるコミュニケーション 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 1) コミュニケーション手段 2) 構成要素と成立過程 3) ミスコミュニケーション 4) 看護専門職として備えるべきコミュニケーション能力向上のポイント 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 1) 接近的コミュニケーションの原理 2) 接近的コミュニケーションの前提となる基本的な態度 3) 接近的行動と非接近的行動 4) 接近的コミュニケーションを成立させるための基盤 4. 効果的なコミュニケーションの実践 1) 傾聴の技術 2) 情報収集の技術	1. 看護におけるコミュニケーションの意義と目的を述べる ことができる 2. コミュニケーションの構成 要素と成立過程について述 べる ことができる 3. 適切なメッセージを伝える 方法について述べる ことができる 4. コミュニケーションに障害 がある人の特徴と効果的な 対応について述べる ことができる	講義

		伝える方法を学ぶ 3. コミュニケーションの基本的な方法について学び、それを実践する 4. コミュニケーション障害がある人の特徴と効果的な対応を学ぶ	3) 説明の技術 4) アサーティブネス 5. コミュニケーション障害への対応 1) コミュニケーションに障害がある人の特徴 2) 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3) コミュニケーション障害がある人への対応 6. オンラインコミュニケーション 1) オンラインコミュニケーションの機会の増加 2) オンラインコミュニケーションのポイント		
4	2	感染防止の技術 1. 感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、看護職者が感染防止のための実践を行うことの重要性を理解する 2. 標準予防策を学び、正しく実践できるようにする 3. 感染経路別予防策を学び、適切に実践できるようにする	1. 感染とその予防の基礎知識 1) 感染と感染症 2) 感染成立の条件 3) 感染予防 4) 院内感染の防止 2. 標準予防策（スタンダードプリコーション） 1) 標準予防策の基礎知識 2) 対策の実際 3. 感染経路別予防策 1) 感染経路別予防策の基礎知識 2) 接触予防策 3) 飛沫予防策 4) 空気予防策	1. 感染の成立条件について述べることができる 2. 院内感染の防止のために必要なことは何かを述べることができる 3. 感染経路別の予防策とそれぞれの対策について述べるができる	講義
5	2	感染防止の技術 1. 医療機材の管理および環境整備の意義や重要性を理解する 2. 洗浄・消毒・滅菌の実際、感染性廃棄物の取り扱いについて学び、正しく実践できるようにする 3. 無菌操作について学び、正しく実践できるようにする	1. 洗浄・消毒・滅菌 1) 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 2) 洗浄 3) 消毒と滅菌 2. 無菌操作 1) 無菌操作の基礎知識 2) 対策の実際 3. 感染性廃棄物の取り扱い 1) 感染性廃棄物の基礎知識 2) 対策の実際 4. 標準予防策の実際	1. 洗浄・消毒・滅菌の違い、それぞれの方法について述べるができる 2. 無菌操作の際に注意すべきことを述べるができる 3. 感染性廃棄物の廃棄方法について述べるができる 4. アルコール手指消毒の手順書の作成 5. マスク装着の手順書作成 6. グローブ装着の手順書作成	講義
6 7	4	感染防止の技術 1. 感染防止のための技術を習得することができる	1. 手指衛生の演習 1) 衛生的手洗い ☆ 2) 擦式消毒用アルコール製剤での衛生的手洗い . . ● 2. 個人防護用具着脱の演習 ● 1) マスク着脱 2) ガウン着脱 3) 手袋着脱 3. 無菌操作の演習 ● 1) 滅菌手袋の着用 2) 滅菌した鑷子の取り出し方 3) 滅菌したガーゼの取り出し方	1. 標準予防策に基づいた防護用具の着脱の方法を習得することができる 2. 滅菌物の取り扱い手順を習得することができる 3. 衛生的手洗いの手順書作成 4. 個人防護用具装着手順書作成 5. 滅菌ガウン着用手順書作成 6. 滅菌手袋装着手順書作成	演習
8	2	環境調整技術 1. 療養生活の環境を構成する要素を理解し病室・病床の環境のアセスメントと調整について学ぶ	1. 援助の基礎知識 1) 療養生活の環境 2) 病室の環境のアセスメントと調整	1. 病室の環境を快適なものにするために調整すべき要素を述べるができる 2. ベッド周囲の環境整備のポイントを述べるができる	講義

9 10	4	環境調整の技術 1. ベッド周囲と 病床の環境整備、 ベッドメイキング、 リネン交換の技術を 習得する	1. 援助の実際 1) ベッド周囲の環境整備 2) 病床を整える ☆	1. ベッド周囲の環境整備を実 践することができる 2. ベッドメイキングのポイン トを理解し、実践すること ができる 3. ベッドメイキング手順書作 成 4. リネン交換手順書作成	講義
11	2	活動・休息援助技術 苦痛の緩和・安楽 確保の技術 1. 姿勢の基礎知 識・ボディメ カニクスの原 理を理解する 2. 体位とその目 的を理解する 3. 移乗の援助と 移送の方法を 習得する 4. 体位保持の意 義を理解する	1. 基本的活動の援助 1) 基本的活動の基礎知識 2) 体位 3) 移動（体位変換・歩行・移乗・移送） 2. 体位保持（ポジショニング） 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	1. 基本的活動の基礎知識につ いて述べるができる 2. 体位変換・移乗・移送動作 の援助方法を述べるが できる	講義
12 13	4	活動・休息援助技術 苦痛の緩和・安楽 確保の技術 1. 体位変換とボ ディメカニク スの技術を習 得する 2. 移乗と移送の 技術を習得す る 3. 様々な体位保 持の技術を習 得する	1. 基本的活動の援助 1) ボディメカニクスを活用した体位変換の演習 . . ● 2) ストレッチャー・スライディングシートを使用した移 動の演習 ● 3) 車椅子での移乗・移送 ● 2. 体位保持 1) 様々なポジショニングの演習 ●	1. ボディメカニクスを活用し た体位変換の技術を習得で きる 2. 移動・移送に使用される物 品の安全で正確に使用する ことができる	演習
14	2	活動・休息援助技術 1. 睡眠と睡眠障 害について理 解する 2. 睡眠・休息の 具体的な援助 を理解する	1. 睡眠・休息の援助 1) 援助の基礎知識 2) 睡眠・休息の援助	1. 睡眠・休息の基礎知識につ いて述べるができる 2. 睡眠・休息の援助について 述べるができる	講義
15	2	単位認定終講試験			

●演習 △デモ ☆技術確認

基礎看護技術Ⅱ

開講時期	I	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. ヘルスアセスメントの意味を理解し、必要とされる技術を習得することができる 2. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、その測定方法について習得することができる 3. 呼吸・循環の生理学的メカニズムを理解し、呼吸・循環を整える技術を習得することができる 4. 電法の種類と電法が身体に及ぼす影響を理解し、温電法・冷電法の技術を習得することができる 5. 苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護行為について理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	演習前には事前の自己学習、動画などでの技術確認、手順書作成など	テキスト	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント		

	ど準備が必要 技術確認のある技術は自己練習が必要		根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 (医学書院) 講師作成資料
--	-----------------------------	--	--

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	ヘルスアセスメント① 1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解する	1. ヘルスアセスメントとは 2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 1) 問診(面接)の技術 2) 健康歴の聴取 3) セルフケア能力のアセスメント 4) 情報の整理 3. 全体の概観 1) フィジカルアセスメントに必要な技術 2) 全身状態・全体印象の把握	1. ヘルスアセスメントの目的について述べるができる 2. フィジカルイグザミネーションの基本的技術を実施することができる	講義
3 4 5 6 7	10	ヘルスアセスメント② バイタルサイン観察技術 1. 呼吸・循環・体温観察の意義・目的を理解し、正確に測定する技術を習得する 2. 測定値の変動をきたす因子を理解する 3. 測定値を正確かつ有効に評価・活用するための基準値や指標について理解する	1. 全体の外観 1) バイタルサインの観察とアセスメント (1) 体温 ・・・・☆ (2) 脈拍 ・・・・☆ (3) 呼吸 ・・・・☆ (4) 血圧 ・・・・☆ (5) 意識 ・・・・●	1. バイタルサインを正確に測定する方法について述べるができる 2. バイタルサインを正確に測定することができる	講義 演習
8 9 10 11 12	10	呼吸・循環を整える技術 1. 安全に酸素吸入を行う技術を習得する 2. 効果的な排痰方法を理解する 3. 安全に吸引を行う技術を習得する 4. 正確な吸入方法を理解する 5. 人工呼吸器装着時の援助の手順、患者の観察点を知る 6. 体温管理の援助技術を理解する 7. 末梢循環促進ケアの目的と方法を理解する	1. 酸素療法(酸素吸入療法) 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 (1) 中央配管方式による方法 (2) 酸素ボンベによる方法 ・・・・● (移動時の酸素ボンベの取扱い) 2. 排痰ケア 1) 排痰ケアの基礎知識 2) 援助の実際 (1) 体位ドレナージ (2) 咳嗽介助、ハフティング (3) 吸引(一時的:口腔・鼻腔・気管内吸引) ・・・・● 3. 胸腔ドレナージ ・・・・△ 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 4. 吸入 ・・・・△ 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 5. 人工呼吸療法 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 6. 体温管理の技術 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 7. 末梢循環促進ケア 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	1. 呼吸を整える援助方法について述べるができる 2. 循環を整える援助方法について述べるができる	講義 演習
13 14	4	苦痛の緩和・安楽確保の技術 1. 苦痛の緩和・安楽確保の技術を理解する	1. 電法 ・・・・△ 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 (1) 温電法 (2) 冷電法(氷枕) 2. 身体ケアを通じてもたらされる安楽 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際	1. 安楽促進・苦痛の緩和(冷電法・温電法)の援助技術を実施できる	講義 演習
15	2	単位認定終講試験			

基礎看護技術Ⅲ-①

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. 身体各部の形態や、身体機能を正しく計測し評価することを習得することができる 2. フィジカルアセスメントの概念、フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データについて理解することができる 3. 生体におけるバイタルサインの意味を理解し、フィジカルアセスメントに活用することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	事前に配布された課題に取り組むこと 身体に興味を持ち、実際のケアに結び付けていくこと	テキスト	基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	スクリーニングの技術 1. 身体各部の計測の目的・意義を理解する 2. 測定値の変動をきたす因子を理解する 3. 正確な測定値を得るための測定技術を習得する 4. 測定値を正確かつ有効に評価・活用するための基準値や指標について理解する	1. フィジカルアセスメントとは 1) フィジカルアセスメントに必要な技術 2. 身体計測・・・● 1) 身長計測 2) 体重計測 3) 腹囲計測	1. スクリーニング技術の目的・ポイントを述べることができる 2. 身体計測を正しい技術で実施することができる	講義
2 3 4 5 6 7 8 9 10	18	系統別フィジカルアセスメント 1. 系統別フィジカルアセスメントについてその方法と主な正常所見、異常所見について理解する	1. ケアにつなげるフィジカルアセスメント・・・● 2. 呼吸器のフィジカルアセスメント 1) 呼吸器のフィジカルアセスメントの目的 2) 呼吸器系の基礎知識 3) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際 3. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) 循環器系のフィジカルアセスメントの目的 2) 循環器系の基礎知識 3) 循環器系のフィジカルアセスメントの実際 4. 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント 1) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメントの目的 2) 乳房・腋窩の基礎知識 3) 乳房・腋窩のフィジカルアセスメントの実際 5. 腹部のフィジカルアセスメント 1) 腹部のフィジカルアセスメントの目的 2) 腹部の基礎知識 3) 腹部のフィジカルアセスメントの実際 6. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 1) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的 2) 筋・骨格系の基礎知識 3) 筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際 7. 神経系のフィジカルアセスメント 1) 神経系のフィジカルアセスメントの目的 2) 神経系の基礎知識 3) 神経系のフィジカルアセスメントの実際 8. 頭頸部と感覚器（眼・耳・鼻・口）のフィジカルアセスメント 1) 頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメントの目的 2) 頭頸部と感覚器の基礎知識	1. フィジカルイグザミネーションの方法について述べる ことができる 2. フィジカルイグザミネーションの結果からアセスメントすることができる	講義 演習

			3) 頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメントの実際 9. 外皮系（皮膚・爪）のフィジカルアセスメント 1) 外皮系のフィジカルアセスメントの目的 2) 外皮系の基礎知識 3) 外皮系のフィジカルアセスメントの実際 10. 心理・社会状態のアセスメント 1) 心理的側面のアセスメント 2) 社会的側面のアセスメント		
11 12 13	6	事例で学ぶフィジカルアセスメント 1. フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データを理解する 2. 観察事項の意味を理解する	1. 事例で学ぶフィジカルアセスメント・・・● 1) 問診：自覚症状の確認と経過 2) 全身の外観とフィジカルイグザミネーション 3) 得られた情報からわかること 4) アセスメント後の経過 (1)呼吸器系の事例 (2)循環器系の事例 (3)腹部の事例	1. 正確な技術を実施でき、得た情報から状態の正常・異常が判断できる 2. 正常・異常の判断をした根拠を述べるができる	演習
14	2	看護技術の確認 1. フィジカルアセスメントの技術を正しく習得できる	対象にフィジカルアセスメントの技術が実施できる・・・☆	1. フィジカルアセスメントの技術を実施し、状態をアセスメントできる	演習
15	2	単位認定終講試験			

● 演習 ☆ 技術確認

基礎看護技術Ⅲ-②

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. 臨床判断のプロセスについて理解できる 2. あらゆる対象に共通する経過、症状の看護の基礎、援助技術について理解できる 3. 解剖生理・病理などの知識を看護に活用して臨床看護のイメージをつかむことができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	身体に興味を持ち、実際のケアに結び付けていくこと 既習の知識と関連付けて学びを深める グループワーク・発表があるときは資料作成と発表準備が必要	テキスト	基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 臨床看護総論（医学書院） 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	臨床判断とは 1. 臨床判断の必要性を理解する 2. 臨床判断モデルの特徴を理解する	1. 臨床判断（クリニカルジャッジメント）とは 2. 臨床判断モデルの4つのフェーズ 1) 気づく 2) 解釈する 3) 反応する 4) 省察する	1. 臨床判断の必要性を述べるができる 2. 臨床判断モデルの特徴を述べるができる	講義
2 3 4	6	臨床判断のプロセスを理解する 1. 臨床判断のプロセス、各フェーズを理解する	1. 予期・初期把握 2. 推論パターン（分析的・直感的・説話的） 3. 行為・結果 4. 行為の中の省察 5. 行為の後の省察・学び 6. コンテキスト・背景・関係性	1. 臨床判断のプロセス、各フェーズを述べるができる	講義
5 6	4	健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護	1. ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 1) 健康について	1. ライフサイクルや家族の機能、人々と暮らし方から対象をとらえることができる	

		1. ライフサイクルや家族の機能、人々と暮らし方から対象のとらえ方を理解する 2. 必要な看護を理解する	2) 健康上のニーズ 3) 人のライフサイクルからとらえた看護 4) 子どもの理解と看護 5) 成人の理解と看護 6) 高齢者の理解と看護 7) 親になる人の理解と看護	できる 2. 必要な看護について述べるができる	
7 8	4	健康状態の経過に基づく看護 1. 健康状態の経過に基づき必要とされる看護援助を理解する	1. 健康状態と看護 2. 健康の維持・増進を目指す時期の看護 3. 急性期における看護 4. 回復期における看護 5. 慢性期における看護 6. 終末期における看護	1. 健康状態の経過に基づいた看護の特徴を述べるができる 2. 健康状態の経過に基づいた患者のニーズを述べるができる 3. 健康状態の経過に基づいた看護援助を述べるができる	講義
9 10 11 12 13 14	8	事例に沿った臨床判断 1. 事例を用いて臨床判断モデルを取り入れた実践展開を理解できる	1. 主要な症状を示す対象者への看護 1) 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 2) 循環に関連する症状を示す対象者への看護 3) 安楽に関連する症状を示す対象者への看護 4) 事例に沿った臨床判断 (1) 患者の疾患・症状・治療処置に関連付けて概要をつかむ (2) 患者の状態に気づく (3) 患者の状態を解釈する (4) 患者の状態に応じて反応する (5) 行為を省察する	1. 臨床判断の4つのフェーズ（気づく・解釈する・反応する・省察する）を考慮することができる 2. 主要な症状、治療経過の基本的知識をふまえ、必要な看護援助にはどのようなものがあるか述べ、実施することができる 3. 実施したことへの反応を受け取り行為の意味づけができる	講義 演習
15	2	単位認定終講試験			

基礎看護技術Ⅳ－①

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	日常生活への看護を学び、その技術を習得することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	人体の構造と機能、基本的な病態 生理や診断を理解するための自己学習 演習前の動画での技術確認、手順書作成	テキスト	解剖生理学 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	清潔・衣生活援助技術 1. 身体を清潔に保つ意義について理解する	1. 清潔の援助 1) 清潔の援助の基礎知識	1. 清潔の意義と効果について述べるができる	講義
2	2	清潔・衣生活援助技術 1. 衣生活への看護の意義について理解する	1. 病床での衣生活の援助 1) 衣生活の援助の基礎知識 2. 衣生活の援助の実際 1) 病衣の選び方 2) 衣類・寝衣交換 ●	1. 衣服を用いることの意義について述べるができる 2. 寝衣交換を実施することができる	講義 演習

		2. 衣生活の技術について理解する			
3 4 5 6 7	10	清潔・衣生活援助技術 1. 清潔の技術を習得する	1. 清潔の援助の実際 1) 入浴・シャワー浴 2) 全身清拭・・・・・・● 3) 洗髪・・・・・・● 4) 手浴・・・・・・● 5) 足浴とフットケア・・・・● 6) 陰部洗浄・・・・・・● 7) 整容 8) 口腔ケア・・・・・・●	1. 全身清拭を実施することができる 2. 洗髪を実施することができる 3. 足浴を実施することができる 4. 陰部洗浄・口腔ケアを見学し、方法や留意点を理解することができる	講義 演習
8	6	食事援助技術 1. 食事援助の基礎知識と援助技術を理解する	1. 食事援助の基礎知識 1) 栄養状態および摂取能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 2) 医療施設で提供される食事の種類と形態	1. 人間にとっての「食」とは何かを述べることができる 2. 対象者に応じた食事援助技術の方法を述べることができる	講義
9 10			2. 食事摂取の介助・・・・・・● 3. 摂食・嚥下訓練 4. 非経口栄養摂取の援助 1) 経管栄養法・・・・・・△ 2) 中心静脈栄養法	1. 患者の状態にあわせた食事介助ができる 2. 非経口栄養摂取の援助の方法を述べるができる	講義 演習 デモ
11	6	排泄援助技術 1. 排泄援助の基礎知識と援助技術を理解する	1. 自然排尿および自然排便の介助 1) 自然排尿および自然排便の基礎知識 (1) 排泄の意義 (2) 排泄器官の機能と排泄のメカニズム (3) アセスメント-患者の状態に応じた援助を決定するために-	1. 排泄の意義を述べるができる	講義
12			2) 自然排尿および自然排便の介助の実際 (1) トイレにおける排泄介助 (2) 床上排泄援助・・・・・・● (3) おむつによる排泄援助	1. 対象者に応じた排泄の援助技術の方法を述べることができる	講義 演習
13			2. 導尿 1) 一時的導尿 2) 持続的導尿・・・・・・● 3. 排便を促す援助 1) 排便を促す援助の基礎知識 2) 浣腸・・・・・・● 3) 摘便 4. ストーマケア 1) 排泄援助としてのストーマケアの基礎知識 2) ストーマケアの援助の実際	1. 導尿の目的や方法について述べるができる 2. 排便を促す援助の目的や方法について述べることができる	講義 演習
14	2	死の看取りの援助 1. 看取りの基礎知識と死亡時の援助を理解する	1. 死にゆく人と周囲の人々へのケア 2. わが国の風習に根づく死後の処置のあり方 3. 死後の処置 1) 死後の処置の援助の基礎知識 2) 死後の処置の援助の実際 (1) 死後のケア・・・・・・△	1. 死の看取りの基礎知識を述べることができる 2. 死亡時の看護のあり方を述べることができる	講義 デモ
15	2	単位認定終講試験			

●演習 △デモ

基礎看護技術Ⅳ－②

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	3 0 時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	検査・治療・処置における看護について学び、その技術を習得することができる				
評価方法	筆記試験 1 0 0 点	認定基準	6 0 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	人体の構造と機能、基本的な病態 生理や診断を理解できるよう、事前学習を行う	テキスト	臨床検査 薬理学 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術		

	演習前の動画での技術確認、手順 書作成		(医学書院)
--	------------------------	--	--------

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	症状・生体機能管理技術 1. それぞれの検査の方法と検査時の看護について理解する	1. 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2. 検体検査 1) 血液検査（静脈血採血・動脈血採血・血糖測定） 2) 尿検査 3) 便検査 4) 喀痰検査 3. 生体情報のモニタリング 1) 心電図モニター 2) SpO ₂ モニター（パルスオキシメーター） 3) 血管留置カテーテルモニター	1. 検査の介助に関する基礎知識を述べることができる	講義
2 3	4	症状・生体機能管理技術 1. 採血に必要な知識を獲得し、看護の実際を理解する	1. 血液検査の援助の実際 1) 注射器を用いた静脈血の採血・・・・・・・・● 2) ホルダー採血（真空採血）法による静脈血採血 3) 動脈血採血の介助（血液ガス分析を目的とする場合） 4) 血糖測定・・・・・・・・●	1. エビデンスに基づいた採血方法を実施できる 2. 血糖測定の正しい方法で実施できる	講義 演習
4	2	創傷管理技術 1. 創傷とその治癒のメカニズムを知り、処置と看護について理解する 2. 褥瘡発生機序とアセスメント方法を理解し予防の援助について理解する	1. 創傷管理の基礎知識 1) 創傷 2) 創傷治療のための環境づくり 2. 創傷処置 1) 術後一次縫合創とドレーン創の処置 2) 創洗浄と創保護 3) テープによる皮膚障害 4) 包帯法 3. 褥瘡予防 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際（体圧分散ケア）	1. 創傷管理の基礎知識と創洗浄・創保護について述べるができる 2. 褥瘡発生の基礎知識や予防の援助方法について述べることができる	講義
5	2	診察・検査・処置における技術 1. 診察・検査・処置時の看護・援助方法について理解する	1. 診察の介助 2. 検査・処置の介助 1) X線検査 2) コンピューター断層撮影（CT） 3) 磁気共鳴検査（MRI） 4) 内視鏡検査 5) 超音波検査（エコー検査） 6) 心電図検査 7) 肺機能検査 8) 核医学検査 9) 穿刺 （1）胸腔穿刺 （2）腹腔穿刺 （3）腰椎穿刺 （4）骨髄穿刺	1. 診察・検査・処置の概要と介助について述べるができる	講義
6 7 8 9 10 11 12 13	16	与薬の技術 1. 与薬の基礎知識を理解し援助の実際を理解する	1. 与薬の基礎知識 2. 与薬援助の基礎知識と実際 1) 経口与薬・口腔内与薬 2) 吸入 3) 点眼 4) 点鼻 5) 経皮的与薬 6) 直腸内与薬 7) 注射 （1）注射の基礎知識 （2）注射の実施法 ①皮下注射・・・・・・・・● ②皮内注射・・・・・・・・△ ③筋肉内注・・・・・・・・● ④静脈内注射（ワンショット）・・・・・・・・△ ⑤翼状針による点滴静脈内注射・・・・・・・・△ 8) 輸液ポンプ・シリンジポンプを用いた輸液・● 9) 輸血管理・・・・・・・・△	1. 与薬の基礎知識を述べることができる 2. 与薬における事故防止の重要性について述べるができる 3. 与薬における看護師の役割を述べることができる 4. 注射の基礎知識を述べることができる 5. エビデンスに基づいた静脈内点滴を実施することができる 6. 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱いについて理解し述べることができる 7. 輸血管理に必要な基礎知識を述べることができる	講義 演習
14	2	看護技術の確認 1. 翼状針を用いた点滴静脈内注射の技術を習得する	1. エビデンスに基づいた点滴静脈注射の技術・・・・☆	1. エビデンスに基づき、安全かつ患者の安楽に配慮した翼状針による点滴静脈内注射技術を実施することができる	演習

15	2	単位認定試験
----	---	--------

●演習 △デモ ☆技術確認

基礎看護技術Ⅴ－①

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	看護過程の展開の技術を理解することができる				
評価方法	筆記試験100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習法 (予習・復習・課題)	授業中に配布するプリント、テキストは必ず復習で見直すこと 段階的に知識を統合するための個人ワーク、グループワークへの主体的な取り組み	テキスト	基礎看護技術Ⅰ（医学書院） NANDA－Ⅰ看護診断：定義と診断（医学書院） 成人看護学総論（医学書院）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	看護過程とは 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する 2. 看護過程を用いることの意義を理解する	1. 看護過程の5つの構成要素 2. 5つの構成要素の関係性 3. 看護過程を用いることの利点	1. 看護過程を構成する要素を述べることができる 2. 看護過程を用いる意義を述べることができる	講義
2 3	4	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 1. 問題解決過程を理解する 2. クリティカルシンキングと看護過程の関係を理解する 3. 看護過程の展開における倫理的側面を理解する 4. 看護過程の中でリフレクションとの関係を理解する	1. 問題解決過程 2. クリティカルシンキング 3. 倫理的配慮と価値判断 4. リフレクション	1. 問題解決過程に必要な力を述べることができる 2. クリティカルな思考の要素を述べることができる 3. 看護過程の倫理的側面を述べることができる 4. 看護過程の中でリフレクションとの関係を述べることができる	講義

4 5 6 7 8 9 10	14	看護過程の各段階 1. アセスメントの基本的な考えと実践方法を理解する 2. 看護問題と看護診断の基本的な考え方と実践方法を理解する 3. 看護計画の立案方法を理解する 4. 実施の流れと評価の方法を理解する	1. アセスメント（情報の収集と分析） 1) 情報収集とは 2) 情報収集の方法 3) 情報の分析 4) 全体像の把握 2. 看護問題の明確化（看護診断） 1) 看護問題の見極め（看護診断の進め方） 2) 看護問題と看護診断 3) 看護問題の種類 4) 看護問題（看護診断）の表記方法 5) NANDA I・看護診断分類法Ⅱ領域と類 6) 看護問題の優先順位 7) 共同問題という考え方 8) 看護問題リスト（看護診断リスト）への記載 3. 看護計画の立案 1) 期待される成果の明確化 2) 介入方法の検討 4. 実施 1) 実施の流れ 2) 実施と記録 6. 評価 1) 評価の方法 2) 看護過程と患者のかかわり	1. 情報の収集・分析内容とその方法を述べることができる 2. 看護問題の明確化と優先順位の決定するための判断内容を述べることができる 3. 看護診断、共同問題の考え方を述べることができる 4. 看護診断分類法Ⅱ領域と類の解釈ができる 5. 期待される成果の意味と表記方法を述べることができる 6. 目標達成のための介入方法を述べることができる 7. 評価の意義・時期・方法を述べることができる。	講義
11	1	看護記録 1. 看護記録の法的位置づけ、目的と機能を理解する 2. 記録管理と情報開示、守秘義務とセキュリティの確保について理解できる 3. 看護記録の構成を理解できる	1. 看護記録とは 2. 記載・管理における留意点 3. 看護記録の構成	1. 看護記録の法的位置づけ、目的・留意点を述べることができる 2. 記録管理と情報開示、守秘義務とセキュリティの確保について理解し述べることができる 3. 看護記録の構成を理解して述べることができる	講義
12 13 14	6	看護過程の活用 1. 事例を用いて看護過程の展開方法を理解する	1. 事例を用いた看護過程の展開	1. 事例を用いて看護過程の展開を理解してワークを進めることができる	講義
15	2	単位認定終講試験			

基礎看護技術Ⅴ－②

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	看護過程の展開技術を活用し、思考過程を整えることができる				
評価方法	課題提出 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習 (予習・復習・課題)	手順を踏んだ看護の道筋について 人体の構造と機能、基本的な病態 生理や診断、治療の知識について 看護過程の展開（Ⅴ - ①）の活用 段階的に知識を統合するための個人ワーク、グループワークへの主体的な取り組み	テキスト	解剖生理学 生化学 病理学 微生物学 薬理学 栄養学 成人看護学呼吸器 病態生理学 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 成人看護学総論 (医学書院) NANDA - Ⅰ看護診断：定義と診断 (医学書院)		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	疾患について 1. 疾患の病態生理を理解する	1. 疾患について 1) 解剖生理 2) 病態の理解 3) 病態関連図の作成	1. 解剖生理が理解できる 2. 病態生理が理解できる 3. 病態関連図を書くことができる	講義 演習
3 4 5 6	8	一次アセスメント 1. 情報の意味を理解する 2. NANDAの13領域の枠組みを理解する	1. 一次アセスメント 1) 情報の理解 2) 情報のクラスタリング (1) 事例から気になる情報を抽出する (2) 情報の分類 NANDAの13領域 3) 情報の分析 領域の意味に沿ったアセスメント	1. 情報の意味を理解することができる 2. 情報を分類することができる 3. 領域の意味に沿ったアセスメントができる	講義 演習
7 8	4	全体像 1. 情報の関係性を理解する	1. 全体像 1) 病態関連図と全体像 2) 事象と事象の関連性	1. 全体像を書くことができる	講義 演習
9 10	4	二次アセスメント 1. 看護問題を明確にする	1. 二次アセスメント 1) 問題の統合 2) 診断指標と徴候・症状の照合 3) 関連因子と危険因子	1. 徴候・症状と診断指標を照合することができる 2. 関連因子、危険因子を照合することができる	講義 演習
11 12 13 14	8	看護計画の立案・実施と評価 1. 基本的な看護計画を理解する 2. 実施、評価の意味を理解する	1. 看護計画の立案 1) 診断指標・関連因子をふまえた期待する結果 2) 観察計画・ケア計画・教育計画 2. 看護計画の実施と評価 1) 看護計画に基づく実施 2) SOAPによる看護実践の評価 3) 看護計画の追加・修正	1. 期待する結果を設定することができる 2. 期待する結果の到達に向けた看護計画を立案できる 3. 実施、評価の記録方法を理解することができる	講義 演習
15	2	看護過程の展開技術の評価 1. 看護過程評価表に基づき、記録物の自己評価、他者評価を行う	1. 一次アセスメント、全体像、二次アセスメント、看護計画立案の内容のピア評価 2. 評価からの看護過程の提出記録物の修正、追加	1. まとめ 2. 看護過程評価表に基づいた単元目標の自己評価と他者評価ができる	講義 演習

專 門 分 野

地 域 ・ 在 宅 看 護 論

地域・在宅看護概論

開講時期	I	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		訪問看護ステーション勤務経験有	
科目目標	地域で生活する対象とその家族に対する看護の意義と役割を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	日頃から自分の地域における 医療、福祉、保健について関心 をもつ 事前の調べ学習、復習としての 課題あり	テキスト	地域・在宅看護論の基盤（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	地域のなかでの暮らしと健康・看護 1. 人が営む暮らしを理解する	1. 働くこと・学ぶことと暮らし 2. 高齢者のいる暮らし 3. 出産・育児と暮らし	1. 人の暮らしにかかわる要素を述べることができる	講義
2 3	4	人々の暮らしと地域・在宅看護 1. 看護の対象を生活者としてとらえ、人々の暮らしを多角的・学問的に理解する 2. 地域・在宅看護とはどのような看護か、また求められる役割について理解する	1. 人々の暮らしの理解 1) 暮らしとは 2) 暮らしと健康の関係 3) 暮らしのなかで健康をとらえる 2. 地域・在宅看護の役割 1) 地域・在宅看護の基盤となる考え方 2) 地域・在宅看護に求められる役割 3. 暮らしを理解する	1. 人々の暮らしと健康との関係について説明できる 2. 地域・在宅看護の基盤となる考え方や役割について説明できる	講義 演習
4 5	4	暮らしの基盤としての地域の理解 1. 地域の特徴や地域の捉え方を理解する 2. 人々の暮らしと地域の特性との関係について理解する 3. 「地域共生社会」「地域包括ケアシステム」について理解する	1. 暮らしと地域 1) 地域の定義 2) 人々の暮らし地域多様性 2. 暮らしと地域を理解するための考え方 1) システム理論 2) システム思考 3. 地域包括ケアシステムと地域共生社会 1) 地域包括ケアシステム 2) 地域共生社会 4. 地域を理解する	1. 地域の特徴と地域の多様性について説明できる 2. 地域の特性が人々の暮らしに与える影響について説明できる 3. 「地域共生社会」「地域包括ケアシステム」について説明できる	講義 演習
6 7	4	地域・在宅看護の対象 1. 地域の多様な特性と人々の健康への影響を理解する 2. 地域・在宅看護の対象者の各ライフステージの特徴・多様性やさまざまな健康レベルを理解する 3. 地域・在宅看護の対象である家族について理解する	1. 地域・在宅看護の対象者 1) 地域による多様性 2) ライフステージによる多様性 3) 健康レベルの多様性 2. 家族の理解 1) わが国における家族の現状 2) わが国における家族とその変遷 3) 地域・在宅看護の対象としての家族 3. 地域に暮らす対象者の理解と看護 1) 地域の特性の理解と看護 2) 家族のライフステージの理解と看護 3) 対象者の理解からつながりをつくる看護 4. 家族を理解する	1. 地域の特性が人々の健康に及ぼす影響について説明できる 2. 地域・在宅看護の対象者が地域でどのような健康レベルで暮らしているか説明できる 3. 家族の特徴について歴史的変遷も踏まえて説明できる	講義 演習
8 9 10 11	8	地域における暮らしを支える看護 1. 「暮らしを支える看護」とは何かを理解する 2. 暮らしにおける環境の重要性や意味を理解し、環境を整える地域・在宅看護の役割を理解する 3. 地域に暮らす人々とその家族の多様な健	1. 暮らしを支える地域・在宅看護 1) 「暮らしを支える看護」とは 2) 「暮らしを支える看護」の実践 2. 暮らしの環境を整える看護 1) 暮らしに関連する環境 2) 暮らしの環境を整える看護とは 3) 看護師に求められる態度・知識・姿勢 4) 環境を整える看護の意義 3. 広がる看護の対象と提供方法 1) 健康に対する人々のニーズ 2) 看護の実践方法の広がり	1. 「暮らしを支える看護」について説明できる 2. 暮らしにおける環境の重要性や意味踏まえた地域・在宅看護の役割を説明できる 3. 地域に暮らす人々とその家族の多様な健康ニーズを踏まえた地域・在宅看護の役割	講義

		康ニーズをとらえ、 看護の役割を理解する 4. 各ライフステージにある人々の特徴を理解し、それに応じた看護の役割を理解する 5. 暮らしの中にあるリスクと看護の役割を理解する 6. 災害対策における地域・在宅看護の役割を理解する	3) 人々の健康ニーズにこたえる看護 4) 健康ニーズを支える看護の実践例 4. 地域における家族への看護 1) 地域における家族への看護とは 2) 家族を支援する看護師の基本的な姿勢 5. 地域におけるライフステージに応じた看護 1) ライフステージと人々の暮らし 2) ライフステージによる健康課題と予防 3) 疾病とライフステージ 4) 家族とライフステージ 6. 地域での暮らしにおけるリスクの理解 1) 暮らしにおけるリスク 2) 暮らしにおけるリスクの種類 3) できる限り安全に暮らしつづけるための援助 7. 地域での暮らしにおける災害対策 1) 暮らしと災害 2) 地域・在宅看護と災害対策	を説明できる 4. 各ライフステージにある人々の特徴を踏まえた地域・在宅看護の役割を説明できる 5. 暮らしの中にあるリスクを踏まえた地域・在宅看護の役割を説明できる 6. 災害時における地域・在宅看護の役割について説明できる	
12 13 14	6	地域・在宅看護実践の場と連携 1. 地域・在宅看護の場を人々の暮らしと結び付けて理解する 2. さまざまな暮らしの場と看護の役割・活動について理解する 3. 地域・在宅看護の実践の場で、看護師とともに連携し働く医療福祉専門職の役割について理解する 4. 多職種で連携する中での看護師の役割について理解する	1. さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし 2. おもな地域・在宅看護実践の場 1) 住まいで提供される看護 2) 通所サービスの場で提供される看護 3) 短期入所サービスの場で提供される看護 4) 通所・短期入所・訪問サービスの場で提供される看護 5) 施設サービスの場で提供される看護 6) 医療機関で提供される看護 7) 地域のなかで提供される看護 3. 地域・在宅看護における多職種連携 1) 医療専門職との連携 2) 福祉専門職との連携 3) 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携 4) 多職種連携からのネットワークづくり 4. 多職種との連携・協働を考える	1. 地域・在宅看護の実践の場について説明できる 2. 看護師と共に連携していく職種と、それぞれの役割について説明できる	講義
15	2	単位認定終講試験			

地域・在宅看護援助論Ⅰ

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	3 0 時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験		訪問看護ステーション勤務経験有 大阪労災病院勤務認定看護師	
科目目標	1. 地域・在宅看護実践に必要な法制度を理解する 2. 地域・在宅看護実践の前に押さえておくべき心構え、対象者やその家族の対話・コミュニケーションについて理解する 3. 地域・在宅看護実践のために必要な家族を支える援助について理解する 4. 地域・在宅看護実践のために必要な安全対策と事故防止の知識について理解する 5. 暮らしを支えるさまざまな地域・在宅看護技術、看護の実践を理解する				
評価方法	筆記試験 1 0 0 点	認定基準	6 0 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	人体の構造について復習する 演習前には演習準備が必要 グループワーク、発表時には、 資料作成と発表準備が必要	テキスト	地域・在宅看護論の基盤（医学書院） 地域・在宅看護論の実践（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	1. 介護保険・医療保険制度 1) 介護保険制度	1. 介護保険制度・医療保険制度の違いについて	講義

		1. 訪問看護サービスを提供する際に用いられる介護保険制度と医療保険制度の違いを理解する 2. 地域保健を支える法制度について知り、対象の権利を守るための看護師の役割を理解する	2) 医療保険制度 2. 地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 3. 訪問看護の制度 1) 訪問看護制度の歩み 2) 訪問看護の対象者の特徴 3) 訪問看護の利用者と訪問回数 4) 訪問看護ステーションに関する規程 5) 訪問看護の利用までの手順 6) 訪問看護の費用 7) 訪問看護サービスの提供 8) ケアマネジメントと社会資源の活用 4. 地域保健にかかわる法制度 1) 福祉サービスに関連する制度 2) 社会福祉法と福祉6法 3) 地域保健を支える法制度 5. 高齢者に関する法制度 1) 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律 2) 成年後見制度 6. 障害者・難病に関する法制度 1) 障害者総合支援法 2) 難病法 7. 公費負担医療に関する法制度 8. 権利保障に関連する制度 1) 対象者の権利擁護 2) 虐待防止に関する法律 3) 守秘義務 4) 個人情報保護 5) サービス提供者の権利保護	て述べることができる 2. 訪問看護制度の成り立ちからサービスを提供するまでの流れを述べることができる	
3	2	暮らしの場で看護をするための心構え 1. 「暮らしの場」で必要とされる心構えや看護の要素について理解する セルフケアを支える対話・コミュニケーション 1. その人のもつ力を発揮できるについて理解する	1. 地域・在宅看護実践とは 1) その人の「暮らしにくさ」に着目する 2) 暮らしをかえる意思決定を支える 3) 意思決定を支えるとはどういうことか 2. 地域・在宅看護に欠かせない要素 1) チームで支えるという意識をもつ 2) パートナリシップを築く 1. 対象者と看護師のパートナーシップ 1) 対象者と看護師のパートナーシップのタイプ 2) 対象者と看護師のパートナーシップに必要な要素 3) 対象者と看護師とのパートナーシップに基づくケアの効果 2. 対象者と看護師の対話・コミュニケーション 1) 「ナビゲートする対話」とは 2) 「ナビゲートする対話」の実例	1. 地域・在宅看護に必要な心構え・看護の要素について述べるができる 1. その人のもつ力を最大限に引き出すために必要とされることは何かを述べるができる	講義

4	2	地域・在宅看護における家族を支える看護 1. 「暮らしの場」での看護に必要な家族を支える援助について理解する 地域・在宅看護における安全をまもる看護 1. 「暮らしの場」での看護に必要な安全対策と事故防止の知識について理解する	1. 家族のアセスメントのポイント 1) 状況を整理する 2) 家族の部分と全体を知る 3) 家族がもつセルフケア力を知ろうとする 2. 家族の支援 1) 家族のもつ価値観や信念を尊重する 2) 家族成員間の意見の相違を調整する 3) 危機にある家族の負担を軽くして機能回復を支える 4) 療養生活と介護を支える 5) 家族の意思決定を支援する 3. 家族支援の例 1. 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 1) 療養者の暮らしを取り巻くリスク 2) 暮らしの安全を確保するための方法 (1) 転倒・転落、溺水、火災、熱中症、誤嚥、家族による虐待の予防と対策 (2) 医療機器のトラブルの対応・対策 (3) 非常事態への対策 3) 療養者が安全に外出するための準備と方法 2. 地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント 1) 地域・在宅看護でリスクが発生しやすい要因 2) 地域・在宅看護の場面で起こりうる事故の種類と特徴 3) 事故発生の防止 4) 事故発生時の対応 5) 事業所における事故の予防対策の構築 3. 地域・在宅看護における看護師への暴力・ハラスメント 1) 訪問先における看護師への暴力・ハラスメント 2) 訪問先における看護師への暴力・ハラスメントの防止対策・対応	1. その人を取り巻く家族をアセスメントするためのポイントについて述べるができる 1. 療養者の暮らしを取り巻くリスクについて述べるができる 2. リスクに応じた安全対策について述べるができる 3. 地域・在宅看護実践におけるリスクや状況に合わせた対応について述べるができる	講義
5	2	地域における暮らしを支える看護実践① 療養環境調整における地域・在宅看護技術 1. 地域・在宅療養生活を支えるために必要な療養環境の調整の技術を理解する	1. 地域・在宅看護における療養環境調整 2. 療養環境のアセスメント 3. 療養環境の実際 4. 療養環境調整の例	1. 地域・在宅生活における療養環境の特徴と支援の方法を述べるができる	講義
6	2	地域における暮らしを支える看護実践② 活動・休息における地域・在宅看護技術 1. 地域・在宅療養生活を支えるために必要な活動・休息の特徴と方法を理解する	1. 暮らしにおける活動・休息とその援助 2. 活動に関する地域・在宅看護技術 1) 身体活動のアセスメント 2) 身体活動の支援のポイント (1) 姿勢・体位・寝返り・起き上がり・立ち上がり・移動（体位変換・歩行）・外出の支援 (2) 福祉用具の活用 3) 社会活動の支援 3. 休息に関する地域・在宅看護技術 1) 睡眠のアセスメント 2) 睡眠の援助のポイント	1. 地域・在宅生活における活動・休息の特徴と支援の方法を述べることができる	講義
7 8	4	地域における暮らしを支える看護実践③ 食生活・嚥下における地域・在宅看護技術 1. 地域・在宅療養生活を支えるために必要な食事の特徴と方法を理解する 2. 地域・在宅療養生活を支えるために必要な栄養における医療管理の特徴	1. 在宅での食生活の特徴 1) 暮らしにおける「食」の意義 2) 看護の基本的な考え方 2. 食生活・嚥下に関するアセスメント 1) 療養者・環境・介護力のアセスメント 2) 経口摂取開始に向けたアセスメント 3. 経口摂取の援助 1) 食事摂取の介助のポイント 2) 嚥下困難のある対象の食事援助のポイント…● 4. 経口摂取開始への援助の例 5. 経管栄養法を受ける療養者の援助 6. 在宅中心静脈栄養法（HPN）を受ける療養者の援助	1. 地域・在宅生活における食生活の特徴と支援の方法を述べるができる 2. 地域・在宅生活における経管栄養・輸液管理の目的・方法を述べるができる	講義 演習

		と方法を理解する			
9 10	4	地域における暮らしを支える看護実践④ 排泄における地域・在宅看護技術 1. 地域・在宅療養生活を支えるために必要な排泄援助の特徴と方法を理解する	1. 暮らしにおける排泄とその援助 2. 排泄のアセスメント 3. 援助の実際 1) セルフケア、活動・参加のための援助 2) 活動・参加のための援助 3) 機能の維持・向上を目指す援助 失禁の援助、便秘の援助、尿道留置カテーテルの管理とケア、ストーマの管理とケア、腹膜透析の管理とケア 4) 排泄援助の例	1. 地域・在宅生活における排泄の特徴と支援の方法を述べるができる 2. 地域・在宅生活における留置カテーテル・ストーマ・腹膜透析の目的・方法を述べるができる	講義
11	2	地域における暮らしを支える看護実践⑤ 清潔・衣生活における地域・在宅看護技術 1. 地域・在宅療養生活を支えるために必要な清潔・衣生活の援助の特徴と方法を理解する	1. 暮らしにおける清潔・衣生活とその援助 2. 清潔・衣生活に関するアセスメント 1) 療養者・介護力・経済状況のアセスメント 3. 在宅における清潔・衣生活の援助の実際 1) 援助に共通する基本事項 2) 入浴援助・清拭・部分浴（足浴、手浴）・洗髪・口腔ケア・更衣の援助のポイント	1. 地域・在宅生活における清潔・衣生活の特徴と支援の方法を述べるができる	講義
12	2	地域における暮らしを支える看護実践⑥ 苦痛の緩和・安楽確保における地域・在宅看護技術 1. 地域・在宅療養生活に必要な苦痛の緩和・安楽確保の援助の特徴と方法を理解する 呼吸・循環における地域・在宅看護技術 1. 地域・在宅療養生活における管理の目的・方法と療養者と家族への支援の方法を理解する	1. 暮らしにおける苦痛と安楽への援助 2. 苦痛と安楽のアセスメント 3. 苦痛と安楽に関する援助の方法・ポイント 1. 暮らしにおける呼吸・循環とその援助 2. 呼吸のアセスメント 3. 循環のアセスメント 4. 援助の方法 1) セルフケアのための援助 2) 機能の維持・向上を目指すケア 3) 機能を補う方法の提案と実施 (1)在宅酸素療法（HOT） (2)在宅人工呼吸療法（HMV） 5. 呼吸・循環における医療管理レベルの高い療養者の援助 1) 在宅酸素療法（HOT）・非侵襲的陽圧換気（NPPV）・気管切開下陽圧換気（TPPV）を受ける療養者の援助 2) 在宅人工呼吸療法（HMV）と排痰法	1. 地域・在宅生活における苦痛の緩和・安全確保の目的・方法を述べるができる 1. 地域・在宅生活における呼吸・循環に関するアセスメントについて述べるができる 2. 地域・在宅生活における呼吸・循環管理の特徴・基本的技術を述べるができる	講義
13	2	地域における暮らしを支える看護実践⑦ 創傷管理における地域・在宅看護技術 1. 地域・在宅療養生活を支えるために必要な創傷管理・褥瘡ケアの特徴と方法を理解する	1. テープ類による皮膚トラブルの予防とケア 1) テープ類による刺激の種類と皮膚トラブル 2) 皮膚トラブルをおこさないテープの使い方 2. 褥瘡の予防とケア 1) 褥瘡とは 2) 褥瘡の予防・褥瘡発生時の対応 3) 治療・ケア計画の実際 3. スキンケアの予防とケア 1) スキンケアとは 2) スキンケアのリスクと予防・ケア	1. 地域・在宅生活における創傷管理・褥瘡ケアの目的・方法を述べるができる	講義

14	2	地域における暮らしを支える看護実践⑧ 与薬に関する地域・在宅看護技術 1. 地域・在宅療養生活を支えるために必要な薬物の管理の特徴と方法を理解する	1. 地域・在宅看護における与薬 2. アセスメントのポイント 3. 与薬方法ごとの在宅ケアのポイント	1. 地域・在宅生活における内服管理の目的・方法を述べることができる	講義
15	2	単位認定終講試験			

●演習

地域・在宅看護援助論Ⅱ

開講時期	Ⅲ	単位数	2	時間数	4 5 時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験	訪問看護ステーション勤務経験有 在宅療養施設勤務看護師		
科目目標	1． 地域・在宅看護の特徴と看護の意義を理解する 2． 地域・在宅看護における健康の各時期に応じた看護を理解する 3． 対象の発達段階や健康障害の特徴に応じた地域・在宅看護の方法を理解する				
評価方法	筆記試験 1 5 0 点	認定基準	1 0 0 点換算し 6 0 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	疾病治療、発達段階について復習しておく 講師によって事前課題や復習が必要となる	テキスト	地域・在宅看護論の基盤（医学書院） 地域・在宅看護論の実践（医学書院） 小児臨床看護概論（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	地域・在宅看護の実践と展開 1. 地域・在宅看護の特徴を知り、療養者に合わせた看護の意義と展開方法を理解する	1. 療養者と家族の思いから始まる看護 2. さまざまな人たちが力を合わせる看護 3. 長期的なかかわりが必要になる看護 4. 地域・在宅看護における看護過程 1) 看護過程とその意義 2) 地域・在宅看護における看護過程の基本 3) 地域・在宅看護における看護過程の展開 5. 地域・在宅看護過程の展開方法 1) 地域・在宅看護過程の特徴 2) 地域・在宅看護過程における情報収集とアセスメント 3) 地域・在宅看護過程における看護目標の設定・計画 4) 地域・在宅看護の実施と評価 5) 地域・在宅看護過程をさらに発展させる視点 6) 地域・在宅看護の標準化に向けた取り組み	1. 地域・在宅看護で必要とするケアの特徴を述べることができる 2. 地域・在宅看護の看護過程の意義と展開方法について述べるができる	講義
3 4 5	6	地域・在宅における時期別の看護と事例展開 1. 地域・在宅療養者の時期に合わせた看護を理解する 2. 地域・在宅看護における看護実践の考え方を理解する	1. 健康な時期の看護 1) 健康な時期とは 2) 健康な時期のおもな看護目標 3) 健康な時期のおもな看護計画 2. 外来受診期における看護 1) 外来受診期とは 2) 外来受診期のおもな看護目標 3) 外来受診期のおもな看護計画 3. 入院時の看護 1) 入院時とは 2) 入院時のおもな看護目標 3) 入院時のおもな看護計画	1. 療養者の時期に合わせた在宅看護の目標・計画を述べるができる 2. 在宅療養者の特徴に合わせた看護の必要性について述べるができる 3. 地域・在宅看護における看護実践の考え方を理解できる	講義

			4. 在宅療養準備期（退院前）の看護 1) 在宅療養準備期とは 2) 在宅療養準備期のおもな看護目標 3) 在宅療養準備期のおもな看護計画 5. 在宅療養移行期の看護 1) 在宅療養移行期とは 2) 在宅療養移行期のおもな看護目標 3) 在宅療養移行期のおもな看護計画 6. 在宅療養安定期の看護 1) 在宅療養安定期とは 2) 在宅療養安定期のおもな看護目標 3) 在宅療養安定期のおもな看護計画 7. 急性増悪期の看護 1) 急性増悪期とは 2) 急性増悪期のおもな看護目標 3) 急性増悪期のおもな看護計画 8. 終末期の看護（グリーフケアを含む） 1) 終末期とは 2) 終末期のおもな看護目標 3) 終末期のおもな看護計画 9. 在宅療養終了期の看護 10. 地域・在宅看護の事例展開 1) 事例を学ぶにあたって (1) 1人ひとりの「物語」に合わせて看護を展開する活動 (2) 多様な対象者に多彩なケアを行う活動		
6 7	4	重症心身障害児の看護 1. 疾病や障害をもつ小児が安定した在宅生活を継続できるための支援を理解する	1. 在宅ケアを必要とする小児の特徴 2. 在宅生活を必要とする小児に対する基本的な看護 1) 疾病や障害をもつ小児をめぐる環境 2) 医療的ケアが必要な小児に対する看護の方法と技術 ・経鼻経管栄養・胃ろう ・吸引 ・人工呼吸器の管理 3) 日常生活への支援 3. 家族への支援 4. 社会資源の活用およびネットワークづくり	1. 在宅ケアが必要な小児の特徴と支援が理解できる 2. 在宅ケアが必要な小児に対する基礎的な看護が理解できる 3. 疾病や障害をもつ小児を支える家族の現状と支援について理解できる 4. 在宅生活を支える地域の社会資源の活用およびネットワークづくりの意義について理解できる	講義
8 9	4	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の療養者に対する在宅看護 1. COPDの療養者が安定した在宅生活を継続するための支援を理解する	1. 在宅ケアを必要とする COPD の療養者の特徴 2. 在宅生活で必要とする療養者の理解と看護 1) 疾病の概要と病みの軌跡や APC の理解 2) COPD の療養者に必要な看護の方法と技術 ・正しい呼吸法 ・吸入 ・排痰法 ・在宅酸素療法 (HOT) の管理 3) 日常生活への支援 3. 家族への支援 4. 社会資源の活用およびネットワークづくり	1. 在宅でのケアの特徴が理解できる 2. 在宅での療養者及び家族への支援が理解できる 3. 在宅でのケアにおけるチームケアの役割が理解できる	講義
10 11	4	筋萎縮性側索硬化症 (ALS)で人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護 1. ALS の療養者が安定した在宅生活を継続するための支援を理解する	1. 在宅ケアを必要とする ALS の療養者の特徴 2. 在宅生活で必要とする療養者の理解と看護 1) ALS の経過の理解 2) ALS の療養者に必要な看護の方法と技術 ・コミュニケーションの工夫 ・吸引 ・胃瘻の管理 ・NPPV・TPPV の管理 3) 日常生活への支援 3. 家族への支援 4. 社会資源の活用およびネットワークづくり	1. 在宅でのケアの特徴が理解できる 2. 在宅での療養者及び家族への支援が理解できる 3. 在宅でのケアにおけるチームケアの役割が理解できる	講義

12 13	4	パーキンソン病の療養者に対する在宅看護 1. パーキンソン病の療養者が安定した在宅生活を継続するための支援を理解する	1. 在宅ケアを必要とするパーキンソン病の療養者の特徴 2. 在宅生活で必要とする療養者の理解と看護 1) パーキンソン病の経過の理解 2) パーキンソン病の療養者に必要な看護の方法と技術 ・意思決定支援 ・安全の確保 ・精神症状への対応 3) 日常生活への支援 3. 家族への支援 4. 社会資源の活用およびネットワークづくり	1. 在宅でのケアの特徴が理解できる 2. 在宅での療養者及び家族への支援が理解できる 3. 在宅でのケアにおけるチームケアの役割が理解できる	講義
14 15	4	認知症療養者の看護 1. 認知症の療養者が在宅での安定した生活を継続するための支援を理解する	1. 在宅ケアを必要とする認知症の療養者の特徴 2. 在宅生活で必要とする療養者の理解と看護 1) 認知症の種類による症状の違いの理解 2) 認知症の療養者に必要な看護の方法と技術 ・知覚異常への対応 ・安全の確保 ・既往の身体疾患の管理 ・自尊感情への配慮 3) 日常生活への支援 3. 家族への支援 4. 社会資源の活用およびネットワークづくり	1. 在宅でのケアの特徴が理解できる 2. 在宅での療養者及び家族への支援が理解できる 3. 在宅でのケアにおけるチームケアの役割が理解できる	講義
16	2	リハビリテーションを必要とする療養者の看護 1. 地域での生活を継続するために、在宅療養者が潜在能力を活かし自立した生活を再構築するための支援を理解する	1. リハビリテーションの概念とリハビリテーション看護 1) 在宅療養者が必要としているリハビリテーション看護とは 2) リハビリテーション看護の立場からみた国際生活機能分類（ICF） 2. リハビリテーションの実際 1) 運動機能障害とリハビリテーション 2) 生活リハビリテーション 3. 福祉用具の活用・住宅改修の必要性 1) 福祉用具の種類と特徴 2) 住宅改修の必要性とポイント	1. リハビリテーションの概念と基本的アプローチが理解できる 2. リハビリテーションの基本的な援助方法が理解できる 3. 住宅改修の必要性和福祉用具の活用が理解できる	講義
17 18 19	6	終末期にある療養者の看護 1. 在宅療養者と家族が終末期の時間を可能な限り安楽に過ごし、死を迎えるための支援を理解する	1. 在宅における終末期ケアの特徴 2. 終末期における在宅療養者への支援 1) 療養者の情報と退院までの経過 2) 終末期前期（初期）の看護 3) 終末期中期（安定期）の看護 4) 終末期後期（終末期・臨死期）の看護 5) 死亡直後の看護 3. 家族への支援 4. チームケア	1. 在宅での終末期ケアの特徴が理解できる 2. 在宅で死を迎える療養者及び家族への支援が理解できる 3. 在宅での終末期ケアにおけるチームケアの役割が理解できる	講義
20 21 22	6	在宅療養者への日常生活支援の実際 1. 安定した在宅生活を継続するための支援を理解する	1. 療養者の状況に応じたケアの実際…● 1) 保清 2) 移動 3) 褥瘡の予防	1. 在宅療養者の状況に応じた日常生活援助の実際が理解できる	演習
23	1	単位認定終講試験			

●演習

地域・在宅看護援助論Ⅲ

開講時期	Ⅳ	単位数	2	時間数	4 5 時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験		訪問看護ステーション勤務経験有 企業勤務看護師 大阪労災病院地域連携室 MSW 看護師	
科目目標	1．地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働について理解する 2．多様な場（産業活動含む）における地域・在宅看護マネジメントを理解する 3．地域・在宅看護活動の実際を調査し、地域ニーズと暮らしの場の実際を理解する				

	4. 看護過程の展開を理解する 5. 訪問看護時のマナーを理解する		
評価方法	筆記試験 120点 課題提出 30点	認定基準	筆記試験 100点換算し 60点以上で合格 事例展開 18点以上で合格
時間外学習（予習・復習・課題）	講師によって事前課題や復習が必要となる	テキスト	地域・在宅看護論の基盤（医学書院） 地域・在宅看護論の実践（医学書院） 医療概論（医学書院）公衆衛生（医学書院） 講師作成資料

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働 1. 多職種連携と他職種の協働について理解する 2. 多職種・他職種間で協働する際の看護師の役割について理解する	1. 地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働 1) 看護師が連携・協働において果たす役割 2) 多職種チームでかかわる意義 3) 地域・在宅看護実践における多職種チーム 2. 医療・福祉・介護関係者との連携・協働 1) 地域共生社会の実現に向けた連携 2) 地域・在宅看護の現場における連携・協働 3. 医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働 1) 地域資源の可視化 2) 地域資源の開発プロセス 3) インフォーマル、フォーマルな資源の連携・協働 4. 地域共生社会を実現するために 1) ケアの総量を増やす 2) 動的な調和を繰り返す 3) 地域共生の文化の醸成	1. 多職種との連携・協働の意義について述べることができる 2. 多職種との連携・協働における看護師の役割について述べるができる	講義
3 4	4	地域・在宅看護マネジメント 1. 地域・在宅看護におけるマネジメントについて理解する 2. 多様な場で必要とされる地域・在宅看護マネジメントについて理解する	1. 地域・在宅看護マネジメントとは 1) マネジメントの考え方と地域・在宅看護マネジメント 2) ケアマネジメントの考え方と地域・在宅看護マネジメント 3) 地域・在宅看護マネジメントのとらえ方 2. 多様な場における地域・在宅看護マネジメント 1) 病棟で行う地域・在宅看護マネジメント-退院支援- 2) 外来における地域・在宅看護マネジメント 3) 介護保険制度上の地域・在宅看護マネジメント 4) 地域住民とともに行う地域・在宅看護マネジメント	1. 地域・在宅看護に必要とされるマネジメントについて述べるができる 2. 地域・在宅看護マネジメントが必要とされる場について述べるができる	講義
5 6 7	6	地域・在宅看護活動の創造と展開例 1. 地域・在宅看護活動を創造する意義や方法について理解する 2. さまざまな地域・在宅看護活動の実際の展開例について理解する 地域・在宅看護活動の創造の実際 1. 地域・在宅療養者を支える資源と活用について理解する	1. 地域・在宅看護活動の創造 2. 「暮らしの保健室」の例 1) 「暮らしの保健室」とは 2) 「暮らしの保健室」の創設の経緯・活動 3. さまざまな地域・在宅看護活動の展開例 1) 子どもが地域の人々とつながる場としての例 2) がん患者や家族の相談の場としての例 3) 地域の高齢者と看護学生との交流としての例 4. 地域・在宅看護活動の創造のための考え方 1. 地域で暮らす人々の特徴、地域の特徴の理解 2. 暮らしを支える施設・機関・コミュニティの理解 3. 「暮らしを支える支援」について学習発表	1. 地域・在宅看護活動の意義や方法について述べるができる 2. 地域・在宅看護活動の創造について、自己の考えを述べるができる 1. 地域環境（自然・社会など）やそこで暮らす人々の特徴と様々な支援のつながりを調べ、発表することができる	講義 グループワーク
8 9 10	6	事業者・労働者に対して行う健康支援活動 1. 産業看護について理解することができる 2. 産業看護活動の実際を知ることができる	1. 産業看護の定義 2. 産業看護職の役割 3. 産業看護職の職務 4. 労働関連法規 5. 産業看護活動の実際 6. 保健指導の実際 7. 産業看護における看護の視点 8. これからの産業看護 9. 勤労者看護と産業看護との連携	1. 職場の安全管理と産業看護活動を理解できる 2. 実際の事例から必要な看護が理解できる	講義
11 12	4	退院支援・退院調整 1. 退院時における医療機関看護師の役割を理	1. 退院支援・退院調整とは 2. 退院支援が必要な患者・情報 3. 退院支援・退院調整における段階プロセス	1. 退院支援・退院調整の定義を述べるができる	講義

		解する	4. 患者・家族への支援の実際 5. 退院支援・退院調整における患者・家族への支援のポイント	2. 退院支援が必要な患者や情報の内容を述べることができる 3. 患者・家族への退院支援のポイントを述べることができる	
13	2	地域包括ケアシステム 1. 在宅療養生活における関係機関・関係職種間の連携や協働の実際がわかる	1. 地域包括支援センターの機能と業務 2. 配置されている職種の専門性 3. 事業の流れと内容 1) 介護予防ケアマネジメント 2) 総合相談・支援 3) 権利擁護 4) 包括的・継続的ケアマネジメント 5) 地域ケア会議 4. 地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉の連携のポイント	1. 地域包括ケアシステムの必要性を述べるができる 2. 地域包括ケアシステムに携わる関係機関・職種の専門性がわかる 3. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割・連携のポイントを述べるができる	講義
14 15	4	地域・在宅看護論実習に必要な準備 1. 訪問看護での実習で必要とされる学習姿勢・態度・準備について理解する	1. 実習に向けた心構え 2. 服装や身だしなみ 3. 態度と行動 4. 実習における学習方法 5. 感染予防 6. 事故・災害等発生時の対応 7. 個人情報の取り扱い	1. 訪問看護実習で必要とされる学習姿勢・態度・準備について述べるができる	講義
16 17	4	事例にみる地域・在宅看護、社会資源の活用 1. 療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について検討できる	1. 地域・在宅看護過程の目的 2. 地域・在宅看護過程の特徴 3. 地域・在宅看護過程の概要 4. 総合機能関連図 5. 社会支援関連図	1. 療養者と家族の生活をみる視点、理解・意向をみる視点、強みと弱みをみる視点 2. 総合機能の4領域を構成する要素がわかる	講義
18 19 20 21	10	【看護過程の展開】 1. 地域・在宅看護過程の展開を理解する	地域・在宅看護過程 1. 地域・在宅看護過程の特徴 2. 看護介入に必要な情報収集・アセスメント 3. 看護計画の立案	1. 事例を通して地域・在宅看護過程の特徴を述べるができる 2. 在宅療養者とその家族の生活上の課題を述べるができる 3. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活援助の方法と技術を述べるができる 4. 医療ケアを必要とする療養者やその家族に応じた安全管理方法を計画することができる 5. 在宅療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開を述べるができる	講義 グループワーク
22		【実践】 1. 立案した看護計画を実践し、追加・修正ができる	1. 事例に応じた看護過程の展開 ※シミュレーション演習 2. 看護実践の評価 3. 看護計画の追加修正	1. 看護計画も基づき、具体的な関わりについて実施することができる 2. 実施した看護を評価し看護計画の追加修正ができる	演習
23	1	単位認定終講試験			

専 門 分 野

成 人 看 護 学

成人看護学概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		成人看護領域病棟勤務経験有	
科目目標	1. 人間のライフサイクルにおける成人期の特徴を身体・精神・社会的側面から理解する 2. 成人保健に関する施策やヘルスケアシステムについて学ぶ 3. 勤労者である成人の特徴と看護の役割について理解する				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	医療・看護に関わる動向について 日頃から関心を持つこと 言葉の定義について事前学習	テキスト	成人看護学総論（医学書院） 国民衛生の動向		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	成人と生活 1. 大人とは何かを考えることができる 2. 成人の特徴を理解できる	1. 対象の理解－大人になること、大人であること 1) 生涯発達の特徴 2) 各発達段階の特徴（青年期・壮年期・中年期・向老期） 2. 対象の生活－働いて生活を営むこと 1) 生活を営むこと 2) 仕事を持ち、働くこと 3) 家族からとらえる大人 4) 人生をたどること	1. 成人の生活について自分の考えを述べるができる 2. 成人期の発達段階の特徴をとらえ、現在の社会状況と成人の健康・生活に与える影響について述べるができる	講義
2	2	生活と健康 1. 成人の生活と健康について理解する 2. 成人保健対策の概要を理解する	1. 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 1) 成人を取り巻く環境と生活の状況 2) 成人の健康の状況 3) 健康の維持・促進を目指した生活 2. 生活と健康を守りはぐくむシステム 1) 保健・医療・福祉システムの概要 2) 保健・医療・福祉システムの連携	1. 成人期における人々にとっての健康とは何かを述べるができる 2. 生活の現状を知りその特徴を述べるができる 3. 保健・医療・福祉システムについて述べるができる	講義
3 4 5 6	8	成人への看護アプローチの基本 1. 成人の看護の基本を理解する 2. 成人への看護アプローチの方法がわかる	1. 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助 1) 大人の健康行動のとらえ方 2) 行動変容を促進する看護アプローチ 2. 症状マネジメント 1) 症状と徴候 2) 症状マネジメントの基盤となる考え方 3) 効果的な症状マネジメントを導く看護アプローチ 3. 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 1) 医療における人間関係 2) 患者と看護師の人間関係 4. 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 1) 集団（グループ）のもつ意味 2) 看護における集団へのアプローチの種類と目的 3) 看護における集団へのアプローチの基本 5. チームアプローチ 1) チームアプローチの種類 2) チームアプローチの要素と機能 3) 患者中心のチームアプローチと看護師の役割 6. 看護におけるマネジメント 1) 看護の質の保証 2) リスクマネジメント 3) ケアマネジメント 7. 看護実践における倫理的判断 1) 医療の場における倫理的課題 2) 倫理的判断の基盤となるもの	1. 成人期の特徴をふまえた看護アプローチの方法を理解することができる 2. 看護における倫理的課題について述べるができる	講義

			3) 倫理的課題へのアプローチ 8. 意思決定支援 1) 医療におけるむずかしい決断とは 2) 意思決定とは 3) 意思決定の過程 4) 意思決定支援 5) 意思決定過程における看護師の役割 6) 意思決定過程に関与する要因 7) 意思決定支援の新しいアプローチ 9. 家族支援 1) システムとしてとらえる家族 2) 家族機能 3) 家族アセスメント 4) 家族支援の実際		
7	2	ヘルスプロモーションと看護 1. 成人の健康レベルに対応した成人看護の役割と機能について理解する	1. ヘルスプロモーションと看護 1) ヘルスプロモーション 2) 個人の主体的な健康づくり 3) 健康増進のための環境づくり 2. ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動 1) 地域社会におけるヘルスプロモーションを促進する看護 2) 職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護	1. 成人の健康レベルに対応した成人看護の役割と機能について考えることができる	講義
8	2	健康をおびやかす要因と看護 1. 成人の健康バランスに影響を及ぼす要因と健康問題について理解する 2. 生活行動がもたらす健康問題とその予防について理解する	1. 健康バランスの構成要素 2. 健康バランスに影響を及ぼす要因 1) ライフスタイルと健康問題 2) ストレスと健康生活 3. 生活行動がもたらす健康問題とその予防 1) 就業・労働形態の変化がもたらす健康問題 2) 飲酒がもたらす健康問題 3) 喫煙と健康問題 4) 身体活動量の低下と運動不足 5) 肥満 6) 生活環境衛生と健康 7) 感染症 8) 引きこもり、うつ病、ネット依存などの新たな健康問題	1. 成人の健康バランスに影響を及ぼす要因と健康問題について述べることができる 2. 生活行動がもたらす健康問題を理解し、その予防について考えることができる	講義
9	2	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 1. 生命の危機状態について理解する 2. 急性期にある人が受ける医療・看護について理解する	1. 健康の急激な破綻 1) 生命の危機状態 2) 急性期にある人が受ける医療 3) 急性期にある人の特徴 2. 急性期にある人の看護 1) 健康破綻による危機状況と危機にある人々への支援 2) 急性期の治療過程にある患者の看護	1. 生命の危機状態について述べることができる 2. 急性期にある人の特徴・医療・看護について述べることができる	講義
10	2	慢性病とともに生きる人を支える看護 1. 慢性病とともに生きる人を理解する 2. セルフケア・セルフマネジメントへの支援について理解する	1. 慢性病とともに生きる人を理解する 1) 慢性病と慢性病をもつ人の特徴 2) 慢性病とともに生きること 2. 慢性病とともに生きる人を支える 1) セルフケアおよびセルフマネジメントへの支援 2) 生活の再構築への支援	1. 慢性病とともに生きる人について述べることができる 2. セルフケア・セルフマネジメントへの支援について述べることができる	講義
11	2	障害がある人の生活とリハビリテーション 1. 障害がある人とリハビリテーションについて理解する 2. 障害がある人	1. 障害がある人とリハビリテーション 1) 障害とは 2) 障害がある人の障害の認識過程 3) 障害がある人のリハビリテーション 2. 障害がある人とその生活を支援する看護 1) 障害がある人とその生活を支援する看護の特徴 2) 看護の実際	1. 障害がある人とリハビリテーションについて述べることができる 2. 障害がある人の生活を支援するための看護を述べることができる	講義

		の生活を支援するための看護を理解する			
1 2	2	人生の最期のときを支える看護 1. 人生の最期のときにおける医療の現状を理解する 2. 人生の最期のときを過ごしている人を理解する 3. 人生の最期のときを支える看護について理解する	1. 人生の最期のときにおける医療の現状 1) 延命医療から患者の自己決定を重視した医療へ 2) 人生の最期のときにおける緩和ケア 2. 人生の最期のときを過ごしている人の理解 1) 人間にとっての死 2) 全人的苦痛（トータルペイン） 3) 死とともに生きること 3. 人生の最期のときを支える看護 1) 看護の目的 2) 援助者の態度 3) 人生の最期のときを支える看護師の役割・機能	1. 人生の最期のときにおける医療の現状を述べるができる 2. 人生の最期のときを過ごしている人について述べるができる	講義
1 3	2	さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援 1. 療養の場の移行支援が必要とされる人の背景について理解する 2. 継続的な移行を支える支援の実際が理解する	1. 移行支援の基礎知識 1) 移行と移行支援 2) 療養の場の移行支援が必要とされる背景 3) 療養の場の移行を支える看護アプローチの特徴 2. 継続的な移行を支える支援の実際 1) 生命の危機状況を脱し、病とともに生活する人の療養の場の移行支援 2) 人生の最期のときにある人の療養の場の移行支援	1. 療養の場の移行支援が必要とされる人の背景について述べるができる 2. 継続的な移行を支える支援の実際を述べるができる	講義
1 4	2	新たな治療法、先端医療と看護 1. 新たな治療法・医療処置の開発・普及について理解する 2. 新たな治療法や医療処置を受ける患者・家族の看護について理解する	1. 新たな治療法・医療処置の開発・普及 1) 移植・再生医療 2) 臨床試験（治験） 3) 遺伝医療・ゲノム医療 3. 新たな治療法や医療処置を受ける患者・家族の看護 1) 新たな治療法の選択における問題 2) 看護方法の開発	1. 新たな治療法・医療処置の開発・普及について述べるができる 2. 新たな治療法や医療処置を受ける患者・家族の看護について述べるができる	講義
1 5	2	単位認定終講試験			

成人看護学援助論Ⅰ（急性期・周手術期）

開講時期	Ⅲ	単位数	2	時間数	60時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験		消化器外科病棟勤務経験有 手術室勤務経験有 循環器内科病棟勤務経験有 大阪労災病院勤務 専門看護師・ 認定看護師	
科目目標	1. 勤労者である成人の特徴と看護の役割について理解する				

	2. 急性期にある人の回復支援について理解する 3. 急性期にある人の病態や検査・治療、および周手術期にある人の心身に及ぼす影響を学び、看護師の役割を理解する		
評価方法	筆記試験 200点 課題提出 30点	認定基準	筆記試験100点換算し60点以上で合格 事例展開18点以上で合格
時間外学習（予習・復習・課題）	事例展開は胃がん罹患の勤労者を対象とし、全体像、一次・二次アセスメント、NCP立案、シミュレーション、自己学習やグループワークで行う	テキスト	成人看護学総論 臨床外科看護総論 臨床外科各論 臨床看護総論 クリティカルケア看護学 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 臨床看護総論 臨床検査 循環器 呼吸器 消化器 脳・神経 運動器 NANDA－Ⅰ看護診断：定義と診断（医学書院） 周手術期看護論（ヌーベルヒロカワ） 講師作成資料

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	外科医療の基礎 1. 手術侵襲と生体反応を理解する	1. 外科的治療の特徴と変遷 2. 手術侵襲と生体の反応 1) 手術侵襲 2) 侵襲に対する生体の反応 3) サイトカインによる生体調節機構	1. 手術侵襲について述べるができる 2. 生体反応について述べるができる	講義
2	2	救急看護の基礎 1. 救急看護の特徴的な知識を習得する	1. 救急処置法の実際 1) 救急処置の範囲と対象 2) 救急処置法の原則と実際 2. 救急看護の実際 1) 救急医療の現状 2) 救急看護の役割 3) 救急患者発生時の看護	1. 救急処置法を理解することができる 2. 救急処置の基本を述べるができる 3. 救急看護の役割について述べることができる	講義
3	2	手術前患者の看護 1. 手術前における看護の役割と実際を理解する	1. 外来における手術前の患者の看護 1) 診断過程における援助 2) 心の整理と意思決定の支援 3) 全身状態を整えるための支援 4) 手術に向けた患者教育・指導 2. 手術前の具体的援助 1) 手術前オリエンテーション 2) 手術までの準備 3) ボディイメージ（身体像）の変容に対する支援 4) 手術前日の準備 5) 手術当日の看護	1. 手術前における看護師の役割について理解できる 2. 手術前に必要な観察・判断と看護の実践方法を述べるができる	講義

4	2	外科治療を支える分野 1. 麻酔の基本を理解する 2. 麻酔が身体へ及ぼす影響を理解する 3. 麻酔に関する看護の役割を理解する	1. 麻酔法 1) 麻酔 2) 麻酔の種類 3) 術前管理 4) 術中管理 5) 術後管理 6) 全身麻酔 7) 局所（区域）麻酔	1. 麻酔薬の薬理機序についての知識を習得し、麻酔を受ける患者の身体の管理について述べるができる	講義
5	2	手術中患者の看護 1. 手術中の看護の役割について理解する	1. 手術中の看護の要点 1) 手術療法と患者の状況 2) 手術室の安全管理 2. 手術室における看護の展開 1) 入室前の看護	1. 手術中に必要な観察・判断と看護の実践方法を述べるができる	講義

			2) 入室時の看護 3) 麻酔導入時の看護 4) 手術中の看護 5) 手術終了時の看護 6) 病棟への引き継ぎ 3. 手術室の環境管理		
6 7 8	6	手術後患者の看護 1. 手術後に起こりやすい合併症について理解する 2. 手術後の看護の役割について理解する	1. 手術後の回復を促進するための看護 1) 手術後の看護目標 2) 患者のアセスメント 3) 環境を整える 4) 早期離床の促進 5) 手術後の疼痛管理 6) 輸液と栄養の適切な管理 7) ドレーンの管理 2. 術後合併症の発生機序 3. 起こりやすい合併症の予防と発症時の対応	1. 手術後に起こりやすい合併症について述べるができる 2. 手術後に必要な観察・判断と看護の実践方法を述べるができる	講義
9 10	4	クリティカルケアを受ける患者の看護 1. クリティカルケアのための特徴的な看護の知識を理解する	1. クリティカルケア看護とは 1) クリティカルケア看護の特性 2) クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴 2. クリティカルケア看護の実践に必要なマネジメント、倫理・法律 1) クリティカルケアと看護管理 2) クリティカルケア看護とチーム医療 3) クリティカルケア看護と倫理・法律 3. クリティカルケア看護に必要な看護技術 1) 呼吸管理 2) 体液・循環管理 3) 鎮痛・鎮静管理 4) 体温管理 5) 早期回復への援助 6) ME機器管理 7) 危機状態にある患者・家族へのケア	1. クリティカルケアに必要な観察・判断と看護の実践方法を述べるができる	講義
11 12	4	急性の循環機能障害のある患者の看護 1. 循環機能障害の特徴と看護の実際を理解する	1. 虚血性心疾患患者の看護 1) 安定冠動脈疾患患者の看護 2) 急性冠症候群患者の看護 2. 心不全の患者の看護 1) 急性心不全患者の看護 2) 慢性心不全患者の看護 3. 心臓カテーテル検査を受ける患者の看護 4. 冠動脈バイパス術を受ける人の看護 5. 大血管再建術を受ける人の看護 1) 手術前の看護 2) 手術直後の看護 3) 回復期の看護	1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法を述べるができる	講義

13 14	4	急性の脳・神経機能障害のある患者の看護 1. 脳・神経機能障害の特徴と看護の実際を理解する	1. 開頭手術を受ける患者の看護 1) 手術前の看護 2) 手術後の看護 2. 化学療法・放射線療法を受ける患者の看護 1) 化学療法を受ける患者の看護 2) 放射線療法を受ける患者の看護 3) ガンマナイフ治療を受ける患者の看護 3. 疾患をもつ患者の看護 1) クモ膜下出血患者の看護 2) 脳梗塞患者の看護 3) 脳腫瘍患者の看護 4) 下垂体腺腫の摘出術を受ける患者の看護 5) 頭部外傷患者の看護	1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法を述べるができる	講義
----------	---	--	---	--	----

15	2	消化管の検査・治療を受ける患者の看護 1. 消化管検査・治療の特徴と看護の実際を理解する	1. 検査を受ける患者の看護 1) 消化器内視鏡検査を受ける患者の看護 2. 手術療法を受ける患者の看護 1) 内視鏡手術を受ける患者の看護 2) 開腹手術を受ける患者の看護	1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法を述べることができる	講義
16 17 18	6	急性の栄養摂取・消化機能障害のある患者の看護 1. 栄養摂取・消化機能障害の特徴と看護の実際を理解する	1. 消化管手術を受ける患者の看護 1) 食道の手術を受ける患者の看護 2) 胃の手術を受ける患者の看護 3) 大腸の手術を受ける患者の看護 4) 胆嚢・胆道の手術を受ける患者の看護 5) 肝臓・膵臓の手術を受ける患者の看護	1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法を述べることができる	講義
19 20	4	急性の運動機能障害のある患者の看護 1. 運動機能障害の特徴と看護の実際を理解する	1. 運動器疾患をもつ急性期の患者の看護 2. 検査・診断を受ける患者の看護 3. 保存療法を受ける患者の看護 1) ギプス固定を受ける患者の看護 2) 副子固定を受ける患者の看護 3) 牽引療法を受ける患者の看護 4. 手術を受ける患者の看護 1) 手術前の看護 2) 手術後の看護 3) 上肢（帯）の手術と看護 4) 体幹（脊椎および脊髄）の手術と看護 5) 下肢（帯）の手術と看護	1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法を述べることができる	講義
21	2	急性の呼吸機能障害のある患者の看護 1. 呼吸機能障害の特徴と看護の実際を理解する	1. 治療・処置を受ける患者の看護 1) 手術を受ける患者の看護 2. 疾患をもつ患者の看護 1) 肺がん患者の看護	1. 疾患とその治療について理解し、観察と適切な判断・看護援助の方法を述べることができる	講義
22 23 24 25	8	【看護過程の展開】 周手術期にある勤労者患者の看護 1. 周手術期にある勤労者の成人期患者の事例を用いて回復に向けての身体管理を行うための看護過程の展開方法が理解できる	1. 看護介入に必要な情報収集・アセスメント 2. 看護計画の立案 3. 看護実践の評価 4. 看護計画の追加・修正	1. 事例を通して周手術期にある勤労者のアセスメントを行い、看護計画が立案できる	講義 グループワーク
26 27 28 29	8	【実践】 周手術期にある勤労者患者の看護 1. 周手術期の患者の看護過程の展開ができる	1. 事例に応じた看護過程の展開 ※シミュレーション演習 2. 看護実践の評価 3. 看護計画の追加・修正	1. 事例展開で立案した計画を実践し、回復に向けての身体管理に重要な看護技術の基本を実施することができる 2. 実施した看護を評価し、看護計画の追加・修正ができる	演習
30	2	単位認定終講試験			

成人看護学援助論Ⅱ（慢性期・回復期）

開講時期	Ⅲ	単位数	2	時間数	4 5 時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験	慢性疾患病棟勤務経験有 大阪労災病院勤務 認定看護師		
科目目標	1. 勤労者である成人の慢性期・回復期における疾病の特徴と対象を理解する 2. 疾病と共に生きる過程、回復過程の支援と看護の役割を理解する				
評価方法	筆記試験 180点 課題提出 30点	認定基準	筆記試験100点換算し60点以上で合格 事例展開18点以上で合格		

時間外学習（予習・復習・課題）	人体の構造と機能、基本的な病態 生理や診断を理解 疾病に応じた看護の役割について 自己学習	テキスト	成人看護学総論 成人看護学（医学書院） 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 健康行動理論の基礎（医歯薬出版）
-----------------	--	------	--

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	慢性病とともに生きる人を支える看護 1. 慢性病とともに生きる人について理解する 2. 慢性病とともに生きる人のセルフマネジメントの必要性と、その支援方法について理解する	1. 慢性病とともに生きる人を理解する 1) 慢性病と慢性病をもつ人の特徴 2) 慢性病とともに生きること 2. 慢性病とともに生きる人を支える 1) セルフケアおよびセルフマネジメントへの支援 2) 生活の再構築への支援	1. 慢性病の概念と慢性的な病状や治療が患者の身体・精神・社会的側面に与える影響を述べるができる 2. 患者を支援するための方法について述べるができる 3. 慢性病を持ちながら生活するための看護について述べるができる 4. セルフマネジメントへの支援の方法について述べるができる	講義
2 3	4	慢性病とともに生きる人の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	1. 糖尿病の人の看護 1) 糖尿病の診断・治療・合併症における看護の実際 2) 糖尿病患者の療養教育の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べるができる	講義
4 5	4	慢性病とともに生きる人の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	2. 腎不全、透析導入の人の看護 1) 血液透析・腹膜透析・腎臓移植を受ける患者の教育と看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べるができる	講義
6	2	慢性病とともに生きる人の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	3. 心不全の人の看護 1) 食事療法、薬物療法、安静療法を受ける患者の教育と看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べるができる	講義
7	2	慢性病とともに生きる人の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	4. 肝炎の人の看護（慢性肝炎、肝硬変を含む） 1) 安静療法、食事療法、薬物療法を受ける患者の教育と看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べるができる	講義
8	2	慢性病とともに生きる人の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	5. 血液・造血器疾患の人の看護 1) 造血器腫瘍、免疫機構の障害をもつ患者の特徴と看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べるができる	講義
9	2	慢性病とともに生きる人の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護	6. 肺結核の人の看護 1) 結核患者の療養教育・服薬支援・ソーシャルサポートと看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べるができる	講義

		護を理解する			
10	2	慢性病とともに生きる人の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	7. 関節リウマチの人の看護 1) 手術療法・薬物療法・リハビリテーションを受ける患者の療養教育と看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べることができる	講義
11	2	慢性病とともに生きる人の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	8. 脊髄損傷の人の看護 1) 脊髄損傷患者の療養教育・リハビリテーションを受ける患者の看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べることができる	講義
12 13	4	慢性病とともに生きる人の理解と看護の実際 1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とし、セルフマネジメントを実践していくための看護を理解する	9. 免疫機能低下の人の看護 1) 膠原病の人の看護の実際 2) エイズの人の看護の実際	1. 各疾患を患う人の病態・治療が生活に及ぼす影響を理解し、マネジメント教育と看護援助の方法を述べることができる	講義
14	2	学習支援 1. 看護における教育指導の目的と意義が理解できる 2. 健康教育における看護師の役割について理解できる 3. 成人の健康生活を促すための看護技術について理解できる	1. 学習支援の対象者と看護の役割 2. 学習の基礎知識 3. 学習支援の基礎知識 1) 学習支援の基本的な考え方 2) さまざまな場における学習支援 4. 学習支援の技術 1) 学習支援の進め方 2) 学習支援の方法 3) 教材 5. 学習支援の実際 1) 患者個人を対象とした学習支援 2) 患者とその家族を対象とした学習支援	1. 健康状態の変化に応じた教育・指導の特徴について述べることができる 2. 看護における教育指導の意味を述べることができる 3. 健康教育のありかたについて述べることができる 4. エンパワメントを促すためのアプローチ方法を述べることができる	講義
15 16	4	健康行動理論の基礎 1. 学習援助型健康教育の諸理論と実際について理解することができる	1. 健康行動理論 1) 健康信念モデル（ヘルス・ベリーフ・モデル） 2) 自己効力感（セルフ・エフィカシー） 3) 変化のステージモデル 4) 計画的行動理論 5) ストレスとコーピング 6) ソーシャルサポート（社会的支援） 7) コントロール所在	1. 健康信念モデルについて説明することができる 2. 健康信念モデルを使って、人が健康に良いとされる行動をとるための条件、関わりの方向性を考えることができる 3. 自己効力感について説明することができる 4. 計画的行動理論について説明することができる 5. 計画的行動理論を使って、人の「やる気」と行動との関係を考え、関わりの方向性を考えることができる 6. ストレッサーに対する適応方法とソーシャルサポートの活用について理解できる 7. コントロール所在について説明できる	講義
17 18 19 20 21	10	【看護過程の展開】 慢性期にある勤労者の看護 1. 事例を通して、慢性期にある勤労者のアセスメントを行い、看護計画が立案できる	1. 看護介入に必要な情報収集・アセスメント 2. 看護計画の立案 *個人ワーク 3. 事例に応じた健康行動理論の展開 *グループワーク	1. 看護過程を通して、慢性期にある患者の看護について述べることができる 2. 看護介入に必要な情報収集ができる 3. 看護計画の立案ができる 4. 看護計画に基づいて健康教育を考えることができる 5. 事例を通して、慢性期にあ	講義 グループワーク

				る患者の行動変容や強化を促すための具体的な関わりについて考えることができる 6. 事例を通して、健康行動理論を用いて患者の健康行動をアセスメントすることができる	
2 2	2	【実践】 慢性期にある勤労者の看護 1. 慢性期の患者の看護過程の展開ができる	1. 事例に応じた看護過程の展開 *シミュレーション演習 2. 看護実践の評価 3. 看護計画の追加・修正	1. 健康行動理論を用いて、看護計画に基づき、行動変容や強化のための具体的な関わりについて実施できる 2. 事例展開で計画した教育方法を実際に作成・実施し、共有することができる 3. 実施した看護を評価し、看護計画の追加修正ができる	演習
2 3	1	単位認定終講試験			

成人看護学援助論Ⅲ（終末期）

開講時期	Ⅳ	単位数	1	時間数	30 時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験		緩和ケア病棟勤務経験有 大阪労災病院勤務 認定看護師	
科目目標	1. がん治療の場と看護の実際を理解する 2. 緩和ケアにおける看護介入の実際を理解する 3. 緩和ケアを必要とする患者の家族の悲嘆やおかれた状況、支援の方法を理解する 4. 自己の死生観を洞察することができる				
評価方法	筆記試験 130点	認定基準		100点換算し60点以上で合格	
時間外学習（予習・復習・課題）	がん医療の動向や政策などに関する報道に関心をもつこと 各講義終了後は復習を行い、緩和ケアや死生観について、みずからの考えを深めること	テキスト		緩和ケア(医学書院) がん看護学(医学書院) 臨床放射線医学(医学書院) 成人看護学総論(医学書院) 臨床薬理学(医学書院) 講師作成資料	

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	緩和ケアの現状と展望 1. 緩和ケアの歴史と発展について理解する 2. 緩和ケアの定義と関連する概念を理解する 3. 緩和ケアの展望について理解する 医療スタッフのケア	1. 緩和ケアの歴史と発展 1) 世界の緩和ケア 2) わが国の緩和ケア 2. 緩和ケアの理念 1) 緩和ケアの定義 2) 全人的苦痛 3) Quality of Life (QOL) 4) 全人的ケア 3. 緩和ケアの展望 1) 緩和ケアの教育・研修 2) 緩和ケア提供体制の整備・拡充 3) 心にかける 1. ストレスマネジメント	1. 緩和ケアがどのように発展してきたのか、世界とわが国、それぞれの歴史、および発展、展望を述べることができる 2. WHOによる緩和ケアの定義を述べることができる 3. 全人的苦痛とはなにか、全人的ケアとはなにかを述べるができる 1. ストレスに対して行うケアには、	講義

		1. 医療者のストレス要因とそれによって引き起こされる状態を理解する 2. ストレスに対処する法方やケアを学ぶ 3. 臨床での介入や医療者のセルフケアに活用されるマインドフルネスについて、その概念や実践方法を学ぶ	1) 医療者のストレス 2) レジリエンス 3) ストレスケア 2. マインドフルネス 1) マインドフルネスの背景 2) マインドフルネスによる医療スタッフへのケア	どのようなことが有効か、個人で行うものと組織で行うものについて述べるができる 2. マインドフルネスの実践方法として、正式な練習と日常生活で行うものそれぞれにどのようなものがあるか述べるができる	
2 3 4	6	がん看護の実際 1. がんに対する薬物療法・放射線療法についてその流れと実際について理解する 2. 薬物療法・放射線療法のそれぞれについての看護のポイントを理解する 3. 緩和ケアの歴史と発展について理解する	1. がんの治療 1) 薬物療法 2) 放射線療法 2. がん治療に対する看護 1) 薬物療法における看護 2) 放射線療法における看護 3. がん治療の場と看護 1) 外来がん看護	1. 薬物療法に関して、導入から実施、副作用への対応までの一連の流れ、抗悪性腫瘍薬の特徴、薬物療法の治療計画（レジメン）、薬物療法の限界、具体的な薬物療法の実際について説明できる 2. 放射線療法に関して、治療法の特徴、計画から実施、その後の観察までの一連の流れ、具体的な治療法の実際について説明できる 3. 薬物療法・放射線療法のそれぞれについて、アセスメントから準備教育、意思決定支援、治療中・治療後の症状の管理や合併症予防、セルフケア支援について述べるができる 4. 外来がん看護の役割を述べるができる	講義
5	2	緩和ケアにおけるチームアプローチ 1. 緩和ケアにおけるチームアプローチの意識について学ぶ 2. 緩和ケアにおける看護師の専門性と多職種との連携について学ぶ 3. チームアプローチにおけるメンバーシップとリーダーシップについて学ぶ 緩和ケアに関する教育 1. 基礎教育と継続教育において、緩和ケアに関する教育のあり方を学ぶ 2. ジェネラリストおよびスペシャリストのための教育について、プログラム制度を学ぶ 緩和ケアにおける研究 1. 緩和ケアにおける研究の意義やその特徴を学ぶ 2. 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき、緩和ケアにお	1. 緩和ケアにおけるチームアプローチの意義 1) 生命をおびやかす疾患の診断を受けたとき 2) 侵襲を伴う治療を選択するとき 3) 人生の最終段階が近づいているとき 2. チームアプローチにおいて求められる専門性 1) 専門性とは 2) 緩和ケアにおいて看護師に求められる専門性 3) さまざまなチームメンバー 3. チームアプローチにおけるメンバーシップ 1) チームのネットワーク 2) メンバーシップとリーダーシップ 3) メンバーとのコミュニケーション 1. 緩和ケアの基礎教育 2. 緩和ケアにおける継続教育 1) ジェネラリストの教育 2) スペシャリストの教育 1. 緩和ケアにおける研究 2. 緩和ケアにおける研究と倫理 3. 緩和ケアの研究の計画と実施	1. 緩和ケアにおけるチーム医療の中で、看護師はどのような役割を担い責任を果たしていくのかを述べるができる 2. 地域がん診療連携拠点病院としての大阪労災病院の役割を述べるができる 1. 看護師に対する緩和ケア教育がどのように行われているか述べるができる 1. 緩和ケアの研究に特有の問題にはどのようなものがあるか述べるができる	講義

		ける研究倫理を学ぶ 3. 緩和ケアに関する研究を計画・実施する際の留意点を理解する			
6	2	緩和ケアにおけるコミュニケーション 1. コミュニケーションの種類や基本的なスキルについて学ぶ 2. 看護師が行うコミュニケーションの意義とコミュニケーションに関する患者と医療者の認識を理解する 3. コミュニケーション技術を身につけるためのスキルとプログラムを学び、難しい場面でのコミュニケーションスキルを身につける	1. コミュニケーションにおける基本的知識 1) 医療におけるコミュニケーション 2) コミュニケーションの種類 3) コミュニケーションの基本スキル 2. 看護師のコミュニケーションの意義 3. コミュニケーションに関する患者と医療者の認識 1) コミュニケーションに関する医療者の意識 2) コミュニケーションに関する患者の意向 4. コミュニケーションを支えるスキルとプログラム 1) コミュニケーション・スキル・トレーニング・プログラム 2) 患者を対象としたプログラム 5. 難しい場面でのコミュニケーション 1) 患者が怒りを表出したとき 2) 患者が「死にたい」と訴えたとき 3) 患者が自身の話をしないとき 4) 患者が治療をあきらめたくないとき話すとき	1. 緩和ケアにおけるコミュニケーション技術を学び、難しい場面でのコミュニケーションについて、いくつかの方法を述べることができる	講義
7	2	緩和ケアにおける倫理的課題 1. 緩和ケアにおける倫理的ケアの実践の基盤となる倫理の基本的知識を習得する 2. 緩和ケアの臨床における看護師による適切な意思決定支援について理解する 3. 緩和ケアの臨床における倫理的課題を同定し、対策を検討するための知識を習得する	1. 生命倫理と看護倫理 1) 倫理 2) 生命倫理 3) 臨床倫理と看護倫理 4) 看護者の倫理綱領 5) 生命倫理の4原則 2. 意思決定支援 1) インフォームド・コンセント 2) アドバンス・ケア・プランニング 3. 緩和ケアをめぐる倫理的課題 1) 倫理的問題 2) 緩和ケアの臨床で直面する倫理的課題 3) 倫理的問題への対応 4) 倫理委員会	1. 意思決定支援における医療従事者の役割を述べるができる 2. 緩和ケアにおける倫理的課題に対し、倫理的な視点からどのように対応したらよいか、自分の考えを述べるができる	講義
8 9 10 11	8	全人的ケアの実践 1. 身体的苦痛を理解し、アセスメントの方法、マネジメントの実践、日常生活を支えるケアについて学ぶ 2. 精神的苦痛を理解し、精神状態のアセスメントの方法、よくみられる精神症状・状態への対応について学ぶ 3. 社会的苦痛を理解し、疾患や障害をもつ患者の暮らしの支援、在宅療養へ	1. 身体的ケア：苦痛をやわらげ日常生活を営むための援助 1) 身体的苦痛のマネジメント 2) 日常生活を整える援助 2. 心理的ケア：病によるストレスへの対処の力とその支援 1) 生命をおびやかす疾患と治療による心への影響と適応 2) 精神状態のアセスメントと方法 3) おもな精神症状・精神状態と対応 4) 精神科との連携方法 5) 支持的精神療法 6) 認知行動療法 3. 社会的ケア：住み慣れた地域での	1. 緩和ケアにおける看護介入の特徴を述べるができる 2. 主要な身体症状のマネジメントとケアにおける看護師の具体的な役割を述べるができる 3. 主要な身体症状の薬物療法の概要を述べるができる 4. がんに対する心理的反応、危機介入、コーピングの理論を活用して、がん患者の精神的ケアを述べるができる 5. 各精神症状の診断とマネジメントについて述べるができる 6. 社会的苦痛にはどのようなもの	講義

		の移行支援について学ぶ 4. スピリチュアルな苦痛を理解し、スピリチュアルケアについての考え方、スピリチュアルペインのアセスメントの方法、スピリチュアルケアの実践について学ぶ	暮らしの支援 1) 暮らしの中の多様な支援 2) 疾患・障害をもつ療養者の暮らしの支援 3) 在宅療養への移行支援 4. スピリチュアルケア：「生・老・病・死」と向き合う苦を支える 1) 病の経験と苦悩 2) 全人的苦痛とスピリチュアルケアの必要性 3) スピリチュアルについての考え方 4) スピリチュアルペインについての考え方 5) スピリチュアルペインのアセスメント 6) スピリチュアルケアの実践	があるか述べることができる 7. 社会的苦痛に対して、どのようなアプローチがあるかを述べることができる 8. 勤労者医療を推進する労災病院の役割機能を理解し、がん患者の就労支援に必要な援助を述べるができる 9. スピリチュアルペインの表現・内容・評価の方法を述べることができる 10. スピリチュアルペインに対する基本的ケアを述べるができる 11. スピリチュアルペインの内容に対応する日常的ケアを述べることができる	
1 2	2	緩和ケアの広がり 1. 小児、思春期・若年成人（AYA世代）、高齢者とさまざまなライフサイクルにおける緩和ケアの広がり学ぶ 2. 悪性腫瘍や心不全、呼吸器疾患などさまざまな疾患を対象とした緩和ケアの広がり学ぶ 3. さまざまな療養の場における緩和ケアの広がり学ぶ	1. ライフサイクルにおける広がり 1) 小児 2) 思春期・若年成人（AYA世代） 3) 高齢者 2. さまざまな疾患における広がり 1) 悪性腫瘍 2) 心疾患 3) 呼吸器疾患 4) 神経難病 5) 脳血管疾患 6) 腎疾患 3. 療養の場の広がり：地域・施設・在宅 1) 療養の場の地域への移行 2) 療養の場と緩和ケア 3) 緩和ケアの地域連携の実践 4) 療養の場の選択としての意思決定支援	1. 小児の患者、AYA 世代の患者、高齢の患者の緩和ケアの特徴とその特徴に合わせた緩和ケアを述べるができる 1. 悪性腫瘍、心不全、COPD の緩和ケアの特徴とその特徴に合わせた緩和ケアを述べるができる 2. 緩和ケアが行われる場として、どのような病院や施設があるか述べるができる	
1 3	2	臨死期のケア 1. 臨死期の概念とそのケアの目標を理解する 2. 臨死期における全人的苦痛の緩和の実践を学ぶ 3. 死亡前後のケアおよび急変時のケアを学ぶ 家族のケア 1. 家族の定義と家族ケアのあり方を学ぶ 2. 緩和ケアにおける家族看護過程を学ぶ 3. 患者の経過に応じた家族ケアの実践方法を学ぶ 4. グリーフと遺族ケアを学ぶ	1. 臨死期の概念とケアの目標 1) 臨死期の概念 2) 死に対峙する患者と家族 3) 臨死期のケアの目標 2. 臨死期における全人的苦痛の緩和 1) がん終末期における全身状態の変化の特徴 2) 慢性疾患の終末期における全身状態の変化 3) 臨死期における症状の特徴とケア 4) 臨死期における倫理的課題 5) 全人的苦痛の緩和 3. 死亡前後のケア 4. 急変時のケア 1. 家族の定義と家族ケアのあり方 1) 家族とは 2) ありのままの家族像を知るために 2. 緩和ケアにおける家族看護過程 1) 家族の病気体験の理解 2) 援助関係を形成する 3) 家族アセスメント 4) 家族像の形成 5) 家族像に基づいた家族への看護介入 3. 家族ケアの方法 1) 看護師の役割とチームアプローチ 2) 家族の状況と必要とされるケア 3) 緩和ケアを受ける親をもつ未成年の子どもへのケア	1. 臨死期の概念とそのケアの目標について述べるができる 2. 終末期の全身状態の変化や臨死期の症状の特徴をふまえ、全人的苦痛の緩和について述べるができる 3. 死亡前後のケアおよび急変時のケアについて述べるができる 1. 家族エンパワーメントモデルとはどのような考え方か述べるができる 2. 診断時・治療期、慢性期、終末期・臨死期において必要とされる家族ケアを述べることができる	講義

			4. グリーフと遺族ケア 1) グリーフ 2) 遺族のケア(ベリブメントケア)		
1 4	2	ケアするものとしての死生観 1. 自己の死生観を洞察することができる	1. 講義を通して、自己の死生観について考えを深める	1. 自己の死生観をまとめることができる レポート提出	演習
1 5	2	単位認定終講試験			

専 門 分 野

老 年 看 護 学

老年看護学概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	3 0 時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1．人間のライフサイクルにおける老年期の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解する 2．高齢者の健康と保健・医療・福祉の制度および課題を学び、超高齢社会における看護の役割を理解する				
評価方法	筆記試験 1 0 0 点	認定基準		6 0 点以上で合格	
時間外学習（予習・復習・課題）	高齢者と積極的に関わりをもちその人の背景や価値観をより深く理解していく 超高齢社会の動向や社会情勢について関心をもつこと 老年看護の場は病院から地域・在宅へと拡大してきている 日ごろより地域や様々な場で生活する高齢者に関心をもつこと	テキスト		老年看護学（医学書院） 老年看護 病態・疾患論（医学書院） 国民の衛生の動向 勤労者医療概論	

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	老いるということ、老いを生きるということ 1. 高齢者のイメージを意識化し、老年期の特徴を理解する	1. 老年看護を学ぶ入口 1) 高齢者を知ろうとすることから始まる 2) 老いのイメージ 2. 「老いる」ということ 1) 未知なる老いのイメージ 2) 加齢と老化 3) 加齢に伴う身体的側面の変化 4) 加齢に伴う心理的側面の変化 5) 加齢に伴う社会的側面の変化 3. 老いを生きるということ 1) 高齢者の定義 2) 発達と成熟	1. 加齢変化と老化の定義が説明できる 2. 身体面・心理面・社会面の加齢変化が説明できる 3. ライフサイクルの老年期の発達課題が説明できる	講義
3 4	4	老年看護のなりたち 1. 老年看護の目指すものを理解する	1. 老年看護のなりたち 1) 老年看護学教育の発展 2. 老年看護の役割 1) 注目すべき4つの側面 2) 老年看護の特徴 3. 老年看護における理論・概念の活用 4. 老年看護に携わる者の責務	1. 老年看護の定義や関連概念とのつながりが説明できる 2. 老年看護実践の特徴について説明できる 3. 4要素の視点と看護介入について知ることができる	講義
5 6	4	超高齢社会と社会保障 1. 社会の現状と高齢者を取り巻く保健医療福祉の概要を理解する 2. 地域で様々な健康レベルにある高齢者の生活を支えている、地域包括ケアシステムや共生社会の取り組みについて理解する	1. 超高齢社会の統計的輪郭 1) 超高齢社会の現況 2) 高齢者と家族 3) 高齢者の健康状態 4) 高齢者の死亡 5) 高齢者の暮らし 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 1) 高齢者にかかわる保険医療福祉システムの構築 2) 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 3. 高齢者の権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 4) 権利擁護のための制度	1. 人口動態の視点から高齢化の現状と推移について説明できる 2. 高齢者のいる世帯の状況について説明できる 3. 高齢者の保健医療福祉に関する制度の変遷について説明できる 4. 介護保険制度の目的と仕組みを説明できる 5. 高齢者を支える地域包括ケアシステムの仕組みを理解することができる	講義

7	2	高齢者のリスクマネジメント 1. 安全に配慮した環境作りの必要性、看護の役割について理解する	1. 高齢者と医療安全 1) 高齢者と医療事故 2) 高齢者特有のリスク要因 3) 高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際 2. 高齢者と救命救急 3. 高齢者と災害	1. 高齢者特有のリスク要因が説明できる 2. 高齢者がみまわれやすい医療事故と対応の実際を知ることができる 3. 災害サイクルの看護援助が説明できる	講義
8 9	4	生活・療養の場における看護 1. 高齢者の健康のとらえ方と介護予防について理解できる 2. 高齢者の療養する場所の特性と看護について理解する	1. 高齢者とヘルスプロモーション 1) 老年期のヘルスプロモーション 2) 介護予防とヘルスプロモーション 3) 「住み慣れた場所で最後まで」を実現する地域包括ケア 2. 保健医療福祉施設および居住施設における看護 1) 介護保険施設 2) 地域密着型サービス 3) 住まい 3. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 1) 家族の健康と生活 2) 家族への援助 4. 多職種連携実践による活動	1. 高齢者の健康づくりと疾病予防のシステムと介護予防サービスについて理解できる 2. 各施設の特徴と、求められる看護の役割を説明できる 3. 治療・介護を必要とする高齢者とその家族の現状を知り、援助の必要性を理解できる。	講義
10 11 12 13	8	高齢者のヘルスアセスメント 1. 加齢変化による身体的機能の変化を理解する 2. 加齢変化による高齢者の日常生活に与える影響をアセスメントし理解できる	1. ヘルスアセスメントの基本 1) ヘルスアセスメントの枠組み 2) 高齢者の総合機能評価 2. 身体に加齢変化とアセスメント 1) 皮膚とその付属器 2) 視聴覚とその他の感覚器 3) 循環系 4) 呼吸器系 5) 消化器系 6) ホルモン分泌 7) 泌尿生殖器 8) 運動系	1. 高齢者体験より身体的変化を理解できる 2. 加齢変化についてグループ学習を行うことで理解をさらに深めることができる 3. 加齢変化から、日常生活に及ぼす心理的、社会的影響を理解できる	グループ学習 講義
14	2	高齢者の勤労と看護 1. 高齢者の勤労の現状と勤労者看護について理解できる	1. 高齢者の勤労と社会参加促進の取り組み 2. 高齢者の勤労者看護	1. 高齢者の雇用の機会を知り、勤労者の現状を知ることができる 2. 高齢者の勤労者看護の理解ができる	講義
15	2	単位認定終講試験			

老年看護学援助論Ⅰ

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		病院勤務経験有	
科目目標	1. 高齢者の日常生活とその生活を整える援助技術を理解する 2. 高齢者の加齢変化や健康障害の特徴を理解する 3. 高齢者の特徴をふまえて、状態や状況に応じた看護を理解する 4. 健康レベルや療養の場の違いにおける高齢者・家族への個別性に応じた援助を学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	基礎看護技術の復習 老年看護学概論で作成した、身体 の加齢変化とアセスメントの復習 個人ワーク、グループワーク、演 習への主体的な取り組みを行う	テキスト	老年看護学（医学書院） 老年看護 病態・疾患論（医学書院） 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（医学書院）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方
----	----	---------	------	-------	-----

					法
1 2 3	6	高齢者の生活機能を整える援助 基本動作と環境のアセスメント 1. 安全かつ快適な環境と生活機能を整えるためのアセスメントと援助ができる	1. 基本動作と環境のアセスメント 1) 生活の基本となる日常生活動作 2) 基本動作・・・● 3) 基本動作・姿勢を支える環境・・・● 4) 日常生活活動（動作）の評価 2. 転倒のアセスメントと看護 1) 高齢者と転倒 2) 転倒リスクとアセスメント 3) 転倒予防に向けた援助 4) 転倒した高齢者への看護 3. 廃用症候群のアセスメントと看護 1) 高齢者と廃用症候群 2) 廃用症候群の早期発見・予防に向けた看護・・・●	1. 高齢者の発達段階や加齢現象におけるアセスメントの視点、加齢に伴う変化による生活動作の問題点が説明できる 2. 自立援助・事故予防のアセスメントのポイントが説明できる	講義 演習
4 5 6	6	高齢者の生活機能を整える援助 食事・食生活の援助 1. 安全かつ快適に食事をするためのアセスメントと援助ができる	1. 高齢者における食生活の意義 2. 高齢者に特徴的な変調 1) 加齢に伴う摂食嚥下の機能の変化 2) 老年期に多い疾患による摂食嚥下障害 3) 栄養状態の変調 3. 食生活のアセスメント 1) 食事環境のアセスメント 2) 摂食嚥下能力のアセスメント 3) 栄養状態のアセスメント 4. 食生活の支援・・・● 1) 食事前のケア 2) 食事中のケア 3) 食事後のケア	1. 老化に伴う機能の低下に応じた生活の自立支援の方法が理解できる 2. 高齢者の食事摂取状況におけるアセスメントの視点と必要な情報が説明できる 3. 高齢者に応じた口腔内保清の援助の方法が説明できる 4. 摂食・嚥下障害への援助の方法が説明できる	講義 演習
7 8	4	高齢者の生活機能を整える援助 排泄の援助 1. 安全かつ自尊心を尊重した援助ができる	1. 高齢者の排泄ケアの基本 1) 高齢者の尊厳をまもる排泄ケア 2) プロセスとしての排泄行動への注目 3) 排泄リズムの把握と生活の調整 4) 排泄のための自助具の活用 2. 排尿障害のアセスメントとケア 1) 排尿アセスメント 2) 排尿障害の特徴 3. 排便障害のアセスメントとケア・・・● 1) 排便のアセスメント 2) 排便障害の特徴 3) 排泄障害のケア	1. 高齢者の排泄に関するアセスメントの視点と観察の方法が説明できる 2. 高齢者に多い失禁の分類と適切な援助の方法が説明できる	講義 演習
9 10	4	高齢者の生活機能を整える援助 清潔の援助 1. 安全でこちよく清潔のニーズを充足できるような援助ができる	1. 清潔の意義 1) 生理的意義 2) 心理・社会的意義 3) 自立生活上の意義 2. 高齢者に生じやすい清潔に関する健康問題 1) 皮膚障害 2) 清潔のセルフケア能力の変化 3. 清潔のアセスメント 1) 皮膚の清潔の状態に関するアセスメント 2) 清潔のセルフケア能力に関するアセスメント 3) 関連要因に関する情報 4. 清潔ニーズの充足状態の分析と清潔ケアの選択 4. 清潔の援助・・・● 1) 入浴 2) 清拭 3) 陰部洗浄 4) フットケア 5) 耳のケア 6) 目のケア	1. 高齢者の清潔に関するアセスメントの視点と方法が説明できる 2. 皮膚のアセスメントと適切な援助の方法が説明できる	講義 演習
11 12	4	高齢者の生活機能を整える援助 生活リズムの援助 1. 生活リズムを整える援助方法を理解する	1. 高齢と生活リズム 1) 生活リズムとは 2) 生活リズムを調整する意義 2. 高齢者に特徴的な変調	1. 加齢に伴う変化による生活リズムの変化の問題点がわかる 2. 生活におけるリズム調整や楽しみのある生活の必要性が言える	講義

			1) 睡眠と覚醒のアセスメント 2) 生活行動の変化とその影響 3. 生活リズムのアセスメント 1) 睡眠と覚醒のアセスメント 2) 生活リズムの変調に影響する要因のアセスメント 4. 生活リズムを整える看護 1) 昼間のケア 2) 夜間のケア	3. ICFモデルを用いて高齢者の生活機能を考えることができる	
13 14	4	高齢者の生活機能を整える援助 コミュニケーション・セクシュアリティ 1. 高齢者の特徴を踏まえて援助の必要性を理解する	1. 高齢者とのコミュニケーションと関わり方の原則 1) 高齢者にみられるコミュニケーション上の特徴 2) 高齢者のコミュニケーションの原則 2. コミュニケーション能力のアセスメント 1) 高齢者におこりやすいコミュニケーション障害とアセスメント 2) ベッドサイドでのアセスメント 3. 高齢化の状態・状況に応じたコミュニケーションの方法 1) 初対面の高齢者とのコミュニケーションの方法 2) 難聴や視力障害をもつ高齢者とのコミュニケーションの方法 3) 失語症・構音障害のある高齢者とのコミュニケーションの方法 4. 高齢者におけるセクシュアリティ 1) 高齢者におけるセクシュアリティ 2) 高齢者ケアの場における性に関する問題 3) セクシュアリティのアセスメントと看護	1. 高齢者とのコミュニケーションとかかわりかたの原則がわかる 2. セクシュアリティのアセスメントと看護の必要性が説明できる 3. 社会参加の意義、社会参加活動促進に向けた展望を考えることができる	講義
15	2	単位認定終講試験			

● 演習

老年看護学援助論Ⅱ

開講時期	Ⅳ	単位数	2	時間数	4 5 時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験		老年看護領域実務病棟勤務経験有 大阪労災病院勤務 認定看護師	
科目目標	1. 高齢者に多発する疾患を抱える高齢者の看護を理解する 2. 加齢に伴う変化と症状の経過を理解し、特徴に応じた看護を理解する 3. 老年期における死の意味を理解し、その人らしく「生ききる」ことを支える援助を理解する				
評価方法	筆記試験 140点 課題提出 30点	認定基準	筆記試験 100点換算し60点以上で合格 事例展開 18点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	症候のアセスメントと看護について 事前調べ学習 各講義後の自己復習 脳梗塞について病因・症状・診断・検査・治療についての復習 個人ワーク、グループワーク、演習への主体的な取り組み	テキスト	老年看護学（医学書院） 老年看護 病態・疾患論（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2	4	健康逸脱からの回復を促す看護 1. アセスメントの視点が理解できる	1. 症候のアセスメントと看護 1) 発熱 2) 痛み 3) 掻痒 4) 脱水 5) 嘔吐 6) 浮腫 7) 倦怠感 8) 褥瘡・スキン・ケア	1. 加齢に伴う変化と症状の関連と看護について説明できる	講義
3 4 5	6	治療を必要とする高齢者の看護 1. 看護の実際について理解できる	1. 検査を受ける高齢者への看護 1) 高齢者が受けることの多い検査 2) 検査を受ける高齢者への援助 2. 薬物療法を受ける高齢者の看護 1) 加齢に伴う薬物動態の変化 2) 高齢者に特徴的な薬物有害事象 3) 老年症候群と薬物有害事象 4) 薬物療法における援助 3. 手術を受ける高齢者の看護 1) 手術を受ける高齢者の特徴 2) 術前看護マネジメント 3) 術後看護マネジメント 4) 高齢者に特徴的な手術 4. リハビリテーションを受ける高齢者の看護 1) リハビリテーションを必要とする高齢者 2) 経過別リハビリテーション 5. 入院治療を受ける高齢者の看護 1) 治療を担う医療施設の状況 2) 入院に伴う環境の変化と高齢者への影響 3) 入院初期の援助 4) 家族への配慮 5) チーム医療 6) 退院調整・退院指導	1. 高齢者が受けることの多い検査と手術時の看護が説明できる 2. 高齢者の栄養状態のアセスメントについて説明できる 3. 加齢に伴う薬物動態の変化について説明できる 4. 高齢者の薬物治療時の看護が説明できる 5. リハビリテーションを受ける高齢者者の看護が理解できる	講義
6 7 8	6	運動機能障害で治療を受ける高齢者の看護 1. 看護の実際について理解できる	1. 骨粗鬆症、骨折、変形性関節症の理解 2. 人工股関節置換術、大腿骨骨折の術式と手術経過、予後の理解 3. 術前の看護 1) 高齢者の特徴、術前検査に伴う看護、術前アセスメント、術前オリエンテーション 4. 術後の看護 1) 術後の観察、合併症予防への援助 (1) 安楽確保の技術・・・● (疼痛緩和・電法) (2) 体動制限の苦痛緩和・・・● (3) 創傷管理 2) 回復を促進する日常生活の援助方法 (1) 関節可動域訓練・・・● (2) 活動と休息の援助 (車椅子移動)・・・● (3) 安全管理の技術・・・● (転落・転倒・外傷予防) 3) 継続看護 (1) 多職種との連携・退院支援	1. 加齢に伴う身体的変化や生活歴と病態との関連が説明できる 2. 手術侵襲や回復過程において加齢現象が及ぼす影響が説明できる 3. 手術後のライフスタイルへの影響を学ぶことができる 4. 術後の合併症への加齢変化の影響が説明できる 5. 術後合併症予防、二次障害予防の日常生活援助が説明できる 6. 退院指導の内容が説明できる 7. 継続看護の必要性を説明できる 8. 社会資源の活用を知ることができる	講義 演習
9 10	4	認知機能障害で治療を受ける高齢者の看護 1. 薬物療法について理解できる 2. 看護の実際について理解できる	1. 認知症とは 2. 認知症の症状 3. 認知症の病態・診断・治療・予防 4. 認知機能及び生活機能評価 5. 認知症の看護 1) 認知症看護の原則 2) 認知症高齢者とのコミュニケーション 3) 認知症高齢者の環境調整 4) 急性期医療における認知症高齢者の看護 5) 認知症高齢者と家族へのサポート 6. うつ	1. うつ病、せん妄、認知症、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症の病態、診断のための検査、認知症のスケール・治療・予防について説明できる 2. 認知症の人の行動の意味を考え、対応方法が説明できる 3. 認知症をもつ高齢者と家族の生活がイメージできる 4. 日常生活の援助とその工夫、家族への支援の方法が説明できる 5. サポートシステムとその連携から看護の役割を考えることができる	講義 グループワーク

			1) うつ病とは 2) 臨床的特徴 3) 看護の実際 7. せん妄 1) せん妄とは 2) 臨床的特徴 3) せん妄のリスク要因 4) 看護の視点		
1 1 1 2	4	脳機能障害で治療を受ける高齢者の看護 1. 看護の実際について理解できる	1. 脳機能障害の理解（病態生理、治療） 1) 脳卒中（脳梗塞・脳出血・ラクナ梗塞と脳血管性認知症） (1) 状態観察とアセスメント (2) 意識状態の観察 2) パーキンソン病・パーキンソン症候群 (1) 状態観察とアセスメント 2. 症状に伴う看護の方法 1) 運動障害、知覚障害、神経障害に対する看護介入 3. 合併症予防、二次障害の予防 1) 病床環境の調整 2) 転倒・転落・外傷・誤嚥など事故予防 3) 廃用症候群予防（廃用症候群予防の自動・他動運動） 4. 継続看護 1) 他職種との連携・退院支援	1. 脳卒中の病態生理が理解できる 2. 急性期治療に伴う看護の方法が理解できる 3. 安静、薬物療法と看護の役割が説明できる 4. 症状に伴う看護が説明できる 5. セルフケアの援助方法について説明できる 6. 退院指導の内容が理解できる 7. 継続看護の必要性を学ぶことができる 8. 活用できる社会資源を知る事ができる	講義 グループワーク
1 3	2	呼吸機能障害で治療を受ける高齢者の看護 1. 看護の実際について理解できる	1. 呼吸障害をきたす疾患 1) 肺炎 2) COPD 2. 呼吸機能障害の分類と症状 3. COPDを患う高齢者の看護 1) 病態理解、状態観察とアセスメント 2) 症状・治療に伴う看護 3) 二次感染の予防や合併症予防のための看護（廃用症候群予防：呼吸機能） 4) 家族への援助	1. 呼吸機能検査のデータの意味が説明できる。（拘束性障害と閉塞性障害、血液ガス分析、酸素管理曲線など） 2. 拘束性障害と閉塞性障害を来す疾患が説明できる 3. 高齢者の罹患時の症状や特徴が説明できる 4. アセスメントの視点が説明できる 5. 生活指導の内容と方法が説明できる	講義
1 4 1 5	4	身体疾患のある高齢者の看護 1. 看護の実際について理解できる	1. がん、糖尿病、心不全、インフルエンザ 1) 病態理解、状態観察とアセスメント 2) 症状・治療に伴う看護 3) 二次感染の予防や合併症予防のための看護 4) 家族への援助	1. 疾患、治療について理解できる 2. 加齢に伴う身体的変化や生活歴と病態との関連が説明できる 3. アセスメントの視点が説明できる 4. 症状に伴う看護が説明できる 5. セルフケアの援助方法について説明できる	講義
1 6	2	エンドオブライフケア 1. 看護の実際について理解できる	1. エンドオブライフケアの概念 2. 「生ききる」ことを支えるケア 1) 死生観 2) 死の準備状況 3. 意思決定への支援 1) 高齢者の尊厳を守るための支援 2) アドバンスケアプランニング 4. 末期段階に求められる援助 1) 高齢者の末期段階における身体変化のアセスメント 2) 末期段階の苦痛を緩和する 3) 家族への支援	1. 高齢者におけるエンドオブ・ライフケア・死生観について理解できる 2. 高齢者の尊厳を守るための支援について理解できる 3. 末期段階における支援の方法が理解できる	講義
1 7 1 8 1 9 2 0 2 1	1 0	【看護過程の展開】 脳梗塞後の回復期にある高齢者患者の看護 1. 事例を通して脳梗塞後の回復期にある患者のアセスメントを行い、看護計画が立案できる	1. 看護介入に必要な情報収集・アセスメント 2. 看護計画の立案 1) 病態理解 状態観察とアセスメント 2) 目標の設定、全体像の把握 3) 食事・排泄・清潔・活動と休息など一日の生活リズムに合わせた自立と安全への配慮した計画 3. グループでの共有	1. 事例を通して高齢者の特徴を、加齢変化を含める身体的・社会的・精神的視点から理解することができる 2. 高齢者の生きてきた時代背景や生活環境、習慣が健康に及ぼす影響について理解することができる 3. ICFモデルや生活行動モデルをもとに、安全・安楽・自立・個性の視点をもって目標志向型思考で具体的な看護計画を立案することができる	講義 グループワーク

2 2	2	【実践】 脳梗塞後の回復期にある高齢者患者の看護 1. 事例患者を通して、脳梗塞後の再発予防と二次的合併症予防の介入の実践ができる	1. 事例に応じた看護展開 ※シミュレーション演習 2. 看護実践の評価 3. 看護計画の追加・修正	1. 事例患者を通して、脳梗塞後の再発予防と二次的合併症予防の具体的な関わりについて実施できる 2. 実施した看護を評価し、看護計画の追加修正ができる	演習
2 3	1	単位認定終講試験			

●演習

専 門 分 野

小 児 看 護 学

小児看護学概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		小児科病棟勤務経験有	
科目目標	1. 小児看護の特徴と理念、看護の役割を理解する 2. 子どもの権利を学び、小児看護における倫理について考える事ができる 3. 小児の各発達段階における成長発達の特徴を理解する 4. 子どもにとっての家族の特徴を知り、子どもと家族を取り巻く社会、状況（環境）を理解する 5. 子どもの健康問題や障害が子どもと家族に及ぼす影響と看護を理解する 6. 小児と家族の諸統計を知り、子どもと家族を取り巻く法律や制度、保健対策等を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	グループワーク・発表時の資料作成と発表会準備が必要	テキスト	小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 国民衛生の動向		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	小児看護の特徴と理念 1. 小児看護の特徴と理念を理解する	1. 小児看護のめざすところ 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目標と役割	1. 子どもへのイメージを明確にし、子どもの特徴について述べる事が出来る	講義
2	2	小児看護の変遷 1. 小児医療の変遷から小児看護の変遷を知る 2. 小児看護の課題を理解する	1. 小児医療、小児看護の変遷 1) 諸外国の児童観・小児医療の変遷 2) 日本の児童観・育児観の変遷 3) 日本の小児医療の変遷 4) 小児看護の変遷 5) 現代の小児看護 2. 小児看護の課題 1) 疾病構造の変化と小児看護 2) 社会の変化と小児看護 3) 小児看護の専門分化	1. 小児看護の変遷について知り、今後の小児看護の課題を述べる事ができる	講義
3	2	小児看護における倫理 1. 子どもの権利を理解する 2. 医療現場におけるこりやすい問題点と看護について考える	1. 子どもの権利 児童福祉法 子どもの権利条約 児童憲章 2. 医療現場におけるこりやすい問題点と看護	1. 小児看護における子どもの権利を知り、倫理的問題について自己の考えを述べる事ができる	講義
4 5 6 7 8	10	子どもの成長・発達 1. 各発達段階の特徴について理解する 2. 各期の成長・発達に応じた養育および看護を理解する	1. 成長・発達の概要 2. 成長・発達の評価 3. 子どもの栄養 4. 各発達段階における形態的特徴、身体生理的特徴、各機能の発達 1) 新生児 2) 乳児 3) 幼児 4) 学童 5) 思春期・青年期 5. 乳児期、幼児期の機能的発達、養育および看護（専門家によるグループ間発表）	1. 子どもの成長・発達の概要と評価方法を述べる事ができる 2. 各発達段階における特徴を理解し、養育および看護について述べる事ができる	講義 グループワーク 発表

9	2	家族の特徴とアセスメント 1. 家族の特徴とアセスメントについて理解する	1. 子どもにとっての家族とは 1) 家族とは 2) 現代家族の特徴 2. 家族アセスメント 1) 子どもをもつ家族のアセスメントの留意点 2) 子どもをもつ家族のアセスメントの目的 3) 家族アセスメントの家族にとっての意味	1. 子どもにとっての家族とは何かを述べるができる 2. 家族アセスメントを考えることができる	講義
10	2	子どもと家族を取り巻く社会 1. 小児と家族の諸統計を知る 2. 子どもに関する法律、制度、医療費の支援、予防接種について理解する	1. 小児と家族の諸統計 1) わが国の人口構造 2) 出生と家族 3) 子どもの死亡 2. 母子保健 3. 医療費の支援 4. 予防接種 5. 学校保健	1. 小児に関連した統計を知ることができる 2. 小児に係る保健施策、予防接種、医療費の支援を述べるができる	講義
11	2	病気・障害をもつ子どもと家族の看護 1. 病気・障害が子どもと家族に与える影響を理解する 2. 子どもの健康問題と看護を理解する	1. 病気・障害が子どもと家族に与える影響 1) 病気・障害に対する子どもの反応 2) 子どもの病気・障害に対する家族の反応 2. 子どもの健康問題と看護 1) 健康問題を持つ子どもと家族の看護の方向性 2) 子どもの治療・健康管理にかかわる看護 3) 子どもの日常生活にかかわる看護 4) 健康問題をもつ子どもの家族の看護 3. 障害のある子どもと家族の看護 1) 障がいのとらえ方 2) 障がいのある子どもと家族の特徴 3) 障害のある子どもと家族への社会支援	1. 病気や障害が子どもと家族に与える影響を述べるができる 2. 病気・障害を持つ子どもと家族への看護について述べるができる	講義
12	2	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 1. 様々な状況に特徴づけられる看護を理解する	1. 入院中の子どもと家族の看護 1) 入院環境と看護の役割 2) 入院中の子どもと家族の特徴 3) 入院中の子どもと家族の看護 2. 外来における子どもと家族の看護 1) 子どもを対象とする外来の特徴と看護の役割 2) 外来の環境 3) 外来受診する子どもと家族の特徴 4) 外来における子どもと家族の看護 3. 在宅療養中の子どもと家族の看護 1) 在宅療養の環境と看護の役割 2) 在宅療養中の子どもと家族の特徴 3) 在宅療養中の子どもと家族の看護	1. 入院中、外来、在宅療養中の子どもと家族の特徴と看護を述べるができる	講義
13	2	子どもの虐待と看護 1. 子どもの虐待と看護を理解する	1. 子どもの虐待への対策の経緯と現状 2. 子どもの虐待とは 3. リスク要因と発生予防・早期発見 4. 子どもの虐待の特徴的にみられる状況 5. 求められるケア	1. 子どもの虐待の特徴と現状を知り、発生予防・早期発見について述べるができる 2. 子どもの虐待に求められるケアを述べるができる	講義
14	2	災害時の子どもと家族の看護 1. 災害時における子どもと家族の看護を理解する	1. 被災地の環境と看護の役割 2. 災害時の子どもと家族の特徴 3. 災害時の子どもと家族の看護	1. 災害時における子どもと家族の看護を述べるができる	講義
15	2	単位認定終講試験			

小児看護学援助論 I

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		小児科病棟勤務経験有	
科目目標	1. 疾病の経過に応じた子どもとその家族への看護の方法を理解する 2. 小児のアセスメントを理解する 3. 子どもに出現しやすい症状を理解し、症状に応じた看護を理解する 4. 検査や処置を受ける子どもの看護と小児における看護技術の方法を理解する 5. 小児看護におけるコミュニケーション技術や遊びを取り入れた看護の方法を理解することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	小児の成長発達復習 演習の手順を事前学習して臨む	テキスト	小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 小児臨床看護学各論（医学書院）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2 3	6	子どもにおける疾病の経過と看護 1. 子どもの疾病の経過に応じた看護の方法について理解する	1. 慢性期にある子どもと家族の看護 2. 急性期にある子どもと家族の看護 3. 周手術期にある子どもと家族の看護 4. 終末期にある子どもと家族の看護	1. 疾病の経過と看護について述べることができる	講義
4 5 6	6	子どものアセスメント 1. アセスメントに必要な技術を理解する 2. 身体的アセスメントの方法を理解する	1. アセスメントに必要な技術 1) コミュニケーション 2) バイタルサイン 3) 身体測定 2. 身体的アセスメント 1) 一般状態 2) 各器官（眼、耳、顔面・鼻・口腔、呼吸、心臓・血管系、腹部、筋・骨格系、神経系、生殖器、リンパ系、皮膚・爪・体毛）	1. 子どものアセスメントに必要な方法を述べることができる	講義
7 8 9 10	8	症状を示す子どもの看護 1. 子どもの症状に応じた看護の方法を理解する	1. 不きげん、啼泣 2. 痛み 3. 呼吸困難 4. チアノーゼ、ショック 5. 意識障害、痙攣 6. 発熱 7. 嘔吐、下痢、便秘 8. 脱水 9. 浮腫 10. 出血、貧血 11. 発疹、黄疸	1. 子どもの各症状の原因、観察のポイント、アセスメントの視点、症状に対する看護について述べることができる	講義
11 12 13	6	検査・処置を受ける子どもの看護 1. 検査・処置を受ける子どもの看護について理解する	1. 検査・処置総論 2. 薬物動態と薬用量の決定 3. 検査・処置各論 1) 与薬・・・・・・・・・・・・・・・・・・● 2) 輸液管理 輸液ポンプ・シリンジポンプ・点滴の固定・・・・● 3) 腰椎穿刺・・・・・・・・・・・・・・・・● 4) 呼吸症状の緩和（吸入・吸引）・・・・・・● 5) 救命処置・・・・・・・・・・・・・・・・●	1. 子どもの検査・処置の特徴手順を述べることができる 2. 子どもの検査・処置技術を実施することができる	講義 演習
14	2	治療における意思決定、主体的参加の支援 1. 意思決定に必要な看護を理解する	1. 不安・恐怖・苦痛の緩和から主体への支援 1) インフォームドアセント 2) プレパレーション 3) ディストラクション 4) メディカルプレイ	1. 子どもの状況や発達段階に応じたプレパレーションを計画実践する	講義
15	2	単位認定終講試験			

小児看護学援助論Ⅱ

開講時期	Ⅳ	単位数	2	時間数	4 5 時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験		小児病棟勤務経験有 大阪労災病院勤務 看護師 地域療養施設勤務職員	
科目目標	健康障害をもつ子どもの疾患や障害の理解および看護の方法を理解する				
評価方法	筆記試験 1 5 0 点 課題提出 3 0 点	認定基準	筆記試験 1 0 0 点換算し 6 0 点以上で合格 事例展開 1 8 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	S I Mは各グループで練習して臨む 疾病治療論Ⅳ、看護過程について復習	テキスト	小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 小児臨床看護各論（医学書院）		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護 1. 染色体異常によるおもな疾患を理解する	1. 出生前の看護 2. 出生後の看護 3. おもな疾患 1) 染色体異常概論 2) 常染色体異常 3) 性染色体異常	1. 染色体異常のおもな疾患の病態、治療について述べるができる 2. 先天性疾患の病態、治療、看護について述べるができる	講義
2 3 4	6	先天性疾患をもつ子どもの看護 1. 先天性疾患をもつ子どもの看護を理解する 2. 障害をもち医療的ケアを受ける子どもと家族の看護を理解する	1. 先天性疾患をもつ子どもの看護 1) 先天性心疾患 2) 先天代謝異常症 3) 先天性の形態異常（消化器疾患） 4) 先天性腎尿路異常 5) 神経系の先天異常 6) 先天性運動器疾患 7) 先天性感覚器疾患 2. 障害をもち医療的ケアをうける子どもと家族の看護 1) 小児看護に求められるもの 2) 医療的ケア児等の支援の特徴 3) 支援に必要な概念 4) 障害のある子どもと家族への支援の方法 5) 小児看護と遊び	1. 先天性疾患をもつ子どもの看護について述べるができる 2. 障害をもち医療的ケアをうける子どもと家族の看護を述べるができる	講義
5 6	4	新生児の看護 1. 新生児のおもな疾患を理解する 2. 疾患をもった新生児とその家族の看護を理解する	1. おもな疾患 1) 新生児の疾患（分娩損傷、適応障害、感染症） 2) 低出生体重児の疾患 2. 疾患をもった子どもの看護 1) 低出生体重児の看護 2) 新生児仮死がみとめられる子どもの看護 3) 高ビリルビン血症の新生児の看護	1. 新生児のおもな疾患の特徴、治療について述べるができる 2. 疾患をもった新生児と家族の看護を述べるができる	講義
7 8 9	6	急性疾患の子どもの看護① 1. 感染症の子どもの看護を理解する 2. 急性疾患をもつ子どもと家族の看護を理解する	1. 感染症と看護 1) 子どもの感染に関する基本的知識 2) 感染症をもつ子どもの看護のポイント 2. おもな疾患と看護 1) ウイルス感染症 麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎など 2) 細菌感染症 百日咳、病原性大腸菌感染症、結核など 3) 真菌感染症 3. 呼吸器疾患と看護 1) おもな疾患と看護 上気道の疾患、気管支・肺・胸膜疾患 4. 消化器疾患と看護 1) おもな疾患と看護 急性乳幼児下痢症、急性胃腸炎など	1. 子どもの感染症の特徴、看護を述べるができる 2. おもな急性疾患の特徴と疾患をもつ子どもと家族の看護を述べるができる	講義

10	2	急性疾患の子どもの看護② 1. 急性経過から慢性期へたどる看護を理解する	1. 血液・造器疾患と看護 1) おもな疾患と看護 貧血、出血性疾患 2. アレルギー疾患と看護 1) アレルギー学総論 2) 食物アレルギー 3) 気管支喘息	1. 子どもの血液・造器疾患の特徴と看護と経過を述べることができる 2. 子どものアレルギー疾患の経過と看護を述べることができる 3. 疾患をもつ子どもと家族の看護を述べることができる 4. 急性期から慢性期への移行期の看護を述べることができる	
11 12 13	6	慢性疾患の子どもの看護 1. 慢性疾患をもつ子どもと家族の看護を理解する	1. 長期的治療を必要とするおもな疾患と看護 1) ネフローゼ症候群 2) I型糖尿病 3) リウマチ性疾患 2. セルフケアに向けての生活指導 3. 入院から退院、自宅での生活の継続支援	1. 長期的治療を必要とするおもな疾患と看護を述べることができる 2. 発達段階におけるセルフケアに向けての生活指導を述べることができる	講義
14 15	4	悪性新生物と看護 1. 腫瘍により治療を受ける子どもと家族の看護を理解する	1. 診断時の看護 2. 治療を受ける子どもの看護 1) 化学療法を受ける子どもの看護 2) 放射線療法を受ける子どもの看護 3. おもな疾患 1) 造器腫瘍 2) 脳腫瘍 3) その他の固形腫瘍 4. 白血病の子どもの看護	1. 悪性新生物のおもな疾患と治療を受ける子どもの看護を述べることができる 2. 白血病の子どもと家族の看護について述べることができる	講義
16	2	精神疾患と看護 1. 発達障害の特徴について理解する 2. 発達障害をもつ子どもの療育とその家族の支援の方法を理解する	1. おもな疾患 1) 発達障害の特徴 自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症 2) 療育方法 2. 発達障害のある子どもと家族の支援方法	1. 発達障害の特徴を述べることができる 2. 発達障害のある子どもと家族の支援方法を述べることができる	講義
17 18 19 20 21	10	【看護過程の展開】 川崎病の子どもと家族の看護 1. 事例を通して入院中の子どものアセスメントを行い、看護計画が立案できる	1. 事例展開 1) 事例の理解 2) 看護介入に必要な情報収集・アセスメント 3) 全体像の把握 4) 看護計画の立案	1. 事例の病態を説明できる 2. 病態やおかれている状況が成長発達や子どもと家族の生活に与える影響を述べる ことができる 3. 病態、発達段階に応じた看護計画を立案することができる	講義 グループ ワーク
22	2	【実践】 川崎病の子どもと家族の看護 1. 川崎病の患児の看護過程の展開ができる	1. 事例に応じた看護過程の展開 ※シミュレーション演習(子どもの安全・事故防止の看護) 2. 看護実践の評価 3. 看護計画の追加修正	1. シミュレーション演習にて、計画した看護を実践し評価し、修正することができる	演習
23	1	単位認定終講試験			

専 門 分 野

母 性 看 護 学

母性看護学概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		産科病棟勤務経験有 助産師	
科目目標	1. 人間の性・生殖の意義を考え、母性の概念・特性を理解する 2. 母子の健康を取り巻く現状を知り、母性看護の目的を理解する 3. ライフサイクル各期の母性としての特性を身体的・心理的・社会的側面から理解する 4. 現代社会における母性のニーズと看護および倫理について考える 5. 女性の一生を通じた健康の維持・増進にむけての看護の目的について理解する 6. 女性の自己決定と結び付けたリプロダクティブヘルス・ライツの意味を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	グループワーク・発表があるとき には資料作成と発表準備が必要	テキスト	母性看護学概論（医学書院）国民衛生の動向 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	命について 1. 生命の神秘について 考え生命の大切さを 理解する	1. 命について 1) 命の大切さ 2) 命の神秘	1. 生命の神秘について考え 生命の大切さについて述 べることができる	講義
2 3	4	母性看護の基盤となる概 念 -概論- 1. 母子関係を理解する 上で必要な概念と理 論について学ぶ 2. 看護職の役割につい て考えることができ る	1. 母性とは 1) 親になることと母性 2) 母性の身体的特性 3) 母性の心理・社会的特性 4) 母性看護における母性 2. 母子関係と家族発達 1) 愛着・母子相互作用と母子関係形成 2) 母親となることへの看護 3) 家族機能 4) 家族の発達課題 3. セクシュアリティ（人間の性） 1) セクシュアリティとは 2) セクシュアリティの発達と課題 4. リプロダクティブヘルス/ライツ 1) リプロダクティブヘルス/ライツとは 2) 女性とリプロダクティブヘルス/ライツの課題 3) 女性のライフサイクルにおけるリプロダクティ ブヘルス/ライツ 5. ヘルスプロモーション 1) ヘルスプロモーションとは 2) 女性の生涯にわたる健康教育 3) ヘルスプロモーション活動における協働 6. 母性看護のあり方 1) 母性看護の理念 2) 母性看護の課題と展望	1. 母子関係を理解するうえで 必要な概念と理論につい て述べることができる 2. 看護職の役割について言 葉で表現することができ る	講義
4 5	4	母性看護の対象を取り巻 く社会の変遷と現状 1. 母性看護をめぐる歴 史と母子保健の現状 を学ぶ 2. 母性看護の対象を取 り巻く環境と現代社 会を理解する	1. 母性看護の歴史的変遷と現状 1) わが国における母性看護の変遷 2) 母子看護にかかわる指標とその推移 3) 母性看護にかかわる法律 4) 母性看護にかかわる施策 2. 母性看護の提供システム 1) 母性看護にかかわる機関 2) 母性看護に携わる職種	1. 母性看護の変遷と母子保 健の動向・現状について 述べるができる 2. 母子を取り巻く環境・家 族・地域・労働問題につ いて述べるができる 3. 母性看護にかかわる法律や 施策、提供システムについ て述べるができる	講義
6	2	母性看護の対象理解 1. 母性看護の対象と ニーズについて理解 する	1. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変 化 1) 生殖器の形態・機能 2) 妊娠と胎児の性分化 2. 女性のライフサイクルと家族 1) 女性の一生をあらわす用語 2) 現代女性のライフサイクル	1. 母性看護の対象とニーズ について述べるがで きる	講義

			3) 家族の発達段階と家族看護 4) 女性のライフサイクルと生涯の発達 3. 母性の発達・成熟・継承 1) 女性性の発達 2) 母性・父性・親性の発達 3) 母子関係と愛着 4) 母性の世代間伝承		
7 8 9	6	女性のライフステージ 各期における看護ーライフサイクルにおける各期の特徴ー 1. 女性のライフサイクル各期における看護について学ぶ	1. ライフサイクルにおける女性の健康と看護 1) 社会の変化に伴う女性の身体及び健康問題の変化 2) 女性のライフサイクルに応じた身体機能の変化 3) ライフサイクル各期に共通する看護 2. 思春期の健康と看護 1) 思春期女性の特徴 2) 健康問題と看護 3) 思春期女性への看護の視点 3. 性成熟期の健康と看護 1) 性成熟期女性の特徴 2) 健康問題と看護 4. 更年期・老年期の健康と看護 1) 更年期・老年期女性の特徴 2) 健康問題と看護	1. ライフサイクル各期の女性の健康と看護の必要性について述べることができる	講義
10 11	4	リプロダクティブヘルスケア 1. リプロダクティブヘルスケアについて理解する	1. 家族計画 1) 家族計画とは 2) 受胎調節法 3) 受胎調節指導のあり方 2. 性感染症とその予防 1) 性感染症の医学的な背景と予防 2) 性感染症の罹患状況と予防 3. HIV に感染した女性に対する看護 1) HIV の感染とエイズの発症 2) HIV に感染した女性に必要なケア 3) HIV に感染した妊産褥婦に必要なケア 4. 人工妊娠中絶と看護 1) 人工妊娠中絶の現状 2) 人工妊娠中絶の概要とその影響 3) 人工妊娠中絶時の看護 5. 喫煙と女性の健康 1) 喫煙者の動向 2) 喫煙の健康への影響 3) 禁煙支援 4) 喫煙予防への取り組み 5) 新型タバコの健康への影響と規制の状況 6. 性暴力を受けた女性に対する看護 1) 性暴力と社会 2) 性暴力被害の実態と社会の対応 3) 性暴力を受けた女性への援助 7. 児童虐待と看護 1) 児童虐待の実態 2) 児童虐待の対策 3) 児童虐待の予防 8. 国際化社会と看護 1) 母子保健の国際化 2) 在日外国人の母子保健 3) 海外での日本人の妊娠・出産・育児	1. リプロダクティブヘルスケアについて述べるができる	講義
12 13	4	母性看護に必要な看護技術 1. 母性看護に使われる看護技術について学ぶ	1. 母性看護における看護過程 1) 母性看護における対象把握 2) 看護上の問題の明確化（看護診断） 3) 看護計画の立案から評価までの展開 2. 情報収集・アセスメント技術 1) 女性のヘルスアセスメントの考え方 2) ヘルスアセスメントの方法 3. 母性看護に使われる看護技術 1) 基盤となる看護技術 2) 女性の意思決定を支える看護技術 3) ヘルスプロモーションのための看護技術 4) 親になる過程及び家族適応を促す看護技術 5) ストレス・不快症状、苦痛を緩和する看護技術 6) 次世代の成長・発達を促す看護技術 7) リプロダクティブヘルスの健康障害への対応	1. 母性看護における看護の展開の特徴を述べるができる 2. 母性看護における看護技術の特徴を述べるができる	講義

			8) 周産期の死に対する看護技術		
14	2	母性看護の基盤となる概念 ー倫理ー 1. 母性看護における倫理について考え、課題を見いだす 2. 母性をめぐる法的課題と医療事故の予防と対応について学ぶ	1. 母性看護における倫理 1) 生命倫理と看護倫理 2) 看護における倫理的意思決定 2. 母性看護における安全・事故予防 1) リスクマネジメント 2) 事故への対応 3. 母子をめぐる現状と課題	1. 母性をめぐる倫理について関心を持ちその問題点について考えることができる 2. 母子を取り巻く現代社会について視野を向け、良い点や問題点および今後の課題について考えることができる	講義
15	2	単位認定終講試験			

母性看護学援助論 I

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		産科病棟勤務経験有 助産師	
科目目標	1. 正常な妊娠の成立機序と妊娠各期の経過を理解し、健康管理に必要な看護および技術を理解する 2. 妊娠に関する健康障害や合併症妊娠の母子管理について理解する 3. 正常分娩の経過を理解し、産婦とその家族が主体的に出産に臨み、安全安楽な分娩のために必要な看護および技術を理解する 4. 分娩期に起こりやすい異常について理解し、母子の看護を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	グループワーク・発表があるときには資料作成と発表準備が必要	テキスト	母性看護学概論 母性看護学各論（医学書院） 周産期ナースィング（ヌーベルヒロカワ） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	妊娠期における看護① 妊娠期の身体的・心理・社会的特性 1. 母体の生理的变化を理解する 2. 胎児の発育と生理について理解する 3. 妊婦の心理と社会的特性を理解する	1. 妊娠期の身体的特性 1) 妊娠の生理 2) 胎児の発育とその生理 3) 母体の生理的变化 2. 妊娠期の心理・社会的特性 1) 妊婦の心理 2) 妊婦と家族および社会	1. 妊娠の定義を述べるができる 2. 妊娠に伴う身体的変化について述べるができる 3. 胎児の発育と生理について述べるができる 4. 妊娠各期の心理・社会的・特徴について述べるができる	講義
2	2	出生前からのリプロダクティブヘルスケア 1. 子どもを産み育てるにあたり生じる遺伝及び不妊問題について理解する 2. 出生前診断・着床前診断の方法及び母体・胎児のリスク、倫理的問題を理解し、診断を受ける対象への看護について理解する 3. 不妊となる因子とそれに対する検査法及び治療法について理解する 4. 不妊症の治療を受ける対象の心理と社会的背景を理解し、不妊症の治療を受けている対象への看護について理解する	1. リプロダクティブヘルスケアの必要性 2. 遺伝相談 1) 遺伝相談とは 2) 出生前診断 3) 出生前診断の実際 4) 着床前診断 5) 胎児治療と遺伝子治療 6) 出生前診断を受ける人への看護・遺伝カウンセリング 3. 不妊治療と看護 1) 不妊とその原因 2) 不妊検査 3) 不妊治療 4) 不妊治療を受けている女性の心理・社会的特徴 5) 不妊夫婦の看護 6) 不妊治療によって妊娠した女性・家族の看護 7) 不妊治療の終結にかかわる看護	1. 遺伝及び不妊問題について述べるができる 2. 出生前診断・着床前診断の方法、リスク、倫理的問題について述べるができる 3. 出生前診断・着床前診断を受ける対象への看護について述べるができる 4. 不妊症の定義について述べることができる 5. 不妊の原因・検査・治療について述べることができる 6. 不妊症の治療を受けている対象の心理的・社会的問題について述べることができる 7. 不妊症の治療を受けている対象の看護について述べるができる	講義

3	2	妊娠期における看護② 妊婦と胎児のアセスメント 1. 妊娠の診断と妊娠期に必要な検査と目的について理解する 2. 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメントについて理解する	1. 妊婦と胎児のアセスメント 1) 妊娠とその診断 2) 妊娠期に行う検査とその目的 3) 胎児の発育と健康状態の診断 4) 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント	1. 妊娠期におけるアセスメントの方法を述べることができる 2. 妊婦健康診査の必要性和時期について述べるができる	講義
4 5	4	妊娠期における看護③ 妊婦と家族の看護 1. 妊婦が受ける母子保健サービスの概要を理解する 2. 各期における妊娠期の援助について理解する	1. 妊婦と家族の看護 1) 妊婦が受ける母子保健サービス (1) 妊娠の届け出と母子健康手帳の交付 (2) 妊婦健康診査 (3) 保健指導 (4) 健康相談・教育の目的 (5) 健康相談・教育の方法 2) 妊婦の健康相談・教育の実際 (1) 妊娠中の食生活 (2) 排泄 (3) 清潔 (4) 妊娠中の衣生活 (5) 活動と休息 (6) 妊婦の勤労 (7) 妊娠中の性生活 (8) 妊娠中のマイナートラブル 3) 親になるための準備教育 (1) 出産準備教育 (2) 育児準備のための健康相談・教育 (3) 家族役割調整のための健康相談・教育	1. 妊婦・勤労妊婦の法的保護について述べるができる 2. 妊娠各期の日常生活についてのアセスメント項目を述べるができる 3. 親役割獲得過程における発達課題について述べるができる	講義
6 7	4	妊娠の異常と看護 1. 妊娠期に起こりやすい異常の病態生理・診断・検査・治療・看護を理解する	1. ハイリスク妊娠 1) 生活習慣、心理的・社会的因子、体格による影響 2) 既往妊娠分娩歴 3) 今回の妊娠経過中の異常 4) 合併する全身疾患 2. 妊娠期の感染症 1) 風疹 2) トキソプラズマ感染症 3) サイトメガロウイルス感染症 4) 単純ヘルペス 5) 水痘・帯状疱疹 6) B型肝炎 7) C型肝炎 8) 成人T細胞白血病 9) ヒトパルボウイルス B19 感染症 10) B群溶血性レンサ球菌感染症 11) 梅毒 12) 性器クラミジア 13) 淋菌感染症（淋病） 14) 後天性免疫不全症候群 3. 妊娠疾患 1) 妊娠悪阻 2) 妊娠高血圧症候群 3) 血液型不適合妊娠 4. 多胎妊娠 5. 妊娠持続期間の異常 1) 流産 2) 早産・切迫早産 3) 過期妊娠・過期産 6. 異所性妊娠 7. ハイリスク妊娠の看護 1) 高年妊婦の看護 2) 若年妊婦の看護 3) 肥満・過剰体重増加妊婦の看護 4) 合併症を有する妊婦の看護 5) 妊娠高血圧症候群妊婦の看護 6) 切迫流・早産の妊婦の看護 7) 多胎妊婦の看護 8) その他問題をもつ妊婦の看護	1. ハイリスク妊娠について述べるができる 2. 妊娠期に起こりやすい異常の病態生理・診断・検査・治療と看護について述べるができる	講義

8	2	分娩期における看護① 1. 正常分娩の経過を理解する 2. 分娩による産婦と家族の心理的变化について理解する	1. 分娩の要素 1) 分娩とは 2) 分娩の3要素 3) 胎児と子宮および骨盤との関係 4) 分娩の機序 2. 分娩の経過 1) 分娩の進行と産婦の身体的変化 2) 産婦の身体的変化 3) 産痛 4) 分娩が胎児へおよぼす影響 5) 産婦の心理・社会的変化	1. 分娩の定義を述べることができる 2. 正常分娩の経過について述べるができる 3. 分娩各期の産婦および家族の心理について述べるができる	講義
9	2	分娩期における看護② 産婦・胎児、家族のアセスメント 1. 分娩経過のアセスメントを理解する 2. 産婦の心理と社会面のアセスメントを理解する	1. 産婦・胎児、家族のアセスメント 1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント (1) 基礎的情報の収集 (2) 分娩経過のアセスメント (3) 分娩進行に伴う反応のアセスメント (4) 基本的ニードに関するアセスメント 2) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント (1) 母親役割獲得準備状態についてのアセスメント (2) 家族関係についてのアセスメント 3) 産婦・家族における看護上の問題の明確化	1. 分娩期におけるアセスメントの方法を述べるができる 2. 分娩期における看護上の問題について述べるができる	講義
10 11	4	分娩期における看護③ 産婦と家族の看護 1. 産婦とその家族が主体的に出産に臨むことができるための看護を理解する 2. 母児が安全安楽に分娩するための看護を理解する	1. 産婦と家族の看護 1) 看護目標と産婦のニード 2) 安全分娩への看護 3) 安楽な分娩への看護 4) 出産体験が肯定的になる(よいお産になる)ための看護 5) 基本的ニードに関する看護 6) 家族発達を促す看護 2. 分娩期の看護の実際 1) 分娩第1期の子宮口開大3～7cmまでの看護 2) 分娩第1期活動期の終盤(極期、減速期:子宮口開大7～8cm開大まで)の看護 3) 分娩第2期の看護 4) 分娩3・4期の看護 5) 無痛分娩と看護	1. 分娩期の看護目標について述べるができる 2. 分娩期における産婦と胎児の観察の視点について述べるができる 3. 産婦の出産への対処を促す看護の方法を述べるができる 4. 分娩各期の看護の視点を述べることができる	講義
12 13	4	分娩の異常と看護 1. 分娩期に起こりやすい異常の病態生理・診断・検査・治療を理解する 2. 分娩期における正常からの逸脱の予防と逸脱時の看護を理解する	1. 産道の異常 1) 骨産道の異常 2) 軟産道の異常 2. 娩出力の異常 1) 陣痛の異常 2) 腹圧の異常 3. 胎児の異常による分娩障害 1) 発育および形態の異常 2) 胎位の異常 3) 胎勢・回旋の異常 4. 胎児の付属物の異常 1) 胎盤の異常 2) 臍帯の異常 3) 卵膜の異常 4) 羊水の異常 5. 胎児機能不全 6. 分娩時の損傷 1) 子宮破裂 2) 頸管裂傷 3) 会陰裂傷・膣壁裂傷 7. 分娩第3期及び分娩分娩直後の異常 1) 胎盤の娩出遅延 2) 子宮の異常 8. 分娩時異常出血 1) 分娩時異常出血の鑑別診断と対策 2) 注意すべき分娩時の出血の病態 9. 産科処置と産科手術 1) 分娩誘発 2) 会陰切開 3) 吸引分娩・鉗子分娩 4) 骨盤位に対する産科処置 5) 帝王切開 10. 異常のある産婦の看護	1. 分娩期に起こりやすい異常についての病態生理・診断・検査・治療について述べるができる 2. 分娩期における正常からの逸脱の予防と逸脱時の看護について述べることができる	講義

			1) 破水が生じた産婦の看護 2) 分娩遷延リスクのある産婦の看護 3) 胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護 1 1. 異常分娩時の産婦の看護 1) 急速遂娩を受ける産婦の看護 1 2. 分娩時異常出血のある産婦の看護 1) 弛緩出血を生じた産婦の看護 2) 頸管裂傷を生じた産婦の看護 3) 膣・会陰血種を生じた産婦の看護 4) 会陰裂傷を生じた産婦、会陰切開を行った産婦の看護		
1 4	2	妊娠期・分娩期の看護技術 1. 妊娠経過の観察に必要な看護技術を習得する 2. 母子が安全安楽に分娩するための援助を理解する	1. 外診時の援助 1) レオボルド触診法・・・・・・● 2) 胎児心音の聴取（超音波ドップラー法）・・・・● 3) 子宮底長の測定・・・・・・● 4) 腹囲の測定・・・・・・● 2. 母乳哺育のための準備 1) 乳頭マッサージ・・・・・・● 3. 産痛緩和法・・・・・・● 4. 胎児付属物の観察と計測 1) 胎盤計測	1. 妊娠経過の観察に必要な看護技術を実施することができる 2. 母子が安全安楽に分娩するための援助を実践することができる	演習
1 5	2	単位認定終講試験			

●演習

母性看護学援助論Ⅱ

開講時期	Ⅳ	単位数	2	時間数	4 5 時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験		産科病棟勤務経験有 助産師 大阪労災病院勤務 助産師 認定看護師	
科目目標	1. 女性特有の健康障害の特徴、疾病・治療について理解する 2. 女性の健康障害が及ぼす影響を踏まえ、女性の健康障害に対する看護について理解する 3. 産褥期における経過を理解し、セルフケアにむけて必要な看護および技術を学ぶ 4. 産褥期における健康障害や合併症をもつ褥婦の母子管理について理解し、必要な看護を学ぶ 5. 正常な早期新生児の経過および成長発達を理解し、母子関係を促進させ、必要な看護および技術を学ぶ 6. 産褥期・新生児期の事例展開を通して産褥期・新生児期の看護について学ぶ				
評価方法	筆記試験 1 5 0 点 課題提出 3 0 点	認定基準	筆記試験 1 0 0 点換算し 6 0 点以上で合格 事例展開 1 8 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	グループワーク・発表があるときには資料作成と発表準備が必要 事例展開について	テキスト	母性看護学概論 母性看護学各論（医学書院） 周産期ナースィング（ヌーベルヒロカワ） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	母性看護の基盤となる概念ー身体的性・ジェンダーアイデンティティに関する健康障害ー 1. 性同一性障害/性別違和について学び、その看護を理解できる 2. 性分化疾患の診断と治療について学び、	1. セクシュアリティ（人間の性） 1) セクシュアリティとは (1) セクシュアリティに関する概念 (2) 人間の性の特徴 (3) 性的マイノリティ 2. 妊娠と胎児の性分化 1) 性分化のメカニズム 2) 身体上の性と心理・社会上の性 3) 性分化疾患 (1) 性分化疾患の定義と分類	1. 性同一性障害/性別違和について述べることができる 2. 性分化疾患の診断と治療、看護について述べるができる	講義

		その看護を理解できる	(2) おもな疾患 ①膣欠損・膣閉鎖 ②アンドロゲン不応症候群 ③先天性副腎皮質過形成 ④ターナー症候群 ⑤46, XY性分化疾患 ⑥卵精巢性DSD (3) 検査・診断 (4) 治療 ①外科治療 ②内科的治療 4) 性分化疾患の人へのケア		
2	2	女性のライフステージ各期における看護 -思春期・更年期における健康障害- 1. 思春期における月経異常・性感染症の診断と治療について学び、その看護を理解できる 2. 更年期における更年期障害の診断と治療について学びその看護を理解できる	1. 思春期の健康と看護 1) 思春期女性の特徴 (1) 身体的特徴 (2) 心理・社会的特徴 2) 健康問題と看護 (1) 月経異常 (2) 性感染症 2. 更年期の健康と看護 1) 更年期女性の特徴 (1) 身体的特徴 (2) 心理・社会的特徴 2) 健康問題と看護 (1) 更年期症状・更年期障害	1. 思春期における月経異常・性感染症の治療と看護について述べることができる 2. 更年期における更年期障害の診断と治療、看護について述べるができる	講義
3 4 5	6	女性生殖疾患患者の看護① 内性器疾患 1. 内性器の健康障害の診断と治療について理解できる 2. 子宮がんで、広汎子宮全摘出術を受ける患者の周手術期・後療法時の看護について理解する	1. 内性器疾患の診察・検査と治療・処置 1) 診察・検査 2) 治療・処置 2. 内性器疾患の理解 子宮（子宮頸がん・子宮体がん・子宮筋腫・子宮内膜症・絨毛性疾患）・卵巣（良性腫瘍・悪性腫瘍）の疾患 3. 患者の看護 1) 疾患を持つ患者の経過と看護 2) 外来・病棟における看護 3) 診療介助における看護 4) 症状とその病態に対する看護 4. 子宮の腫瘍性疾患患者の看護 1) アセスメント 2) 看護目標 3) 看護活動 (1) 検査に対する援助 (2) 治療に対する援助 ①手術を受ける患者の看護 ②化学療法を受ける患者の看護 ③放射線療法をうける患者の看護 (3) 心理的支援	1. 内性器の健康障害の病態生理を述べるができる 2. 子宮がんの術後合併症について述べるができる 3. 子宮がんの手術を受ける患者の看護について述べることができる	講義
6 7	4	女性生殖疾患患者の看護② 乳房の疾患 1. 外性器の健康障害の診断と治療について理解できる 2. 乳がんで、非定型的乳房切除術を受ける患者への看護について理解する	1. 乳房の疾患の理解 (乳がん・乳腺良性腫瘍・乳腺良性腫瘍性疾患・炎症) 2. 乳房腫瘍患者の看護 1) アセスメント 2) 看護目標 3) 看護活動 (1) 検査に対する援助 (2) 治療に対する援助 ①手術を受ける患者の看護 ②化学療法を受ける患者の看護 ③放射線療法を受ける患者の看護 ④ホルモン療法を受ける患者の看護 (3) 心理的支援	1. 乳がんの診断と治療について述べることができる 2. 乳房喪失の悲嘆の変化のボディイメージの変化への受容と生活適応について述べることができる 3. 乳がんで、非定型的乳房切除術を受ける患者の看護について述べることができる	講義
8 9	4	産褥期における看護① 産褥期の身体的・心理・社会的変化とアセスメント 1. 産褥期の身体的経過を理解する 2. 産褥期の心理・社会的変化を理解する	1. 産褥経過 1) 産褥期の身体的変化 (1) 産褥の定義 (2) 子宮復古と悪露 (3) 乳汁分泌 (4) 月経の発来 (5) 全身の変化 2) 褥婦の心理・社会的変化	1. 産褥の定義について述べるができる 2. 産褥期の身体的変化について述べることができる 3. 産褥期の心理・社会的変化について述べることができる 4. 産褥期におけるアセスメントのについて述べるが	講義

		3. 褥婦のアセスメントを理解する	(1) 褥婦の心理的变化 (2) 家族の心理的变化 (3) ソーシャルサポート (社会的支援) 2. 褥婦のアセスメント 1) 産褥経過の診断 (1) 退行性変化 (2) 進行性変化 (3) その他の症状 2) 褥婦の健康状態のアセスメント (1) 基礎的情報 (2) 褥婦の身体の状態 (3) 褥婦の生活パターンとセルフケアレベル (4) 不快症状と対処能力 (5) 心理的变化 (6) 関係性・役割獲得 (7) 褥婦を取り巻くサポート態勢	できる	
10	2	新生児期における看護 1. 新生児の生理を理解する 2. 新生児の健康状態のアセスメントを理解する 3. 新生児が子宮外生活に適應するために必要な看護について理解する	1. 新生児の生理 1) 新生児とは 2) 新生児の機能 2. 新生児のアセスメント 1) 新生児の診断 2) 新生児の健康状態のアセスメント 3. 新生児の看護 1) 出生直後の看護 2) 出生後から退院時までの看護 3) 生後1か月健診に向けた退院時の看護	1. 新生児の定義を述べることができる 2. 新生児期の生理的变化について述べることができる 3. 新生児のアセスメントの項目について述べることができる 4. 新生児の子宮外適應過程における看護について述べるができる	講義
11 12	4	産褥期における看護② 褥婦と家族の看護 1. 産婦とその家族が主体的に産褥期間中の諸問題を解決するために必要な看護を理解する	1. 褥婦と家族の看護 1) 身体機能の回復および進行性変化への看護 (1) 褥婦のセルフケアの不足に対する看護 (2) セルフケア能力を高める看護 2) 児との関係確立への看護 3) 育児にかかわる看護 (1) 児の栄養 (授乳) (2) 児の清潔 (3) 児の健康管理 4) 家族関係再構築への看護 (1) 上の子どもへの対応 (2) 夫またはパートナーへの対応 2. 施設退院後の看護 1) 産後の生活調整 (1) 産後の母子の生活調整 (2) 産後の家族への支援 2) 育児不安 (1) 退院後のフォローアップ (2) 育児におけるヘルスリテラシー 3) 産後の健康診査と子育て支援 (1) 産後の健康診査 (2) 子育て支援 4) 職場 (1) 職場復帰にむけた準備 (2) 母乳育児継続への支援	1. 産褥期の生理的变化への援助について述べるができる 2. 産褥期の乳房管理の必要性和方法について述べるができる 3. 子どもへの愛着形成を促す援助について述べるができる	講義
13	2	産褥期の看護技術 1. 産褥の健康を整えるための看護技術を習得する 2. 新生児期の皮膚の清潔を保つための技術を習得する	1. 復古現象を促す援助 1) 悪露交換 2) 子宮復古状態の観察・・・・・・● 3) 産褥体操 2. 沐浴・・・・・・●	1. 産褥モデル人形にて子宮復古の観察ができる 2. 基本的沐浴法にて実施できる	演習
14	2	産褥の異常と看護① 1. 産褥期に起こりやすい異常の病態生理・診断・検査・治療を理解する	1. 子宮復古不全 2. 産褥期の発熱 1) 産褥熱 2) 創部感染 3) 劇症型A群溶レン菌感染症 4) 泌尿器感染症 5) 乳腺炎 3. 産褥血栓症 4. 精神障害 1) マタニティブルー 2) 産後うつ病 3) その他産褥精神病	1. 産褥に起こりやすい異常の病態生理・診断。検査・治療について述べるができる	講義

15	2	産褥の異常と看護② 1. 正常からの逸脱の予防と逸脱時の看護を理解する	1. 異常のある褥婦の看護 1) 感染症を有する褥婦の看護 (1) B型肝炎 (2) 成人T細胞白血病 (3) 後天性免疫不全症候群 2) 乳房トラブル (1) 乳房の腫脹と疼痛 (2) 乳首のトラブル 3) 本人あるいは児に健康上の問題がある褥婦の看護 (1) 健康上の問題を抱える褥婦の看護 (2) 児に健康上の問題があるときの褥婦の看護 2. 育児に困難さを抱える母親への看護 (1) 多胎児の育児における育児困難感 (2) 多胎児を持つ母親への支援 3. 児を亡くした褥婦・家族の看護 1) 環境調整 2) 褥婦や家族が喪失の現実を受け入れるための支援 3) 感情表出のための支援 4) 児を亡くした女性への身体的ケア 5) 児を亡くした女性の家族へのケア 4. メンタルヘルスの問題をかかえる母親の支援 1) 妊娠出産育児への影響 2) 治療および看護	1. 褥婦と新生児が正常過程からの逸脱を予防する看護について述べるができる 2. 健康上の問題がある褥婦と新生児の看護について述べるができる 3. 産褥期のメンタルヘルスについて述べるができる	講義
16	2	帝王切開術を受ける産婦の看護 1. 帝王切開で出産する産婦、術後の褥婦の看護を理解する	1. 帝王切開術前の看護 1) 術前オリエンテーションと心身の準備 2) 術後の合併症予防の準備 2. 帝王切開術中の看護 3. 帝王切開術後の看護 1) 身体回復への看護 2) 早期母子接触 3) 出産体験のふり返りと統合への看護 4) 母乳哺育・子育てへの看護 5) 母子分離状態への看護	1. 帝王切開後の身体、心理、社会的側面について述べるができる 2. 術後合併症について述べるができる 3. 術後の身体回復促進と並行した育児にかかわる看護について述べるができる	講義
17 18 19 20 21	10	【看護過程の展開】 1. 正常経過をたどる褥婦・新生児の事例を通して産褥期・新生児期の看護過程が理解できる	1. 産褥期・新生児期の事例展開 (1) 情報の整理と解釈 (2) 看護問題の抽出 (3) 看護計画の立案 (4) グループでの共有	1. 妊娠期・分娩期の経過から今後を予測したアセスメントができる 2. 正常産褥経過を促進する看護計画が立案できる	講義 グループワーク
22	2	【実践】 産褥3日目の子宮復古の観察の場面 1. 事例を通して、産褥期の看護過程の展開ができる	1. 事例に応じた看護の展開 *シミュレーション演習 2. 看護実践の評価 3. 看護計画の追加・修正	1. SIM演習にて計画した看護を実践でき、評価することができる 2. 事例を用いて、看護計画に基づき、具体的な関わりについて実施できる 3. 実施した看護を評価し、看護計画の追加修正ができる	演習
23	1	単位認定終講試験			

専 門 分 野

精 神 看 護 学

精神看護学概論

開講時期	Ⅱ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		精神科専門病院勤務経験有	
科目目標	1. 精神保健の基礎を学び人間は環境や社会の相互作用の中で生きていく存在であることを理解する 2. 環境や社会と精神看護の基礎的関係を学び、精神保健活動の課題を学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	社会の動きと心の健康のつながりについて日頃から関心をもつこと グループワーク・発表があるときには資料作成と発表会準備が必要	テキスト	精神看護の基礎（医学書院） 精神看護の展開（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	精神看護学で学ぶこと 1. 精神看護学の基本的な考え方を理解する	1. 精神看護学とはなにか 2. 精神障害をもつ人の病いの体験と精神看護 3. 「心のケア」と日本社会 4. 精神看護の課題	1. 精神保健の定義について述べることができる	講義
2 3	4	精神保健の考え方 1. 精神の健康・不健康の考え方を理解する	1. 精神の健康とは 2. 心身の健康に及ぼすストレスの影響 3. 心的外傷（トラウマ）と回復 4. 精神障害という考え方	1. 精神の健康とストレスとの関連について述べるができる	講義
4 5 6	6	心のはたらきと人格の形成 1. 人間のこころのはたらきと自己形成につながる各理論について理解する	1. 心のはたらき 2. 心のしくみと人格の発達 1) 人格と気質 2) 意識と無意識－精神分析と精神力動理論 3) 良い乳房と悪い乳房－対象関係論 4) ライフサイクルとアイデンティティ－エリクソンの漸成的発達理論 5) 愛着と心の安全の基地－ボウルビーの愛着理論 6) 自己愛と自己対象体験－コフートの自己心理学 7) 「甘え」理論	1. 人の心の諸活動について理論を用いて述べるができる 2. 人格の発達について述べることができる	講義
7 8	4	関係のなかの人間 1. 看護の対象としての家族と集団について学び、集団力動を理解する	1. システムとしての人間関係 1) システムとはなにか 2) 二者間における2つの関係パターン 2. 全体としての家族 1) 家族と精神の健康 2) 家族の関係性とコミュニケーションに関する研究 3) 家族システムという考え方 4) 家族のストレスと感情表出 3. 人間と集団 1) 集団と個人 2) グループの活用－なぜグループなのか 3) 全体としてのグループ 4) 組織をグループとしてみる－組織のダイナミクスと職場の人間関係	1. 家族の中での自己の役割を述べるができる 2. 所属する集団の中での自己の役割を述べるができる	講義
9 10 11	6	社会のなかの精神障害 1. 精神疾患・障害とその治療の歴史をふまえ日本における法制度について理解する	1. 精神障害と治療の歴史 2. 日本における精神医学・精神医療の流れ 3. 精神障害と文化－多様性と普遍性 4. 精神障害と社会学 5. 精神障害と法制度 1) 精神看護における法律 2) 精神科領域で必要な法律と制度 6. おもな精神保健医療福祉対策とその動向 1) 自殺対策 2) 依存症対策 3) 認知症対策 4) その他の健康問題への対策	1. 精神障害の歴史と法制度の変遷について述べるができる 2. 精神保健医療福祉対策として取り組まれていることについて述べるができる	講義 グループワーク 発表

1 2 1 3	4	医療の場におけるメンタルヘルスと看護 1. 精神科以外で精神保健看護の知識や技術をいかして活動するリエゾン精神看護について理解する	1. 身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス 1) メンタルヘルスと慢性身体疾患 2) 身体疾患患者が示す精神症状 2. リエゾン精神看護とその活動 1) リエゾン精神看護とはなにか 2) リエゾン精神看護の歴史 3) リエゾナーズの役割 3. リエゾナーズの活動の実際 4. 看護師のメンタルヘルスへの支援	1. 身体疾患の治療を受ける患者が陥りやすい精神保健上の問題について述べることができる 2. リエゾン精神看護・リエゾナーズの活動について述べるができる	講義
1 4	2	災害時のメンタルヘルスと看護 1. 災害時の心のケアと支援の必要性について理解する	1. 災害時における心のケア 1) 災害時における心のケアの必要性 2) 災害時の心のケアにおける個人とコミュニティの視点 3) 災害弱者としての精神障害者 4) 災害派遣精神医療チーム（DPAT）の活動 2. 災害にみまわれた人の心理とケア 1) 災害にみまわれた人の心理 2) 災害急性期の心のケア 3) 病院が被災したとき 3. 支援者のメンタルヘルスとケア 1) 緊急事態ストレスマネジメント（CISM）の方法 2) CISM の介入方法	1. 災害がもたらす身体的、精神的、社会的影響について述べるができる 2. 危機に直面した人々への支援の必要性について述べるができる	講義
1 5	2	単位認定終講試験			

精神看護学援助論Ⅰ

開講時期	Ⅲ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験		精神専門病院勤務経験有専任教員 精神専門病院勤務 看護師	
科目目標	1. 代表的な精神疾患について原因・病態・診断・治療を理解する 2. 身体疾患による治療・環境に伴う精神機能への影響に対応した看護の過程を理解する				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	精神科医療・看護に関わることに ついて日頃から関心をもつこと	テキスト	精神看護の基礎（医学書院） 精神看護の展開（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2 3	6	精神科疾患のあらわれ方 1. 精神看護における「症状のとらえ方」について理解する	1. 精神を病むことと生きること 1) 「病いの経験」の理解への手がかり-疾患と病い 2) さまざまな病気の説明の仕方をさぐる 3) 看護と精神医学の広がり 2. 精神症状論と状態像－理解への手がかり 1) 症状とは何か 2) さまざまな精神症状	1. 精神機能の障害である精神症状について述べるができる	講義
4 5 6 7	8	精神科での治療 1. 精神科で行われる治療について理解する	1. 精神科における治療 2. 精神療法 3. 薬物療法 4. 電気けいれん療法その他 5. 環境療法・社会療法	1. 身体疾患の治療を受ける患者が陥りやすい精神保健上の問題を述べるができる	講義
8 9	4	入院治療の意味 1. 精神保健福祉法に基づく入院治療の実際を知り、退院までの支援に	1. 精神科を受診するということ 2. 治療の器としての病院・病棟 3. 入院中の観察とアセスメント 4. ケアの方向性を考える 5. 退院に向けての支援とその実際	1. 精神科における入院の意味と、必要な環境整備について述べるができる	講義

		ついて理解する			
10 11 12	6	身体をケアする 1. 精神疾患の回復過程に応じた身体ケアと看護について理解する	1. 精神科における身体ケア 2. 精神科における身体を通した看護ケアの実際 3. 精神科の治療に伴う身体ケア 1) 薬物療法を受ける患者のケア 2) 電気けいれん療法を受ける患者のケア 4. 身体合併症のアセスメントとケア 5. 精神科における終末期ケア	1. 身体と精神の関係性をふまえ、身体の管理の必要性を述べることができる	講義
13 14	4	安全を守る 1. 「安全」について基本的な考え方を知り、安全を守るためのリスクマネジメントを理解する	1. リスクマネジメントの考え方と方法 2. 緊急事態に対処する 1) 緊急事態とは何か 2) 自殺 3) 暴力 4) 無断離院 5) 感染症 3. 緊急事態とスタッフの支援	1. 人権と治療のバランスの上に立つ「安全」についての基本的な考えを述べることができる	講義
15	2	単位認定終講試験			

精神看護学援助論Ⅱ

開講時期	Ⅳ	単位数	2	時間数	4 5 時間
教員名	専任教員	実務経験		精神専門病院勤務経験有専任教員	
科目目標	1．精神疾患に特徴的な症状に対応した看護の過程を理解する 2．行動化する患者の背景にあるものを理解し、回復を目標とした援助を学ぶ				
評価方法	筆記試験 1 0 0 点 課題提出 3 0 点	認定基準	筆記試験 6 0 点以上で合格 事例展開 1 8 点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	事前学習として概論・援助論Ⅰで 学習した内容を復習しておくグル ープワーク・発表があるときには 資料作成と発表会準備が必要	テキスト	精神看護の基礎（医学書院） 精神看護の展開（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1 2 3 4	8	ケアの人間関係 1. 自己理解・他者 理解を基盤に患者・看護師関係でおきる現象のしくみと対処法を理解する	1. ケアの前提 2. ケアの原則 1) 人としての尊厳を尊重する 2) 互いの境界をまもる 3) 応答性を保つ 4) 現実検討をする 3. ケアの方法 1) そばにすること 2) 遊ぶこととユーモア 3) 話すこと、聞くこと 4) 自分自身であること 4. 関係をアセスメントする 1) なぜ関係のアセスメントが必要なのか 2) プロセスレコードの活用 3) 「異和感の対自化」を使う 5. 患者・看護師関係における感情体験 6. 関係の視点からみた困難事例 7. チームのダイナミクス	1. 人間関係の基盤となる原則について述べるができる 2. プロセスレコードを記入し、自己のコミュニケーションの特徴を理解し、患者・看護師関係への活用について考えることができる	講義
5 6	4	回復を支援する 1. 患者にとっての回復・リカバリーの意味を理解し、精	1. 回復の意味 2. リカバリーのビジョン 3. 治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点 1) 急性期病棟におけるリカバリーの事例 2) 慢性期病棟におけるリカバリーの事例	1. 精神障害の人々にとっての回復の意味について述べるができる	講義

		神障害の人々の回復に向けた支援について理解する	3) 誰にでも回復の可能性はある 4) 看護師にとってのリカバリー 4. リカバリーを促す環境 5. リカバリーを促す方法としてのグループ 6. さまざまな回復のためのプログラム 7. リカバリーのプロセス		
7 8	4	地域におけるケアと支援 1. 現在の日本の地域精神保健の動きを知り、生活を支える社会制度とその基盤となる考え方について理解する	1. 「器」としての地域 1) 病院から地域へ 2) 地域をメンタルヘルスケアの「器」に 3) 「器」としての地域づくりの実践例 2. 地域における生活支援の方法 1) 地域で精神障害者を支援する際の原則 2) 地域生活を支えるシステムと社会資源 3. 地域におけるケアの方法と実際 4. 学校におけるメンタルヘルスと看護 5. 職場におけるメンタルヘルスと精神看護	1. 現在の日本の地域精神保健の動きについて述べる事ができる 2. 精神障害者の生活を支える社会制度とその基盤となる考え方について述べる事ができる	講義
9 10	4	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 1. 対人援助に不可欠な感情労働について学び、対処方法を理解する	1. 看護師の不安と防衛 2. 感情労働としての看護 3. 看護師の感情ワーク 4. 看護における共感の光と影 5. 感情労働の代償と社会 6. 共感疲労を予防するためのいくつかのヒント	1. 感情労働である看護の感情管理（感情ワーク）について述べる事ができる	講義
11 12 13 14 15 16 17	14	精神看護における対象理解 1. 対象の成育歴や背景と疾患のつながりについて理解する 2. 精神障害による日常生活行動への影響について理解する	1. 統合失調症で幻覚・妄想の陽性症状のある患者の看護 1) 病態を理解する 2) 発症要因、アセスメント 3) 問題状況の把握と看護 4) 急性期の患者の看護の実際 5) 慢性期の患者の看護の実際 2. うつ病で希死念慮のある患者の看護 1) 病態を理解する 2) 発症要因、アセスメント 3) 問題状況の把握と看護 4) 急性期の患者の看護の実際 5) 慢性期の患者の看護の実際 3. 摂食障害患者の看護の実際 1) 病態を理解する 2) 発症要因、アセスメント 3) 問題状況の把握と看護 4) 急性期の患者の看護の実際 5) 慢性期の患者の看護の実際	1. 対象の成育歴や背景と疾患とのつながりについて述べる事ができる 2. 精神的に障害をもつことにより引き起こされる日常生活行動レベルについて理解し、その意味について考える事ができる	講義 演習
18 19 20 21 22	10	【看護過程の展開】 精神障害のある勤労患者の看護 1. 精神障害をもつ患者の看護展開ができる	1. 病態を理解する 2. データベースを用いて情報を分類 3. 看護上の問題を抽出する 4. 全体像の捉え方について 5. 看護援助のポイントについて 6. 看護計画立案	1. データベースに情報を分類できる 2. 看護上の問題を抽出できる 3. 看護計画を立案できる 4. 事前学習と立案した看護計画を提出する	講義 グループワーク
23	1	単位認定終講試験			

専 門 分 野

看 護 の 統 合 と 実 践

看護管理

開講時期	Ⅳ	単位数	1	時間数	30時間
教員名	臨床講師 専任教員	実務経験		大阪労災病院勤務 看護師 管理者経験有	
科目目標	1. 看護管理の対象とその実践範囲について学ぶ 2. 質の高い看護を実践していくための看護の管理の方法を学ぶ 3. 安全な医療および看護のための方法とその管理の実際を理解する 4. 看護専門職としてのキャリア形成について学ぶ				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	看護の動向を含め日ごろから関心をもっておく	テキスト	看護管理（医学書院） 医療安全（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	講義
1 2 3	6	看護サービスのマネジメント 1. 組織として看護サービスをマネジメントする考え方を学ぶ	1. 看護サービスのマネジメント 1) サービスとは 2) 看護サービスのマネジメントの対象と範囲 2. 組織目的達成のマネジメント 1) 理念の形成と浸透 2) 現状分析・情報収集 3) 看護の組織化 3. 看護サービス提供の仕組みづくり 1) 看護単位の機能と特徴 2) 看護ケア提供システム 4. 人材のマネジメント 1) キャリアディベロップメント 2) 人材フローのマネジメント 3) 労働環境 5. 施設・設備環境のマネジメント 1) 医療施設の施設・設備環境・ 2) 療養環境の整備・ 3) 作業環境の整備 6. 物品のマネジメント 1) 物的資源管理（物品管理）の原則 2) 物品供給システム 3) 医薬品の取り扱いと管理（麻薬・毒薬・劇薬を含む） 4) 医療機器等の管理 5) 廃棄物の取り扱いと管理 7. 情報のマネジメント 1) 情報の種類 2) 情報の管理 3) 守秘義務 4) プライバシーの保護 5) 情報開示への対応 8. 組織におけるリスクマネジメント 1) リスクマネジメントとは、 2) 事業継続計画（BCP） 9. サービスの評価、 1) 医療におけるサービスの質の評価・ 2) わが国における医療機能の評価	1. 看護サービスのマネジメントの対象と範囲についてマネジメントサイクルと関連して理解できる。 2. 組織をマネジメントするにあたり、理念と現状分析の必要性を理解し、看護の組織化とのかかわりを理解することができる。 3. 看護サービス提供のためのしくみについて理解できる。 4. 人材のマネジメントについて理解できる。 5. 設備環境および物品のマネジメントについて理解できる。 6. 組織におけるリスクマネジメントについて理解することができる。 7. 対象者へのサービスの評価について、どのような視点があるのかについて理解できる。	講義
4 5	4	マネジメントに必要な知識と技術 1. マネジメントに必要な知識と技術について学ぶ	1. マネジメントとは 1) マネジメントプロセス 2) マネジメントサイクル 2. 組織とマネジメント 1) 組織構造と組織原則 2) 組織とマネジメントの基本 3. リーダーシップとマネジメント 1) リーダーシップの定義 2) 特性理論 3) 行動理論	1. マネジメントの概要について理解できる。 2. 組織の構造とその原則について整理し、マネジメントとの関連について理解できる。 3. 組織における人間および人間関係についての諸理論について理解できる。 4. 組織の構成員を調整する	講義

			4) 条件適合理論 4. 組織の調整 1) 集団 2) 組織文化 3) コミュニケーション 4) 動機づけ 5) パワーとエンパワメント 6) コンフリクト 7) 変化と変革	要素を、問題解決の方法とあわせて理解できる。 5. 組織のなかにおいて、意思決定などの個人の能力を広げるための要素について理解できる。	
6 7 8	6	多様な場での看護のニーズと実践について学ぶ	1. 国際看護の実際 2. 災害看護の実際 3. へき地医療・看護の実際	1. 多様な場での看護の対象者の理解とニーズの実際を知りキャリア形成の礎となることができる	講義
9	2	医療安全管理 － 1 － 医療安全管理について理解する	1. 認知科学や心理学からの人間のもつエラーの可能性について 2. 看護の仕事の特性とヒューマンエラーについて	2. ヒューマンエラーについて説明することができる 3. 看護師の業務と関連させ、ヒューマンエラーを考えることができる	講義
10	2	医療安全管理 － 2 － 医療安全管理について理解する	1. 国の医療安全対策（厚生労働省の取り組みについて） 2. 組織としての医療安全対策	1. 国の対策に沿った組織での安全対策の関連が理解でき、責任を負うことができる	講義
11	2	医療安全管理 － 3 － 医療安全管理について理解する	1. 「ヒヤリ・ハット」「インシデント・アクシデントレポート」について 2. 原因分析トレーニング方法 3. 臨地実習に関する医療事故防止策 1) 実習生の注意義務と事故発生時の対応 2) 実習生が関わる賠償自己の法的責任	1. 報告義務を理解し、安全のための解決策を導く重要性が理解できる 2. 事故原因の探求の意味を理解できる	講義・演習
12	2	医療安全管理 － 4 － 医療安全管理について理解する	1. リスク感性を養うための危険予知トレーニング 1) リスク感性とは、リスク感性の高め方 2) 危険予知トレーニングの目的、方法、活用	1. 看護場面から事故の可能性を推察し、その根拠を説明できる	講義・演習
13	2	医療安全管理 － 5 － 医療安全管理について理解する	1. 危険予知トレーニング 1) 事例を用いて分析結果と対策を立案する	1. 看護場面から事故の可能性を推察し、その根拠を説明できる	講義・演習
14	2	看護業務上の管理 看護師の業務上の安全について学ぶ	1. 感染の危険性について 2. 医療用機材、医薬品による危険 3. 暴力 4. 労働条件によるもの	1. 業務上の危険と防止策について理解し、実践に繋げる発想が持てる	講義
15	2	単位認定終講試験			

災害看護

開講時期	IV	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験		病院勤務経験有 大阪労災病院勤務 医師	
科目目標	1. 災害直後から支援できる看護の基礎知識について理解する 2. 勤労者を含むあらゆる災害看護の対象者への支援活動について理解する 3. 大規模災害に備えた基本的な実践能力を習得することができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	日頃より災害に関するニュースや動向に関心を持つこと 技術演習の際には事前に自己学習や手順書作成などの準備が必要	テキスト	災害看護学・国際看護学（医学書院） 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 救急看護学（医学書院） 講師作成資料		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
----	----	---------	------	-------	------

1 2 3 4	8	災害看護学-災害および災害看護に関する基礎的知識-① 1. 災害の定義を理解する 2. 災害に対する社会の対応について理解する 3. 災害看護を理解する	1. 災害看護の歩み 1) 救助活動としての災害看護のはじまり 2) 災害の体験から求められる看護の役割の拡大 2. 災害医療の基礎知識 1) 災害の定義 2) 災害の種類と健康被害 3) 災害医療の特徴 4) マスギャザリングとNBC災害への対応 5) 災害と情報 6) 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 7) 災害看護と法律 8) 近年の災害における課題と対策	1. 災害の定義と分類について述べることができる 2. 災害サイクルに対応した活動が理解できる 3. 災害時の社会制度について理解することができる	講義	
5	2	病院における災害活動 1. 医療施設における災害対応について理解する	1. 労災病院の役割・その地域、勤労者への役割 1) 病院における災害への備え初動体制 2) 労災病院の役割・地域での役割	1. 災害時の地域、勤労者に対する労災病院の役割が理解できる	講義	
6 7 8	6	災害看護学-災害および災害看護に関する基礎知識-② 1. 災害時の看護活動について理解する 2. 災害サイクルにおける看護の役割について理解する	1. 災害看護基礎知識 1) 災害看護の定義と役割 2) 災害看護の対象 3) 災害看護の特徴と看護活動 4) 災害看護活動に必要な情報 5) 災害看護活動におけるアセスメント 6) 災害看護場面におけるジレンマ 2. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 3. 被災者特性に応じた災害看護の展開 4. 災害とこころのケア	1. 災害看護の定義と役割を述べることができる 2. 災害サイクルからみた看護の役割を述べることができる	講義	
9 10 11 12	8	地震災害看護の展開 1. 災害時に必要な技術について理解する 2. 災害時に必要な緊急処置の技術を習得する	1. 災害時に必要な技術 1) トリアージ 2) 心肺停止状態への対応 (1) 一次救命処置（BLS）・・・● (2) 二次救命処置（ALS）・・・● (3) 小児の心肺蘇生 3) 応急処置・・・● 4) 搬送法・・・●	1. トリアージの判断基準・分類の定義を述べることができる 2. スタートトリアージが実施できる 3. 一次・二次救命処置が実施できる 4. 救急処置の方法を述べ実施できる 5. 患者の状態に応じた搬送方法を選択することができる	講義 演習	
13 14	4	地震災害看護の展開-救護活動の実際- 1. 災害発生時の実際の場面を想定し災害時における看護技術を習得する	1. 災害時の看護技術を身につける 1) 災害想定シミュレーション 2) 応急救護班の役割 トリアージ・・・● 搬送法・・・● 応急処置・・・● 心肺蘇生法・・・●	<実践評価> 1. 災害時における被災患者の発災直後を想定し、演習を行う 2. 実施者・観察者・被災者役を行い、評価基準に則り評価する	講義 演習	
15	2	単位認定終講試験				●演習

ケーススタディ

開講時期	V・VI	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員	実務経験		有	
科目目標	1. 臨地実習で受け持った症例について、理論に基づいて分析・考察し、その成果を論文としてまとめることができる 2. 自分の意見を他者に伝えるプレゼンテーション力を養うことができる 3. 他者との意見交換を通し、新たな観点・方法論を得て、リフレクションし看護を深めることができる				
評価方法	ケースレポート評価 (計画性・文章校正・発表・リフレクションについての評価表)	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習(予習・復習・課題)	定期的に提出要件あり、計画的に進めること	テキスト	看護学生のためのケーススタディ(メヂカルフレンド社) 看護研究(医学書院)		

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	ケーススタディとは 1. ケーススタディの定義を理解できる	1. ケーススタディとは何かを知る 2. ケーススタディを行う目的を学ぶ 1) ケーススタディの歴史的背景 2) ケーススタディとは何か	1. ケーススタディを行う目的を述べることができる	講義
2	2	看護とケーススタディ 1. 看護とケーススタディの関係を理解できる	1. 基本的看護活動とは 2. 科学的根拠に基づく看護 3. 日常の看護活動 4. 看護学生のためのケーススタディ 5. ケース・レポート作成にあたっての倫理的態度	1. ケーススタディと看護活動の関係を述べることができる	講義
3 4	4	ケーススタディに先立つ看護実践 1. ケーススタディに先立つ看護実践について振り返ることができる	1. 看護実践とケースレポート 2. 倫理的手続きとケースレポート 3. 看護過程と看護実践	1. テーマを決めることができる 2. 論文の骨子をまとめることができる 3. 倫理的配慮を述べることができる	講義 演習
5 6 7 8 9 10 11	14	ケーススタディの企画と準備 1. ケーススタディの企画と準備ができる	1. ケースレポートの企画と準備 2. 看護過程の振り返り 3. 文献検索 4. ケースレポートの作成 1) テーマ 2) 序論 3) 事例紹介 4) 看護上の問題とアセスメント 5) 看護の実際と結果 6) 考察 7) 結論 8) 文献	1. 計画的に指導を受けることができる 2. 抄録の書き方と構成で書き進めることができる 3. 文献の活用ができる 4. 論旨が明らかである	講義 演習
12 13	4	発表会 1. プレゼンテーション力を養う 2. 質疑応答をとおして、互いの意見を討論する	1. ケースレポートの発表会を行う 2. 質疑応答をとおして、互いの意見を討論できる機会とする 3. 新たな観点、方法論を得る 4. 講評をする	1. 集団の中で自己の意見を述べ、他者の意見を客観的に受け止めることができる 2. 互いの意見を討論できる	演習
14	2	リフレクション 1. 学んだことを整理・省察する	1. ケーススタディ、発表会をとおして学んだことを言語化する	1. 学びを言語化できる 2. 自己の課題を明確にできる	講義
15	2	ケース・レポートから研究への展望	1. 研究としてのケーススタディ 2. ケース・レポートから研究へ	1. ケーススタディを研究的視点で発展的に展望を述べるができる	講義

勤労者看護（総合看護技術）

開講時期	V・VI	単位数	1	時間数	30時間
教員名	専任教員 臨床講師	実務経験		勤労者看護領域病棟勤務経験有 大阪労災病院治療就労両立支援センター 保健師	
科目目標	1. 勤労者が健康レベルに応じて健康的に働くことができるよう看護の役割を理解し、健康支援活動の実際を理解することができる 2. 国際社会において日本で暮らす外国人労働者へのヘルスサポートの実際について学ぶ 3. 事業者が労働者と協力して組織的に行う健康支援活動について理解できる 4. 疾病を持つ勤労者の事例に基づき、総合的な看護技術演習を行い、評価及び今後の課題を明確にすることができる				
評価方法	筆記試験 100点	認定基準	60点以上で合格		
時間外学習（予習・復習・課題）	勤労者に関わる動向について調べる こと 総合看護技術演習にて事例展開・	テキスト	勤労者医療概論 授業配布資料		

	技術演習の課題提出あり		
--	-------------	--	--

回数	時間	単元と単元目標	学習内容	課題と評価	授業方法
1	2	勤労者看護の実践者としての役割 1. 勤労者看護の 実践者としての 役割を理解 することがで きる	1. 労災病院の役割機能 2. 勤労者医療を推進する組織での看護師の役割	1. 勤労者看護とは、勤労者看護の対象範囲働く人の労働と健康の関連を述べることができる	講義
2 3	4	勤労者である看護師のヘルスアセスメント 1. ワークライフバランス、キャリア、THPの進め方、労働に関連する制度や法律が理解できる	1. 看護師の健康管理対策 1) 職場における様々な制度と法律 2) ワークライフバランス 3) キャリアを考える 4) トータル・ヘルスプロモーション・プラン (THP)	1. 仕事と生活を両立させるトータル・ヘルスプロモーションについて考えることができる 2. 労働に関連する制度や法律について理解できる	講義
4 5	4	国際社会において外国人労働者のヘルスサポート 1. 在日外国人への看護の実際を理解することができる 2. 国際保健活動の看護領域の場について理解できる	1. 国際的視野を持つことの意味 2. 異文化理解と国際看護活動 3. 在日外国人に対する保健医療福祉問題解決のフレームワーク 4. 看護師の外国人患者対応の現状と課題 5. ヘルスサポートの実際	1. 国際的な視野を持つことができる	講義
6 7 8	6	総合看護技術演習① 1. 勤労者の健康状態をアセスメントし、職業と健康のつながりを理解し、実践可能な看護計画を立案することができる	1. 疾病をもつ勤労者の看護過程 1) 疾病をもつ勤労者の4事例をもとに、勤労生活と健康問題との関連性を理解する 2) 勤労者看護の視点でアセスメントし、看護過程を展開する	1. 勤労者看護アセスメントツールを用いて、対象の健康問題と勤労生活との関連性を理解し、看護計画を立案することができる 2. 早期社会復帰に向けた看護の重要性を述べるができる	講義 グループワーク
9 10 11	6	総合看護技術演習② 1. 看護技術を提供する上で必要とされる臨床実践能力を統合的に活かすことができる	1. 疾病をもつ勤労者の看護実践（基本） 1) 疾患と経過から必要とされる看護技術を抽出し、事例の対象に合わせた技術のポイントや安全・安楽に 配慮した技術を実施する……………●	1. 看護技術を支える要素 (1.医療安全の確保 2.患者及び家族への説明と助言 3.的確な看護判断と適切な看護技術の提供)を踏まえた看護援助が提供できる 2. 看護実践を管理的側面で述べるができる	演習
12 13 14	6	総合看護技術演習③ 1. 複数の事例患者に必要な看護を包括的に捉え、判断する思考プロセスを明確にすることができる	1. 疾病をもつ勤労者の看護実践（応用） 1) 事例の中から2事例を抽出し、複数受け持ちの状況 を作成し、必要な看護計画を立案する 2) 判断の根拠、優先順位を明確にして看護場面をシミュレーションして自己の課題を見出す……………●	1. 事例の経過から重要な情報を収集・分析し、長期目標・短期目標を設定できる 2. 複数の事例患者のケアの優先順位と時間配分の根拠を判断し計画することができる 3. 複数患者の反応を基に実施した看護ケアと優先順位を評価することができる	演習
15	2	単位認定終講試験			